

をかゝる習慣と嗜好とに適應せしめるならば、彼等が市場に齎らし得る總てのものに對し、所謂供給過剩又は多量の貨物に於ける利潤の下落の可能性を妨げる如き、需要を、確實に見出し得るか否か、といふことである。異なる嗜好と習慣との下に於いて何事が起るであらうかといふことは、全然異なる問題である。

(消費の嫌忌は決してなく、嫌忌は生産の方だけである、とも云はれてゐる。併し、極めて大いに生産しそして消費を節する親方製造業者や商人の嫌忌は何であるか？ 自分の消費の爲めに貨物を購置せんとの彼等の意思は、彼等の能力に比例してゐるか？ 彼等が其の資本を使用することは、明かに、彼等の意思が生産するにあつて消費するに於いては、證示してはゐないか？) そして事實上、若し凡ゆる國に、自分で生産したものの價值までの額を消費するのを嫌忌しない何人かがゐないならば、國民的資本は凡そ如何にして増大せられ得るであらうか？)

前記の諸論者の第三の極めて重大な且つ實際上三つの中で最も重大な誤謬は、蓄積は需要を保證するといふこと、又は貯蓄をその目的とする者によつて使用せられる労働者の消費は、生産物の繼續的増大を刺戟する如き、貨物に對する有效需要を、創造するであらうといふこと、を想像するにある。

リカアドウ氏は曰く、『若し年々一〇〇、〇〇〇磅を得つゝある人に一〇、〇〇〇磅が與へらるるとするならば、彼はそれを金庫の中に仕舞ひ込まないで、或は一〇、〇〇〇磅だけ彼れの支出を増加するか、或はそれを彼自身で生産的に使用するか、或はその目的の爲めにそれを或る他人

に貸付けるかであらう。何れの場合に於いても、假令需要は異なる目的物に向ふであらうが、兎も角も需要は増加するであらう。若し彼が彼れの支出を増加するならば、彼れの有效需要は、恐らく、建物、家具、又はこれに類したる或る享樂品に向ふであらう。若し彼が彼れの一〇、〇〇〇磅を生産的に使用するならば、彼れの有效需要は、食物、衣服、及び粗生原料品に向ひ、これ等の物は新しい労働者達を仕事に就かしむるであらう。而もなほ、これは需要たるに變りはない。』(註)

Princ. of Polit. Econ. chap. xxi. p. 361. 2d edit. (譯者註——前掲譯書、三一四頁)

この原則によれば、若し社會のより富める部分が、蓄積の目的を以て、彼等の習ひとなつてゐる便宜品及び奢侈品を見合すとすれば、その唯一の結果は、國の殆んど總資本を必要品の生産に向けることであり、それは耕作と人口との大なる増大に導くであらう、といふことが、想像せられてゐる。(併しこれは正に、リカアドウ氏が明かに、普遍的供給過剩の起り得ようことを認めた場合である。蓋し疑ひもなく、現存の需要に對し十分であるより以上の必要品が生産されるであらうからである。併し乍らかゝる事態は繼續し得ないであらう。蓋し、下落が生ずるので、耕作は妨げられ、そして蓄積は其の進行を抑制されるであらうからである。)(併し、蓄積への通常の誘因が全く變つて了ふことを想像することなくしては、このことは恐らく起り得ないであらう。蓄積の爲めの通常の誘因は、思ふに、蓄積を爲す個人の將來の富又は享樂であるか、又は彼がその財産を遺さうと思ふ者のそれである。そして誘因はかくの如きものであるから、土壤が支持

し得る殆んど總ての勞働者を耕作に使用することは、土地の所有者には決して割に合ひ得ないであらう。蓋し彼は、かくの如くすることによつて、必然的に彼れの純地代を破壊し、そして、後に彼れの勞働者の大部分を解雇し且つ最も恐るべき慘苦を惹起することなくしては、彼自身に將來の遠い時期により大なる享樂の手段を與へるか、又はかゝる手段を彼れの子孫に譲ることを、彼にとつて不可能ならしめるであらうからである。】

R註　こゝで論ぜられてゐる問題は、蓄積の誘因に關するものである——それは今争はれてゐる問題ではない、吾々は單に蓄積の結果を論じてゐるのみである。これ等二問題の間には極めて顯著な區別がある。

【肥沃な土地といふことの（R註）定義は正に、それを耕作するに必要なよりも遙かにより多數の者を支持すべき土地といふことである。そして若し地主が、この剩餘を、便宜品、奢侈品及び不生産的消費者に支出せずして、彼れの貯蓄が支へ得る限り多數の勞働者をこの土地で働かすにそれを使用するとすれば、彼は、最初にも又將來でも、このことによつて富む代りに貧しくなるであらうことは、全く明かである。蓄積の爲めの異なる誘因に非ざれば、かゝる行爲を正當化し得ないであらう。それはすなはち、人口を増大せしめんとの願望である——富及び享樂の愛好ではなくして。そしてかゝる變化が人類の情熱と性向との中に起る迄は、吾々は、地主と耕作者とは勞働者をかくの如く使用し續けるものではないと、確信し得よう。】

R註　この總てに私は同意するが、併しそれは今の問題とは無關係である。

【然らば何事が起るであらうか？　地主と耕作者とが、彼等の増加し行く生産物を、將來に於いて彼等に富を支配せしめるが如き何等かの仕方、實現し得ないことを、見出すや否や、彼等はより以上の勞働を土地に使用することを止めるであらう（一版註）。そして若し社會の中粗生生産物の生産に従事してゐない部分の仕事が、單に其の他の簡単な生活の必需品の調製にあるに過ぎぬならば、この目的の爲めに必要な數は取るに足らぬ故に、土壤の支持し得る者の殘部は解雇せられることとなるであらう。粗生生産物が最初に如何に豊富であらうとも、其の一部分を合法的に需要する手段を有たないので、彼等は漸次にその數を減少するであらう。そして土壤の生産物に對する有效需要の不足は、必然的に耕作を減少せしめ、そして更に、多數の者を失業せしめるであらう。この作用と反作用とはかくの如く進んで行き、終に生産と消費との平衡が、打樹てられた新たな嗜好と習慣とに關して、恢復せられるに至るであらう。そして】（從つて）商業、製造業、及び（個人的奉仕）【不生産的消費者】を奨勵すべき支出【又は蓄積の爲めの通常の誘因を變へるに至る土地法】がなければ、土地の所有者は良く耕作する爲めの十分な刺戟を有たないことになるのは、明かである。そして富み且つ（R註）人口の多かつた我國の如き國は、かゝる節儉的習慣を得て、確實に貧しくなり且つその人口を減少するであらう。

一版註　經濟學に於ける理論家は、貨幣に過大の重要性を附するが如く見えんことを恐れて、恐らく、彼等の推理に於いて、それを餘りに彼等の考察外に驅逐し過ぎてゐる。吾々が貨物を欲求し、貨幣を欲求しないといふのは、抽象的眞理である。併し實際上は、それに對し吾々の財貨を直ちに賣り得べき如何なる貨物も、流通媒介物の適當な代用物ではあり得ず、又吾々をして、これと同様に、子供等に衣食を給し、地所を買ひ又は勞働及び今後一二年の食料品を支配し得せしめるもの

ではない。流通媒介物は或る大なる貯蓄には對比的に必要である。そして製造業者ですら、若し彼がその労働者の體ての勞賃を實物で蓄積するを餘儀なくされるならば、單に運々とやつて行くに過ぎぬであらう。従つて吾々は彼がその他の財貨よりは寧ろ貨幣を要求するのに驚くことは出来ない。そして文明諸國に於いては、若し農業者又は製造業者が、彼れの生産物を、彼に貨幣で測定された利潤を與へる程に、販賣し得ないならば、彼れの産業は直ちに衰へるであらう。流通媒介物は富の分配及び産業の獎勵に於いて極めて重要な役割を荷ふものであつて、爲めに吾々の推理に於いてそれを除外することは、屢々吾々を誤らしめることとならう。(譯者註——この註は第二版では、末尾に若干の訂正を加へられた上で、所を異にして現れてゐる。次の二版註を参照)

R註 これは、欲求がかくの如く限られてゐれば、節儉及び蓄積への誘因は何もないから、節儉及び蓄積はなく、従つてかゝる節儉的習慣を有つ國は貧しくなり且つその人口を減少するであらう、と云ふことである。

(この)【同一の種類】²推理は明かに前に指摘した場合に當てはまるであらう。農業者が、製造業者によつて生産せられたる奢侈品を、消費せんとし、且つ製造業者が、農業者によつて生産せられたるそれを、消費する氣である限り、萬事は滑かに進むであらう。併し若し當事者の一方か兩者かが、彼等の境遇を改善し、そして將來彼等の家族に衣食を給せんが爲めに、(大いに)貯蓄する氣であるならば、事態は極めて異なることとなるであらう。農業者は、リボンやレイスや天鵞絨に耽溺することなく(R註)、簡単な衣服を以て満足せんとするであらうが、併しこの節約によつて(R註)、彼は、製造業者が彼れの生産物の同一量を買入れるのを不可能にするであらう。そして土地に使用せられ且つ總て生産力に於いて大いに増大せられたそれだけの労働の果實に對

しては、明かに市場がないことになるであらう。製造業者も同様にして、砂糖や葡萄や煙草に耽溺することなく、將來を考へて貯蓄しようとしもしようが、併し農業者の節儉と製造品に對する需要の除去との爲めに、全然さう爲し得ないことであらう(二版註)。

註 Edinburgh Review, No. LXIV, p. 471.

R註 その通り、併し製造業者の労働者は、それを、又は代りに作られる何かを、購買しないであらうか?

一版註 有能な且つ才能に富む人の述べた意見で私が嘗て出會つた總ての中で、消費され又は破棄された生産物は閉ぢられた出口であると述べてゐるセエ氏の意見(L. I, ch. 15)は、私には、正しき理論に最も正反對であり、且つ經驗に最も萬遍なく反するものと、思はれる。併しこの新學說からすれば、直ちに、貨物は相互の關係に於いてのみ考察せらるべきであり、——消費者に對する關係に於いては考察せらるべきでない、といふことになる。私は問ひ度い、若しパンと水とを除く一切の消費が次の半年間停止されたならば、貨物に對する需要はどうなるであらうか? 何たる貨物の蓄積! 何たる出口! このことは何と尨大なる市場を齎らすことであらうか!

二版註 經濟學に於ける理論家は、貨幣に過大の重要性を附するが如く見えんことを恐れて、恐らく、彼等の推理に於いて、それを餘りに彼等の考案外に驅逐し過ぎてゐる。吾々が貨物を欲求し、貨幣を欲求しないといふのは、抽象的眞理である。併し實際上は、それに對し吾々の財貨を直ちに賣り得べき如何なる貨物も、流通媒介物の適當な代用物ではあり得ず、又吾々をして、これと同様に、子供等に衣食を給し、地所を買ひ又は労働及び今後一二年の食料品を支配し得せしめるものではない。流通媒介物は或る大なる貯蓄には絕對的に必要である。そして製造業者ですら、若し彼がその労働者の體ての勞賃を實物で蓄積するを餘儀なくされるならば、單に運々とやつて行くに過ぎぬであらう。従つて吾々は彼がその他の財貨よりは寧ろ貨幣を要求するのに驚くことは出来ない。そして文明諸國に於いては、若し農業者又は製造業者が、彼れの

生産物を、彼に貨幣で測定された利潤を與へる程に、販賣し得ないならば、彼れの産業は直ちに衰へるであらう。流通媒介物は富の分配及び産業の奨励に於いて極めて重要な役割を荷ふものであつて、爲めに吾々の推理に於いてそれを除外することは、殆んど常に安全ではなく、そして、毎年實際可變量の穀物を代表する一定分量の貨幣に代へて一定分量の穀物及び衣服の前拂を規定することによる例證に於ける總ての企ては、必らずや吾々を誤らしめるのである。(譯者註——直前のパラグラフに於ける一版註を参照)

普通の食物及び普通の衣服の或る程度までの蓄積は、雙方の側に起り得ようが、併しその額は必然的に極度に限られなければならぬ。單に自分の労働者達に食物及び衣服を與へんが爲めに自分の土地を耕作し続けることは、農業者には何にもならぬことであらう。若し彼が彼等の生産せるものの剰餘を自ら消費することもなく、又それを彼れの子孫に譲り得べき形に實現することをも得ないならば、彼は自分自身の爲めにも又は家族の爲めにも何事をもしてゐないことになるであらう。若し彼が借地人であるならば、かゝるより以上の配慮と労働とは全然拋棄されるであらう。そして若し彼が地主であり、そして市場に對する考慮なしに、彼れの土地をして將來の爲めに最大の純剰餘を産ましめる様にそれを耕作する決心であるならば、彼れ(の家庭)「自身」の消費の爲めか、又は彼自身及び彼れの労働者に衣服を買ふ爲めかに必要な、この剰餘の大部分が、絶對的に浪費されるであらうことは、全く確實である。若し彼がそれを奢侈品の購買又は(個人的奉仕)「¹生産的労働者」の支持に用ひることを選ばないとすれば、それは海中に投ぜられても矢張り良い譯であらう。それを貯蓄すること、すなはちそれをより多くの労働者を土地に

使用することに用ひることは、「¹前述せる如くに」彼自身をも彼れの家族をも貧しからしめることであらう。」(り、²そして將來の時に、後戻りして彼れの労働者の半ばを解雇することなくしては——彼等は其の労働が最早欲求されない時には餓ゑるであらうか——多くの自由にし得る生産物を彼れの土地から獲ることを、不可能ならしめるであらう。)

製造業者にとつては、農業家及び彼自身の欲求する所以上に衣服を生産し続けることは、更により無用であらう。彼等の數は實際全然農業家の需要に依存するであらう、蓋し彼等は、彼等の製造品の有償欲求があるに比例してより以外に、生活資料を購買する手段を有たないからである。良き機械の助力を得てかゝる社會に簡単な衣服を給するに必要な人口は、少數であり、そして富み且つ良く耕作された土地の正當な剰餘の一小部分しか吸収しないであらう。従つて(註)明かに、生産物及び人口の兩者に對し、需要の一般的缺乏があることになるであらう。そして生産力は如何にもあれ、消費に對する適當な情熱が供給と需要との間の正當な比例を十分に維持し得べきことが全く確實であるのに、蓄積に對する(過度の)情熱は不可避的に貨物の供給を導いてかかる社會の構造と習慣とが(有利に)消費せられることを許す以上に至らしめずには措かぬことは、全く同様に確實なことであると思はれる(註)。

R註 特別の缺乏は人口の缺乏であらう。マルサス氏は曰く、「單に自分の労働者達に食物及び衣服を與へんが爲めに自分の土地を耕作し続けることは、農業者には何にもならぬことであらう、若し彼が彼等の生産せるもの、剰餘を自ら消費することもなく、又それを彼れの子孫に譲

り得べき形に實現することをも得ないならば。」(譯者註—これはこの前二番目のパラグラフ)人口の不足以外の何が、彼がそれを彼れの子孫に譲り得べき形に實現するのを、妨げ得ようか。私は一千クヲタアの穀物を所有する農業者であり、そして私の目的は財産を私の家族の爲めに蓄積するにある。この穀物を以て私は一定数の人間を私が賃借した土地で使用し、そして第一年に私の地代を支拂つた後に一三〇〇クヲタアを又は三〇〇クヲタアの利潤を實現することが出来る。翌年に、若し市場に豊富な労働があるならば、私は前よりもより多量を使用することが出来る。そして私の一三〇〇クヲタアは一七〇〇クヲタアとなり、かくして年々私は分量を増大し続け、終に私はそれを一萬クヲタアにし、そして若し労働が同一の価格にあるならば、私が操作を始めた時に支配し得た十倍の分量を支配することが出来る。その時には私は財産を私の家族の爲めに蓄積してはゐないか？ 私は、彼等が好む様に労働を使用しそして其の果實を享受するの能力を、彼等に與へてはゐないか？ そして、労働の價格の増大、又は土地の生産力の減少を除いて、何が私が然らざるのを妨げることになるか？ 後者に就いては吾々は既にこれを論じた。それは必然的に總ての蓄積に限界を與へる。労働の價格の増大に就いても亦私はこれを論じた。若し人口が資本と歩調を共にしないならば、労働は騰貴し、そして私が年々獲得すべき穀物の分量は、一〇〇〇、一三〇〇、一七〇〇、等の比例では増大せずに、私が必要な労働を獲得する爲めに犠牲を拂はざるを得ないので、私の資本を單に一〇〇〇、一二〇〇、一三〇〇、等の比例で増大せしめるに過ぎなくなるであらう。然らば私の蓄積がおそい歩調で進行する正確な理

由は、労働の稀少があるからである。然らばマルサス氏は如何して、「生産物及び人口の兩者に對し、需要の一般的缺乏があるであらう」と見えしめ得るか？ マルサス氏は實際、私の操作は、現實の人口を養ふに必要なよりもより急速に穀物の分量を増大せしめるであらう、と云ふかも知れない。私はそれを認めるが、併し若し私の目的が蓄積にあるならば、何故に私は特別に穀物を生産しなければならぬのか、何故に需要せられてゐる或る他の貨物を生産してはならぬのか？

註 讀者は既に、私が、機械の永續的結果に關するオウイン氏の危懼を共にするものでないことを、知つてゐる筈である。

併し私は斷乎として、この點に關しては、彼は、最もよい論議を、蓄積は有效需要を保證すると考へる者に對して爲してゐる、といふ意見である。

併し若しこのことがさうであるならば、確かに、支出に對する情熱と蓄積に對する情熱とを、恰かもそれ等が同一性質のものであるかの如くに、繋ぎ合はせ、そして生産的に使用せらるべき労働者の食物及び衣服に對する需要を以て、土壤の力と人間の才能とを、粗生産物及び製造生産物の兩者の最大の分量を獲得する爲めに、適當に喚起するであらう如き、貨物に對する一般的需要とその生産に使用された資本に對する利潤率とを、確保するものと考へるのは、極めて重大な誤謬である。

【リカアドウ氏の利潤に關する見解を採用してゐる者によつて恐らく次の如く問はれるかも知れない、——人口が單に需要の缺乏によつて妨げられる時には、生産せられたるものの分割はどうな

るのか？ 生産力は衰へ始めてはゐないことは認められてゐる。而も若し労働が多量に生産し而もその支拂はれる所は少いとすれば、利潤は高くなければならぬと云はれるであらう。

【私は既に前章に於いて、資本の原料の價值は、極めて屢々、資本の生産物の價值の下落に比例して下落するものではないことを、述べたが、このことはそのみで屢々低き利潤を説明するであらう。併しかゝる考慮を別にしても、必需品以外の或る貨物の生産に於いては、理論は全く簡單であることは、明かである。需要の缺乏の爲めに（R註）、かゝる貨物の價格は極めて低くなり、生産せられた全價值の中大きな部分は、労働者に歸屬するであらう、假令労働者は必需品に於いては支拂はれる所は少く、そして彼れの勞賃は、彼が受取る食物の分量に關しても、又それを生産するに必要な労働に關しても、決定的に低いであらうとはいへ。】

R註 資本を蓄積せんとの大きな願望がある。これが假定である。その結果は、マルサス氏によれば、労働者は『支拂はれる所は少く、そして彼れの勞賃は、彼が受取る食物の分量に關しても、又それを生産するに必要な労働に關しても、決定的に低いであらう』といふことである。これはかう云ふことである、すなはち、私は私の収入から資本を蓄積しようと思んでゐる——若し私が私の収入を資本として使用するならば、私は労働者を欲求し、労働者は豊富に生産することが出来、而も彼は自分の生産する貨物で支拂はれる所は少く、そしてその上に又、私は大きな利潤も得なければ、富むことも出来ないであらう、といふのである。

【若し、この假定によれば（R註）、製造生産物の價值の中大きな部分は勞賃に吸収されるが故に、

利潤の下落の原因は高き勞賃であると主張せられ得よう、と云はれるならば、私は確かにかくも明かな用語の濫用に抗議しなければならぬ。新しい用語を採用し、又は古い用語を新しい意味に用ひる、唯一の正當な根據は、讀者により正確な内容を傳へるといふことである。併しこの場合、貨物の下落ではなく、高き勞賃がその原因だといふことは、恰かも論者の特別の目的が、彼れの讀者を、眞實の事態に關して、出来るだけ闇黒の中に置いておかうとするにあるかの如く、振舞ふことにならう。】

R註 假定された事情の下に於いては、労働者は最後の土地に於いて生産せられた穀物の大きな比例を得るか、又は製造業者によつて造られた財貨の大きな比例を得ないかであらう。最後の土地に於ける農業者は穀物の製造業者であり、彼は地代を支拂はない。製造業に於いて親方と労働者との間に如何なる比例で生産物が分たれようと、農業の生産物たる穀物も同一の比例で分たれるであらう。

労働はその一方で高くその他方で低いことはあり得ず、利潤も亦同様である。私は労働は兩者に於いて高いであらうと思ふ——併しマルサス氏は、労働者は貨物でよい報酬を得てゐるかとして、其の勞賃を高いと呼ぶのに抗議してゐる。扱てマルサス氏からはかういふ反對論が爲され得べきではない。彼からは吾々は次の如きことを云はれる筈はない、『これは古い用語を新しい意味に用ひ、又は新しい用語を採用することであり、そして論者の特別の目的が、彼れの讀者を、眞實の事態に關して、出来るだけ闇黒の中に置いておかうとするにある、との觀

念を與へるであらう。』私はマルサス氏はかういふことが出来る筈はないと云ふが、蓋し彼は吾に、貨幣勞賃は單に名目勞賃に過ぎず、そして勞働の眞實勞賃は、この勞賃が勞働者をして支配し得せしめる必需品及び便宜品の分量から成る、と告げてゐるからである。眞實價值を構成するものがこれ等の便宜品及び必需品であり、そしてそれ以外の凡ゆる物は名目的である、といふことは事實である。然らば私は眞實價值では勞働者はよい支拂を受けてゐることを見出す、そこで私が彼れの勞賃はその故に高いと云ふと、マルサス氏は重々しく、私が用語を、誤解させ當惑させる以外の効果のあり得ない新しい意味に用ひてゐる、と私に告げるのである。この場合に私がマルサス氏の尺度を採用してゐると想像されてはならない、勞賃は彼れの尺度でも私の尺度でも高いのである。勞働者は生産物の大きな比例を受取るであらう、従つて私は彼れの勞賃は高いと云ふ。彼れの勞賃は、貨幣が價值に於いて變動してゐない限り、貨幣に於いて高いであらう、蓋し、農業者及び製造業者を誘つて彼等の貨物で高い勞賃を與へしめた同一の原因は、貨幣の所持者を誘つて、彼れの所持品で高い勞賃を與へしめなければならぬからである。貨幣、穀物、及び製造業者(譯者註—製
造品の誤記?)が相對價值に於いて變動するといふ十分な理由は何も與へられてゐない。

【併し乍ら必需品の生産に於いては、この問題の解答は前の場合と全く同じ程簡單である譯ではないが、併しそれも亦十分明瞭になされ得ようことが、認められるであらう。リカアドウ氏は、土壤の消耗とは關係なく、社會の限られた欲求により生ずる、土地への資本の使用に對する限界があ

り得ようことを、認めてゐる。假定された場合に於いては、この限界は極めて狹隘でなければならぬが、それは蓋し、農業者の外には、生産物に對する有效需要をなす人口は比較的でないであらうからである。かゝる事情の下に於いては、(註)穀物は生産せられるかも知れぬが、それは富たるの性質と品質とを喪失することであらう。そして私が前に述べた如くに、同一の生産物の全部は同一の價值を有たないであらう。使用せられてゐる勞働者はどうか可成りの食物を得ることが出来るよう、——これは、勞働者が農業者によつて食を給せられる場合には、屢々事實であるが、(註)併し彼等の成人した息子達には仕事又は食物は殆んどないであらう。そして市場が變動し收穫が變動するので、生産物の分割に従つて農業者の利潤が最高であるべき正にその時に、換言すれば、勞働者に支拂はれた以上に出づる生産物の超過が比例的に最大である時に、農業者の利潤は最低であることにもならう。勞働者の勞賃は一定の點以下には下落し得ない、併し生産物の一部分は供給の過剰の爲めに、一時的には絶對的に無用であり、且つ永續的にはそれは唯最低の利潤を産み出すに過ぎざる程に競争によつて下落するであらう。】

R註 富たるの性質を喪失すべき穀物が生産せられ得よう！ その時にはそれは極度に低廉であらう。製造業者(譯者註—製
造品の誤記?)に比較して低廉であり、勞働に比較して低廉であらう、而もマルサス氏は勞賃は決定的に低いであらうと云ふ。何に於いて低いのか？ 彼れの價值の眞實尺度たる穀物に於いては、(譯者註—本節の初めより
第十三番目のパラグラフ)三五七頁を見よ。

一版註 ノルウェイ及びスウェデンに於いては、特にその前者に於いては、農業勞働者は、農業者の家庭で生活するか、又

は勞賃の代りに割當てられた一筆の土地を有つので、假令勞働に對し殆んど需要がなく、かゝる職に大きな競争があつても、彼は一般に可成りによく食を得てゐる。かゝる事情にある國に於いては（※）として世界中にはかゝる國が多くあるが、その獲得に消費された所以上に出づる生産物の超過に對し屢々殆んど又は全く市場がない時に、この超過で利潤を評量しよと企てることは、全く無益である。萬事は明かに處分し得る生産物の交換價值に依存する。

【私は更に云ひ度い（R註）、若し、穀物に對する需要の減少の結果として、耕作者が、彼等の供給を正當な支拂を得ることの出来る分量により、よく比例せしめる様に、彼等の資本を引去るとしても、而も若し彼等が引去つた資本を何等か他に使用し得ないならば、——前の假定によれば彼等はこれを使用し得ないのであるが——假令彼等は一時の間は、彼等が依然引續き農業に使用してゐる小さな資本の相應の利潤を得ることは出来ようとも、耕作者としての彼等に對する結果は、如何なる意圖や目的を以てして、彼等の全資本に對し一般的下落が起つた場合と同一であらう、といふことは確實である。】

R註 農業者は彼等の資本を土地に使用する以外に使用方法がないとマルサス氏は云ふ——私は、土地ではそれは利潤を産出さないから彼等はそれを他の方途に使用するであらう、と主張する。資本家か勞働者かど勞働の生産物を需要する權利を有つであらう。彼等が必要するものは生産されるであらう。

若し貯蓄の過程に於いて（R註）、資本家の喪失せる總てが勞働者によつて利得せられるならば、富の増進に對する妨げは、リカアドウ氏の述べる如くに、單に一時的に過ぎないであらう。従つ

てその結果は危惧するに及ばない。併し若し、或る點以上に押し進められた収入の資本への轉換が、生産物に對する有效需要を減少することによつて、勞働階級を失業せしめるならば、（或る點以上に）【過度に】節儉的習慣を採用することは、最初は最も悲惨なる結果を伴ひ、且つ（後には）【永續的には】富と人口との顯著なる減退を伴ふであらうことは、明かである。

R註 こゝではマルサス氏と私との意見の相違が見事に述べられてゐる。讀者は何れの側に眞理があるかを判断しなければならぬ。

勿論、節儉、又は消費の一時的減少ですら（註）、屢々富の増進に最高度に有用にして且つ時に絶對的に必要なるものではない、と云はうといふつもりはない。一國家は確かに浪費によつて滅亡され得よう。そして現實の支出の減少は實にこの故に必要なであらう許りでなく、更に一國の資本が、其の生産物に對する需要に比較して、不足してゐる時には、そのみが將來に於ける消費の増大の手段を與へ得る所の資本の供給を爲さんが爲めに、消費の一時的節約は必要である。（主張せられたる）【私が云はうとする】總ては（R註）、如何なる國民も、消費の永續的減少より生ずる資本の蓄積によつては、恐らくは富み得ない、といふことである。蓋し、かゝる蓄積は生産物に對する有效需要を充たす爲めに要する程度以上に著しく出づるものであるから、其の一部分は極めて程なく其の用途も其の價值も失つて了ひ、そして富たるの性質を有たなくなつて了ふであらうからである。

註 節儉（R註二）又は収入の資本への轉換は、若し収入が先づ増大するならば、何等の消費の減少なくしても行はれ得よ

R註一 収入からの資本の増大とは、不生産的労働者に代へて生産的労働者による消費の増大のことである。消費はその何れに於いても同様に確實であり、相違は單にその代償たる生産品の分量であるに過ぎない。

R註二 私はそれは常に何等の消費の減少もなくして行はれると云ふ。マルサス氏はこの命題に『若し収入が先づ増大するならば』といふ條件を附してゐる。私はマルサス氏が何の何を云つてゐるのかわからない。——若し収入が先づ増大するならば。何の前にか？

【實に既與の消費を前提すれば、或る點以上に出づる資本の蓄積は、全く無益であることが直ちにわかる筈である。併し、貨物が豊富且つ低廉なる爲めに労働階級の間になる様に思はれる消費の増大を考慮に入れても、而もこの低廉は利潤を犠牲にしてのものでなければならぬから、蓄積の誘因の極めて急速な減少を伴はざる如き、節儉による資本の増大、に對する限界は、極めて狹隘であり、且つ極めて容易にそれは越されて了ふことは、明かである。】

利潤の率と資本の増進とを左右する法則は、勞賃の率と人口の増進とを左右する法則と、極めて顯著に且つ奇妙に類似してゐる。

リカアドウ氏は極めて明かに、最も好都合なる事情の下に於いても、労働者の食物を獲得する困難の増大によつて、利潤率は下落しなければならず、そして蓄積の増進は終には停止しなければならぬことを、證示してゐる。私も同様に、私の『人口原理論』に於いて、土地の現状に於いて

て生ずると恐らく想像され得る所の耕作に最も好都合なる事情の下に於いても、生活資料を獲得する困難の増大によつて、労働者の（眞實）勞賃は（徐々として）より乏しくなり、そして人口の増進は終には停止するであらうことを、證示せんと努めたのである。

併しリカアドウ氏は（R註、右に述べた主張を證明することを以ては満足しなかつた。彼は、労働者の食物を獲得する困難が利潤の下落の唯一の絶對的必要原因であること——これは私が十分且つ完全に彼に同意せんとするものである——を證示することを以て満足せず、彼は更に語を續けて、現實の事態では何等かの程度の永續性（三版註）を有する利潤下落の他の原因はない、と云つてゐる。この後の叙述に於いて、彼は、若し私が妨げられざる人口の力は有り得る最も好都合な状態の下で食物を生産する土地の力よりも比較にならぬ程より大であることを證示した後に入口の増進に比肩する土地の力が極度に用ひられぬ限り人口は過剰になり得ないことを認めたらば、私が陥る筈であつたと、正に同一種類の誤謬に、陥つてゐる様に、私には思はれる。併し私は終始一貫、假令人口が、土地面積及びかゝる土地がより以上の生活資料を生産する力に比較して、不足であり、又大いに不足であることが、最も正當に考へられ得ようとも、それに對する需要及びそれを支持する現實の資料に比較して、それは過剰であり、又大いに過剰であり得ようことを、かゝる場合には、人口の不足が認められ又それを大いに増加せしめることが明かに望ましいにも拘らず、労働に對する需要とそれに正當に支拂をなす手段とがなくて、より多くの子供の出生を直接に奨励する結果は、單に窮乏と死亡との増加であり得るに過ぎず、終局的の人口の増

大は殆んど又は全く伴はない故に、かゝる奨励は無用であり且つ愚かであることを、述べたのである。

R註 私は利潤は總ての場合に於いて勞賃に依存すると云はなかつたか、そして私が可成りの期間續く高い勞賃と又その時期とに就いて食物獲得の困難以外の他の原因を認めてゐたことを證示する爲めに、私は確信を以て讀者が私の勞賃に關する章を見られんことを乞ふ。

二版註 この語の意味は、通常利潤と呼ばれるべき程度の永續性のことである。

(撰て)【²リカアドウ氏は(R註)極めて異なる道程を採つてゐるけれども】同一種類の推理が、利潤の率及び資本の増進にも適用されるべきである、と私は考へる。資本の不足でない國は地球の四方には殆んどなく、そしてその大抵の國に於いては領域及び人口にすら比較しても極めて大いに不足であることを、十分に認めた上で、又同時に資本の増加が極度に望ましいことを十分に認めたと上で、貨物に對する需要(の狀態)が生産者に(通常利潤よりも遙かにより、少い)【相應な】利潤を與へるが如きもので(あり)【はなく】、そして資本家が何所で且つ如何にして彼等の資本を有利に使用せんに當惑してゐる場合には、かゝる資本に更により、以上加へんが爲めの收入よりの貯蓄は、單に、時期に至らざるに、蓄積への誘因を減少し、且つ更により、以上進んで資本家を苦境に陥れる傾向があるに過ぎず、而も健全な且つ有效な資本の増加を殆んど伴はないであらう、と私は云ひ度いのである。

R註 こゝで又も、資本は不足し、人口は豊富となり、従つて勞賃は低いこともあらうが、而も

資本の使用は貨物の生産者に相應な利潤を伴はないであらう、と云はれてゐる。

マルサス氏がこの場合低い勞賃と云つてゐるのが何であるかを聞けたら嬉しいと思ふ。私は、多くの場合に於いて、若し勞賃が殆んど又は全く働かない者に支拂はれるならば、名目的には低くとも、それを高いと呼ぶ。

若し私が、資本が生産者に何等の利潤をも産出さない時にそれを蓄積し続けることが望ましいと云つてゐたのであるならば、この攻撃には若干の根據があり得よう。それは資本家にとつて望ましくないことであるが、併し國にとつてはそれは決して有害ではない——過大の生産に不平を云ふのは過大の空氣や水に不平を云ふのと同じに理窟に合はぬことであらう。私はかゝる事情の下に於いては資本は蓄積されないのであらうと云ふ。

【資本の不足と(R註)人口の不足といふ】これ等の兩方の場合に於いて(資本と人口との増大に先立つて)必要とせられる【第一の】ものは、貨物に對する有效需要であり、すなはち貨物に對し適當の價格を支拂ふ能力と意思とのある者の需要である。そして高い勞賃が人口の増大を伴ふことが確實な程には、高い利潤は資本の増大を伴ふものではないが、而も外見よりは一般的に伴ふもの(である)ことが見出されるであらう、【と私は信ずる、】蓋し多くの國に於いては、【私が前に暗示した如くに】利潤は屢々それが實際は低い時に、金利が高い爲めに、高いものと考へられるからであり、又蓋し普遍的に、資本の使用の危険は、低き利潤と正確に同一の、蓄積せんとする誘因と蓄積の報酬とを減少せしめるの、影響を有するからである。同時に、浪費の決心と貯

蓄積の決心とは、利潤を永續的に高くしておくであらうことが、認められるであらう。最も有力な刺戟物も特殊な事情の下に於いてはおさへられ得よう。而もなほ、資本の増大に對する自然且つ適正の獎勵が、(確實な且つ確固たる)「高き」利潤によつて維持せられる貯蓄の能力及び意思の増大であるといふことは、依然眞實たるを失はないであらう。そして何等かの程度に於いて同様なる事情に於いては、かゝる貯蓄の能力及び意思の増大は、殆んど常に、資本の比例的増大を伴はなければならない。

R註 こゝで資本の不足とは何のことであるか？ 若し資本が不足であるならば、収入からの貯蓄による資本の蓄積から、——不足なもの、増大から、——何等かの害悪が生じ得ようか？

マルサス氏は資本に對する利潤の不足を意味してはゐないか？ 資本が不足ならば利潤は高いであらう。

こゝに述べたことの眞實なることを物語る最も顯著なる例證の一つであり、そして資本と人口との増大の法則の奇妙な類似のもう一つの證據なるものは、資本の喪失が、通商を妨害せざる戰爭中に恢復される速度の中に見出される。政府への貸付は資本を収入に轉換し、そして最初に供給の手段を減少すると同時に需要を増大する(註)。その必然的結果は利潤の増大でなければならぬ。これは當然に蓄積の能力と報酬との兩者を増大する。そして若し以前と同一の貯蓄の習慣が資本家の間に廣く行はれて居りさへすれば、人口が(或る大きな死亡率の後に)「何等かの原因によつて突如として破壊された時に」その恢復が極めて急速であるのと全く同一種類の理由に

よつて、失はれた資本キャピタルの恢復は急速である筈である。

註 資本は單にそれが最もよく節用せられ得る職業からのみ引去られる。それは嘗て農業から引去られたことは殆んどない。地代を論ずる章に於いて私が述べた如くに、常に資本が土地から引去れることがないのみならず、更にそれを繼續的に附加してゐても、利潤が増大するのが最も普通である。リカードウ氏の一定の價格といふ假定は、事の實情を理論的に説明することを絶対に不可能ならしめるであらう。若し資本は需要供給の域内にならぬものと考へられるならば、「戰爭中の」資本の急速な恢復といふ最も劇的な事柄は、全く説明し得なくなるであらう。(革命戰爭の間に土地に使用せられた資本の額は利潤の著しい増大によつて膨大な増大を告げた。そして多くの商人及び製造業者は時に大きな損失を蒙つたけれども、而も高き利潤率は一般にそれを償つて餘りある様に思はれた。そして商業及び製造業の兩資本の増大に就いては疑ひはあり得ない。)

人口の場合に、前以ての人口の減少なくしても、同一率の増大がなほ起つたであらう、と想像することが、大きな誤謬であらうことは、今では十分に認められてゐる、蓋しかくも急速なる人口の増大といふ結果を産み出すものは、正に、労働に對する需要によつて惹起された高き勞賃であるからである。同一の原理によつて、問題となつてゐる支出によつて惹起された前以ての資本の喪失(及び生産物に對する需要の増大)なくしても、資本は同様に急速に蓄積された筈である、と想像するのは、同様に大きな誤謬である様に私には思はれる。蓋し同時に蓄積する能力及び意思とを與へるものは、正に、貨物に對する需要と、その結果たる、貨物を生産する手段に對する需要とによつて惹起された、資本キャピタルの高き利潤であるからである。

従つて(R註)、假令資本の増大を左右する法則は人口の増大を左右するそれ程に明瞭でないこ

とが認められるであらうけれども、而もそれは確かに正に同一種類のものである。そして、富を永續的に増大せしめんが爲めに、かゝる資本の生産物に對する適當な需要のない時に、引續き收入を資本に轉換することは、勞働に對する需要と其の支持の爲めの財本の増大とがなくなつて、引續き結婚と子供の出生とを奨励するのと等しく無益なことである。

R註 資本を増大せんと誘惑は、其の生産物に對する需要からは——これは必ず存在するから——生ぜず、生産物の販賣より生ずる利潤から生ずる。——高い勞賃はかゝる利潤を全くなくして了ふこともあらう。

マルサス氏が資本に對する需要と呼ぶものを、私は高い利潤と呼ぶ——資本は賣買せられぬ、それは利付で借入れられる、そして利潤が高い時には大きな利子が與へられる。マルサス氏の言葉はこの場合『新しく、且つ、異常』である様に私には思はれる。

第四節 富の繼續的増大に對する一刺戟と考へられたる 土壤の肥沃度に就いて

土壤の肥沃度は富の繼續的増大に對し適當な刺戟を（確實に）與へるものではないと論ずる際には、常に、肥沃な土壤は直ちに、一國が恐らくは所有し得る富の最大自然的能力を與へるものであることが、想起せられなければならない。かゝる國の富が不足してゐると云ふ時には、『常

に』積極的ではなく、比較的、すなはち其の自然的能力と關聯させて、云つてゐるつもりなのである。そしてかくの如く理解すれば、この命題は殆んど又は全く例外なきものとなるであらう。實際恐らく、近代に於いては、廣大な且つ極めて肥沃な國が其の自然的資源を十分に使用した事例は起つたことがなく、他方小さな且つ肥沃ならざる國家が、外國通商によつて、其の狹隘なる限界内に、其の物理的能力（から期待せられべきもの）【から云つてそれに歸屬すべき比例】を大いに超過する（額）【程度】の富を、蓄積した事例は極めて多い、と云はれ得よう。

若し少數の人間が、大きな部分に分たれ且つ市場に關して位置が好都合でない所の、豊かな且つ廣大な内國領域を所有してゐるならば、土壤の肥沃度とその結果たる生産の便宜にも拘らず、この國家が富み且つ人口多くなるには極めて長い時期がかかるであらう。かかる土壤の性質は、それをして其の耕作せられざる状態に於いて利潤又は利子を所有者に産み出さしめるであらう。従つて彼は、權勢と享樂の源泉たると同様に又利潤の源泉として、その財産に價値を附するであらう。そしてそれは彼と彼れの直ぐ手近の附屬者が消費し得るよりも遙かにより多くの粗生産物を産出し得るけれども、彼は決して、他人がそれを占取して任意に分割することを許す氣には、ならないであらう。彼は恐らくその可成りの部分を少額の地代で貸出すであらう。併しこれ等の部分の借地人は、若し、粗生産物に對する外國の賣口がなく、そして生活の便宜品及び奢侈品に役立つ貨物が殆んど知られてゐないならば、彼れの土地の資源を働かせ、そして人口の急速なる増加に奨励を與へるべき、極めて小なる刺戟しか有たないであらう。十家族を使用して、彼は

恐らく、土壤が富んでゐるので、五十家族に對する食物を獲得し得よう。併し彼はこのより以上の食物に對する比例的市場を發見し得ず、そして間もなく彼は彼れの時間と注意とをかくも多くの人間の勞働の監督に浪費したことに氣がつくであらう。従つて彼はより少い人數を用ひる氣になるであらう。又は、人道心なる動機より、又はその他の何等かの理由より、市場の供給に必要なるより以上の人數を、使用する氣になるならば、彼等は相應に勤勉なものと假定しても、彼は彼等の勤勞に全く無關心になり、そして彼れの勞働者は當然に最も懶惰なる習慣を獲得するであらう。かゝる習慣は、當然に、かゝる事情によつて主人と召使との雙方に生じ、そしてひと度生じた時は、それを除去するには、可成りの時間と可成りの刺戟物とが必要である。

食物及び必需品を、自由(註)に處分し得るものは、程なくして、彼等をして、彼等に最も有用な且つ望ましい物の或るものを、所有せしめるであらう所の勞働者に、事缺かなくなるであらうと云はれてゐる。(註)併しこれは經驗に正反對なことと思はれる。若し國內製造業の設立や擴張や改良が、かくも容易な事であるならば、吾々の祖先は、多年の間それを有つことかくも少きことなく、そして彼等の粗生生産物の大部分を怠惰な抱人の支持に費すを餘儀なくされることもなかつたであらう。彼等は、機會がある時には、彼等の剩餘粗生生産物を、彼等か知つて居り且つそれを評價することを學んでゐた外國貨物と、交換せんと、心がまへてゐたことであらう。併し彼等自身の所領に製造業を創める爲めに彼等の勞働支配力を使用することは、極めて困難なことであり、且つ彼等の習慣及び見聞の程度には極めてそくはなかつたであらう。假令土地は豊かで

あつても、それは最も必要な原料の生産には適しなかつたであらう。そして必要な機械や、それを用ひるに必要な熟練や、必要な監督の知識や活動力は、總て最初は不可避的に缺けてゐたであらうし、そして假定された事情の下に於いては、極めて遅々として成長すべきものでなければならぬ。従つて社會の初期に常に欲求され且つ生産せられてゐるより粗末な且つより不可缺の物品が供給せられた後は、大領主は、大なる監督の煩勞を含む所の多量の不器用な製造品で他を抽んでるよりは、それが手に入り得る場合には若干の見事な外國貨物と、それに多數の抱人とで、他を抽んでることを選ぶべきは、全く當然のことである。

R註 この語は我國に適用されたものであり、そして僅かに半ば開けた國に適用されたものではない。

註 Ricardo's Princ. of Polit. Econ. ch. xxi. (p. 342, 3rd edit.) [p. 363, 2d edit.] (譯者註——前掲譯書、三一六頁)

併し乍ら(註)、成程、一例として一個人勞働者を取り、そして彼が一定の程度の勤勞と熟練とを所有するものと想像するならば、彼が僅かな時間しか食物の獲得に従事しなければしな程、彼は益々長い時間を便宜品及び奢侈品の獲得に充てることを得るであらうといふのは、確かに眞實である。併しこの眞理を全國民に適用し、そして食物獲得の便宜が大であればある程、人々が便宜品及び奢侈品を手に入れることは益々より豊富になるであらう、と推論することは、命題【1】の適用が其の基礎たる前提【2】の總ての部分に正常な注意を拂はずに、この命題を適用する際に【3】に起さしめた變化に對する適當な注意の缺乏から、屢々生ずる所の、多くの性急な且つ誤れる結

論の一つであらう。今の場合に於いては、萬事は、一定の程度の勤勞と熟練と、それを雇傭するの（獎勵）「手段」といふ、假定に依存するものである。併し若し、生活の必需品が獲得せられたる後に、勞働者が、懶惰を以て、より以上の勞働により獲得されさうに思へるものよりもより大なる奢侈であると、考へるならば、この命題は直ちに眞實でなくなるであらう。そして諸國民の進歩の種々なる段階に於いてこの諸國民に就き吾々の有つ總ての記述によつて確かめられたる事實の問題としては、社會の初期に於いてはかうした選擇は極めて一般的であり、且つ最も進歩せる状態に於いても決して異常なことゝは思はれぬことを、認めなければならぬのである。

R註 若し勞働者の勞賃が高いならば、彼は自分の好む儘になし得よう——彼は懶惰又は奢侈品を選び得よう——併し若し彼の勞賃が低くそして利潤が高いならば、彼はかゝる選擇權を有たず、彼は其の親方に便宜品及び奢侈品を生産するか又は餓ゑなければならず、そして其の額と質とはそれを生産するに必要とされる便宜と時間とに依存するであらう。

社會に見出される（R註）便宜品及び奢侈品の割合は、若しその生産の主たる手段たる者が、それを享受しようといふ願望よりもより強い、その努力の爲めの誘因を、有たないならば、實際少數であり乏しいであらう。勞働階級を刺戟して奢侈品を生産せしめる主たるものは、必需品の缺乏である。そしてこの刺戟が除去され又は大いに弱められ、爲めに生活の必需品が極めて僅少の勞働によつて獲得せられるならば、より多くの時間が便宜品の生産に充てられる代りに、より少い時間がそれに充てられるであらうと考へる、凡ゆる理由があるのである。

R註 英蘭の現在の事情の下に於いては、若し勞働者が同一の時間に且つ同一の勞働を以てより多くの必需品を生産し得るならば、彼の地位は改善されるであらう、とマルサス氏は考へないであらうか。彼はその結果たるべき懶惰の愛好にびつくりするであらうか？

豊かな土壤のみが耕されてゐる耕作の初期に於いては、穀物の分量は、それを生産するに必要な勞働の分量に比較して最大であるから、吾々は「常に」、人口の小部分が農業に従事し、その大きな部分は社會の他の欲求を賄ふに従事してゐるのを見出す（ことを期待し得よう）【べき筈である。】そして、勞働を支持する手段が発見されるならばその勞働をして適當な價値のある物を造らしめるには困難はあり得ないといふことが、又は食物が容易に獲得せられ得る時にはより多くの時が便宜品及び奢侈品の生産に充てられるであらうといふことが、眞實であるとすれば、これが吾々が實際に見るべき事態であることには、殆んど疑ひはあり得ない。併し（R註）進歩せざる諸國を檢討する際に、吾々は實際は何を見るであらうか？——殆んど變る所なく、全人民の中、人口の増加が貧しき土地に頼ることを必要ならしめてゐる諸國よりも遙かにより大なる比例が土地に使用せられ、そしてより多くの時ではなくより少い時が便宜品及び奢侈品の生産に充てられてゐること、これである。

R註 最も進歩せる國の熟練、状態及び能力に關する議論が、熟練はなくそして最も普通の便宜品の檢樂に關する知識すらない進歩せざる國の状態に頼ることによつて、答へられてゐる。これ等總ての國が食物を大いに便宜に獲得するといふのは眞實であるか？ 若しこれ等の諸國が

我國の有つてゐる改良を有つてゐないならば、それ等は、我國が有つてゐる、少量の勞働で生産するの手段を、有たない譯である。マルサス氏は、英國に於いて農業に使用されてゐる人民の比例は他所よりもより小である、と云ふ。これは極めてあり得ることであり、そして若し眞實ならば極めて満足なことであるが、併し吾々は、英國に於いて土地で使用されてゐる牛馬の数がより大であるのを、考慮外に置いてはならない。牛馬は勞働者の代りに用ひられるのであり、そして彼等と同様に食料によつて支持されてゐるから、牛馬は勞働者の名目下に屬するものである*。

* これに更に、英國に於いて農業に使用せられる機械のより優れてゐることを、加へなければならぬ。

ヨオロッパの、又實に世界の、大農業國民の中、英國は、(殆んど例外なく)【一¹の例外を除いて】其の耕作を最も進めたものと想像せられてゐる。そして其の全土壤の自然的性質は比較的豊度の等級の極めて上位にあるものではないけれども、世界の何れの他の農業國に於けるよりもより小部分の人々が農業に従事し、そしてより大なる比例が便宜品及び奢侈品の生産に従事し、又は貨幣所得で暮してゐるのである。ズウスマルヒはその計算の中で、種々なる國家に於ける、都市に住み従つて農業に従事しない者の、種々なる比例を列挙してゐるが、それによれば、最高は(三²對七又は都市居住三人對地方居住七人)【七¹對三又は地方居住七人對都市居住三人】である(註一)。然るに英國に於ては、(農業に従事する者)【人口の殘部】に比較しての(製造業及び商業、

及び其他の土地と關係なき職業)【農業】に従事する者の比例は、(三²對二の多き)【二¹對三以下】である(註二)。

註一 Susmilch (Schsmilch), vol. iii. p. 60. Essay on Population, vol. 1. p. 459. edit. 5th. 外國では地方に住む者で農業に従事しない者は殆んどなし。併し英國ではこれと異なる。

註二 Population Abstracts, 1811.

これは極めて顯著なる事實であり(註一)、そして、經濟學に於いて、行動の基礎たる資料の物理的性質のみ結論を引出し、諸因子の物理的性質と共に道徳的性質にも觸れることをしないのが、如何に危険であるかの、驚くべき證據を與へるものである。

R註 土壤に使用せられた勞働との比例に於ける其の生産性を少しも考慮せずに、土壤の物理的性質から何等かの結論を引出したのは、一體誰であるか? マルサス氏は、極めて多くの時間を投じて、誰も主張してゐないことを反駁せんと努めてゐる。彼は、私が、利潤は總ての國に於いて最後に耕作に引入れられた土地の肥沃度に依存する、と云つたものと想像し、そして彼はこの意見が無根據なことを示しよう、と大いに苦勞してゐる。——私は決してかゝる意見は擁護せず、又誰が擁護したかも知らない。利潤は凡ゆる國に於いて、耕作されてゐる最後の土地に於ける勞働の生産性に比例する、——常に各國に於ける勞働者が同一分量の必需品で満足してゐることを條件として。併しこれは事實ではないから、各種の原因によつて勞働に對する報償は變るから、利潤は、最後に耕作せられた土地に於ける全生産物の中、それを獲得する爲

めに與へられなければならぬ比例に、依存する。

使用せられた人数に比較して多量の生産物を産出するのは、疑ひもなく、一定の勤勞と熟練とを所有する人々によつて耕された場合の、極めて豊かな土地の物理的性質である。併し豊かな土地が與へる生産の便宜が、或る事情の下に於いて、勤勞と熟練との成長を妨げるの結果を有つたらば、土地は、その豊度に於いて優れなかつた場合よりも、それに使用せられた人間の數に比較して、實際上その生産性がより少くなるであらう。

同一の原理によつて、一週間二日の勞働によつてその家族に必要な食物を獲得し得る人は、食物の獲得に四日を用ひなければならぬ人よりも、便宜品及び奢侈品を獲得する爲めに遙かにより長く働く物理的能力を有つてゐる。併し若し食物を獲得する便宜が懶惰の習慣を産み出すならば、この懶惰は彼をして、便宜品及び愉樂品を所有するの奢侈を措いて、殆んど又は全然仕事をしないといふ奢侈を選ばしめるであらう。そしてこの場合には、彼は、より多くの勤勞を食物の獲得に使用せざるを得ない場合よりも、より少ない時間を便宜品及び愉樂品の爲めの勞働に充て、そしてそれ等をより少し、か手に入れないであらう。

その現状によつて（註、以上の主張の眞實なることを、多かれ少なかれ例證し且つ確證するの傾向ある、多數の國の中で、アメリカに於けるスペイン領程明かにこれを例證し確證するものは恐らくないであらうが、それについてフンボルト氏は「最近」極めて價値多き記述を爲してゐる。

註 此處で又もマルサス氏は、争はれてゐないことの精緻な證據を與へてゐる。諸國は現在常に其の生産手段に比例して生産する！ その通り。併しマルサス氏はこのことから如何なる推論を引出すであらうか？

——彼は、自分は英蘭に於ける穀物の生産に新らしい便宜を與へることに對する敵である、蓋しそれは人民を懶惰ならしめるであらうから——それは彼等をして奢侈品に對する彼等の嗜好を失はしめ、そして彼等を誘つて最も普通の食事で満足せしめるであらう、と云ふであらうか？ 彼はかういふ積りでなければならぬ、然らざれば彼の議論は目標がないことになる。南アメリカに於ける低廉な生産手段を見よ、その國に於ける懶惰な種の住民を觀よ。我國に於いて穀物を低廉ならしめ度いと思ふ者の危険な計畫に吾々が耳を傾ける場合の一例及び一警告として以外に、吾々は何の爲めにそれに留意しなければならぬのか？ 私がマルサス氏に對し大いに非を鳴らし度いことは、彼が絶えず論點の問題を離れつゝあることである。彼は最初に、或る方策が穀物を低廉ならしめるか否かといふ論旨を反駁することを以て始めたが、併し議論が終らない中に、彼は、それが低廉になつた場合に人民に及ぼすべき道徳的原因から云つてそれを低廉ならしめるのは便宜ではない、といふことを證明せんと努めてゐる。これ等は極めて異なる二命題である。

セエ氏は、忠告するのは經濟學者の任務に屬しない、と云つてゐるが、それはその通りである、——すなはち經濟學者は如何にして富み得ようかを告げるべきであるが、併し彼は懶惰を措いて富を選べとか富を措いて懶惰を選べとか忠告してはならない。

ニュー・スペインに於いて耕作されてゐる種々なる植物を論じつゝ、彼はバナ、に就いて曰く、『かゝる小面積に於いて榮養に富み且つ豊富な多量の食物を生産し得る他の植物が、地球上にあることを私は疑ふ。』(註一) 彼は他の場所に於いてより立入つて計算して曰く、『著しく肥沃な地方に於いては、大型のバナ、を植ゑ付けた半ヘクタアル又は一法定アルパンは、五十人以上を養ふことが出来るが、然るにヨオロッパに於いては、同じ一アルパンは、種子が八倍になると假定して、一年に、五七六キログラムの小麥粉しか與へないが、これは二人の生活に足りない分量である。そして、土人の多数の家族を含んでゐる小屋の附近に耕作されてゐる極度に小さい地面程、熱帯に着いた許りのヨオロッパ人を驚かすものはない。』(註二)

註一 Essai Politique sur la Nouvelle Espagne, tom. iii. l. iv. c. ix. p. 28.
註二 Id. p. 36.

その上、バナ、は極めて輕微な分量の勞働で耕作され、そして『果物のなつた幹を切り、そして一年に一度か二度根の附近を掘るといふ輕い耕作を加へるといふ以外には、人間の世話を何も要せずに、いつまでも育つて行く』(註) ことがわかる。

註 Nouvelle Espagne, tom. iii. l. iv. c. ix. p. 28.

何と巨大な生産力がこゝで述べられてゐることであらう！ 若し有效に働かされたならば、何たる無限の富の資源であらうか？ 併しこの肥沃な地方に於ける現實の事態は如何。フンボルト氏は曰く、『勅許狀がバナ、の木の破壊を命じてもする時でなければ、熱い地方 (tierra caliente)

の住民は數百年以來陥つてゐる無感覺の状態から脱することは出来ないであらうとは、スペインの植民地に於いて屢々耳にする所である。この救済策は亂暴である。そしてそれを極めて熱心に提議してゐる者も、彼等の必要品の量を増加する上で、彼等が勞働を強制しようと思ふ下層階級以上に大いに活動することはない。破壊といふ手段を用ひることなくしても、勤勞がメキシコ人の間に進歩を作り出すものと、期待しなければならぬ。云ふまでもなくバナ、の木が繁殖する氣候の中で人間が生活するのが便宜なことを考へれば、新大陸の赤道地方に於いては、必要そのものが勤勞を呼び醒ます所の、山嶽地方で、より肥沃ならざる土壤の上で、生物の生長により好都合ならざる空の下で、文明が始つたことには、何の不思議もない。

『コルディレラ山脈の麓、ヴェラ・クルス、ヴァッラドリッド、又はグアダラハラの諸管區の濕潤な谷地に於いては、樂な勞働に一週間僅か二日従事する者は、全家族の生活資料を供給することが出来る。』(註)

註 Humboldt's Nouvelle Espagne, tom. iii. l. iv. c. ix. p. 38.

然らばこれ等諸國の極度の肥沃度は、富及び人口の急速な増大に對する適當な刺戟を與へずして、それ等が置かれ來つてゐる現實の事情の下に於いては、或る程度の懶惰を産出し、それは幾時代を經過した後にそれ等を貧しく且つ人口稀薄にして置いてゐることが、わかる。勞働階級は便宜品及び愉樂品を得る爲めに働くかゝる十分の時間を有つてゐるけれども、彼等は殆んどかゝる品を缺いてゐる。そして食物といふ必要物品に於いてすら、彼等の懶惰と不愼慮とは、彼等が、

季節の不良の結果から自己を確保すべき方策を、採用することを妨げてゐる。フンボルト氏は、飢饉は殆んど總ての赤道地方に普通にあることである、と述べ、そして曰く、『恵み深き手が豊饒の種子を撒布した如くに思はれる熱帯に於いては、無頓着な冷靜な人間は、開けた人民の勤勞が北方のより不毛な地方からは遠ざけてゐる所の生活資料の不足に、定期的に遭遇するのである。』(註)

註 Essai Politique sur la Nouvelle Espagne, tom. I. II. c. v. p. 358.

併し乍ら、ニュー・スペインに於けるこれ等の低地々方の氣候の暑熱と、高地々方に比較してのより劣れる程度の健康性とは、稠密な人口を妨げるが如きものでは決してないけれども、それを貧しく且つ人口稀薄にして置くに力を貸してゐるといふのは、あり得ることである。併しコルディレラ山脈を上つて世界中で最も良い氣候の所に達しても、そこに現れる情景は本質的には異なる。

コルディレラ山脈の高原地方の下層階級の住民の主たる食物は玉蜀黍である。そして玉蜀黍は、それを使用せられた勞働に比較してはバナ、程に生産的ではないけれども、生産性に於いて、ヨオロッパの、そして合衆國すらの、穀物を、極めて著しく超過する。フンボルトは曰く、『タオリすなはちメキシコ玉蜀黍の多産なことは、ヨオロッパに於いては決して想像し得ない。この植物は、高い暑熱と多くの濕氣とに恵まれて、二米乃至三米の高さに達する。例へば、サン・ファン・デル・リオからクイレタアロ迄擴がつてゐる美しい平原に於いて、エスベランツァの大分益

農地に於いては、一ファネガの玉蜀黍は時に八百ファネガのそれを産する。肥沃な土地は、平年には、三四百ファネガのそれを産する。ヴァラドリッドの近傍に於いては、種子の一一〇倍又は一五〇倍しか與へない收穫は不作と考へられてゐる。土壤が最も瘠せてゐる所では、六十又は八十倍と計算されてゐる。一般に、玉蜀黍の生産物は、ニュー・スペイン國の赤道地方に於いては、一年に就き百五十倍と考へられてゐる。』(註)

註 Essai Politique sur la Nouvelle Espagne, tom. III. I. iv. c. ix. p. 66.

この大なる肥沃度は、期待せられ得よう如くに、通常の時に於いて家族の維持を極度に容易ならしめるといふ、其の當然の結果を生ずる。

道路が悪く且つ運搬費がかかる爲めに食料品が地方よりも極めて著しくより高價なメキシコ市自身に於いてさへ、賤民達ですら、フンボルトによれば、一週間僅か一二日の勞働で其の生活資料を稼ぐことが出其る(註)。『メキシコの街路は二萬乃至三萬の貧民(サラガアテス・グアチナアゴス)を養つてゐるが、その大部分は、全裸の身體をフランネルの布に包んで、美しい星の下で夜を過し、晝は太陽の下で寝てゐる。インディアン及び雜種のこの賤民は、ナボリの賤民たるラザロオニと多くの類似を示してゐる。グアチナアゴスは怠惰で無頓着で質素ではあるが、併し彼等は性格に少しも兇暴性を有たない。彼等は決して施しを求めない。彼等が一週間一二日勞働するならば、彼等は、龍舌蘭酒や家鴨——これはメキシコの入江を蔽つて居りそしてそれ自身の脂肪で焼いて食用に供せられる——を買ふに必要なものを、稼ぐのである。』

‡ Nouvelle Espagne, tom. II, l. II, c. VII, p. 87.

併しこの貧困の光景は大都市の賤民に限られない。『メキシコ・インディアンは、全體としてこれを見るに、大きな窮乏の光景を示してゐる。肥沃度の少い土地に閉ぢ込められ、性格上懶惰で、更に一層其の政治的狀態の結果として、土人はその日暮ししかしてゐないのである。』(註)

‡ Nouvelle Espagne, tom. I, l. II, c. VI, p. 429.

習慣がかくの如くである爲め、彼等は、玉蜀黍が特に蒙り勝ちな時々の不作に對し備へをすることは、殆んどない様に思はれる。従つて、かゝる不作が起る時には、彼等は極度の慘苦に曝される。一般にニュー・スペインに於ける人口の増進に對する(直接的)障害を論じつゝ、フンボルトは、飢饉とそれが産み出す疾病とを以て、總てのものゝ中で最も慘酷にして破壊的なるものと考へてゐる様に思はれる。『アメリカ・インディアンは』(と彼は曰ふ)『印度の住民と同様に、生命の必要が要求する最小量の食物で満足する習慣となつてゐる。彼等はその數を増大するが、併し生活資料はこの人口の増大に比例しない。性格上懶惰で、且つ就中よい氣候の下、一般に肥沃な土壤の上に、彼等が占める境遇によつて、土人は、彼等自身の食物に必要なもの、又は精々の所都市の消費又は最も近い鑛山の消費が必要とするもの以外には、玉蜀黍や馬鈴薯や小麥を作らない。』更に先の方で彼は曰く、『人口の増進と耕作によつて生産された食物の分量の増大との比例がとれてゐないので、大旱魃又は其他の何等かの原因が玉蜀黍の作を悪くした時には常に、悲惨な飢饉の光景が生ずるのである。』(註)

‡ Nouvelle Espagne, tom. I, liv. II, c. V, pp. 355 et 356.

これ等の記述は、この人民の間に廣く存在する懶惰と不愼慮とを、顯著に證示する。かゝる習慣は必然的に富と人口との急速な増大の途上に於ける恐るべき障害として働かなければならない。かゝる習慣がひと度十分に形成された時には、それは、一連の有力な且つ有效な刺戟の下に於いて順次に且つ徐々として變化する外には、變化しさうもない。そして土地財産の極度の不平等が續き、且つ外國通商に於いて粗生産物に對し十分な賣口が見出されぬ間は、かゝる刺戟は極めて徐々として且つ不十分にしか與へられないであらう。

土人の懶惰が(R註)彼等の政治的狀態によつて大いに加重されてゐることは、一瞬と雖も疑はれ得ない。併し政治的狀態はかくの如くではあるけれども、懶惰が通常の刺戟には大いに屈するものであることは、勞働と生産物とに對し活潑な有效な需要が生ずる新鑛山の近隣で耕作が急速に行はれることから、十分に證明される。『間もなく必要は勤勞を喚び起す。人は、窪地の中の、近隣の山背の、岩が肥料土で蔽れてゐる凡ゆる場所の、土壤を耕し始める。萌芽は鑛山の近隣に生ずる。食物の騰貴、購買者の競争による總ての農業生産物の高き價格は、山地の骨の折れる生活の爲めに農民が蒙る不自由を償ふのである。』(註)

R註 鑛山に關するこの事實は、南アメリカに關する全議論が如何に殆んど英蘭に適用され得ないかを、證示する。實際、それが、資本と人民との兩者が英蘭に於いて同時に過剩となり得ようといふ意見の證明として、持ち出されたのは、私には驚くべきことと思はれる。

私が、我國及びそれに類似する國に就いて、『若しも私が食物及び必需品を、私の自由に處分し得るならば、私は、程なくして、私をして私に最も有用な又は最も望ましい物の若干を所有せしむるであらう所の労働者に、事欠かなくなるであらう。』(譯者註、三二六頁)と云つたからとて、マルサス氏はこの命題を最も一般的な形にし、そして『食物及び必需品を自由に處分し得るものは、程なくして、人手に事欠かなくなるであらう、等々』(譯者註、本節の(譯者註、三二六頁)と云つてゐる。そこで彼は南アメリカを舉げ——食物及び必需品を自由に處分し得るが、併し、第一に、労働者が便宜品及び奢侈品を欲求しない故に、第二に、欲求が存在しても労働者がそれを造る熟練を有たず、加之労働へと刺戟せられるに極めて困難な懶惰な人種である故に、又第三に、最も容易に生産せられ得る貨物は極めて限られた市場しか有たず、爲めに其の不斷の供給過剰がある故に、労働者を雇傭し得ない所の、人々があることを、證示せんと努めてゐる。南アメリカに關するこの叙述の多くは反駁せられ得るであらう——この全部は、それを持出して覆さうといふ對象物たる諸原理と、完全に一致してゐることが、證示され得るであらうが、併しそれは、稠密な人口を有ち、資本、熟練、商業、及び製造業を豊富に有ち、且つ自然、技術又は科學が獲得すべき凡ゆる享樂に對する嗜好を有つ所の、諸國には、殆んど適用され得ないから、従つてそれは嚴重な検討を必要としないのである。

註 Nouvelle Espagne, tom. iii, liv. iv, c. ix, p. 12.

かゝるものが生産物と労働とに對する需要の眞の繁忙の結果である時には、吾々は、この國の

最大部分に互つて耕作が遅々として進んでゐないこと、主たる原因を求めて當惑し得ないのである。鑛山の近隣と(註)大都市の近くとを除いては、生産物に對する需要は、大保有者を誘つて、彼等の巨大なる面積の土地を正當に耕作せしめる底のものではない。そして、前述の如くに、生活資料の限界を(時に)緊密に壓迫してゐる人口は、一般に、労働に對する需要を、又は國が其の農業及び製造業の現實の状態に於いて規則的に且つ恒常的に使用し得る人數を、明かに超過してゐる。

R註 私にはこの章句には全くの矛盾がある様に思はれる。『生産物に對する需要は、大保有者を誘つて、彼等の巨大なる面積の土地を正當に耕作せしめる底のものではない。』生産物として何物も獲得せられ得ないのか？ 労働はそれと引換へに得られないのか？ そして總ての富は労働によつて獲得せられ得ないであらうか？ マルサス氏はこれ等の間に答へて貰ひ度い。『人口は生活資料の限界を緊密に壓迫し、そして一般に、労働に對する需要を、又は國が其の農業の現實の状態に於いて規則的に且つ恒常的に使用し得る人數を、明かに超過してゐる。』こゝに一つの國があり、其の肥沃度の額は殆んど作り話の様であり信じ得ない程であり、そして其の數多き人民は、生活資料を緊密に壓迫し——其の労働を生産物と交換せんと望んでゐる、而も生産物に對しては殆んど需要がないので、彼等の土地の耕作に對する誘因を與へ得ないのである。肥沃な土地が豊富にあり乍ら、土人は屢々それを供せられることが極めて乏しい様に思はれる。彼等は喜んで、大保有者の保有してゐる廣大な地方の諸部分を耕作するであらうし、又必ずやか

くの如くして彼等自身と家族との爲めに十分な生活資料を獲得し得るであらう。併しこの國の多くの地方に於ける生産物に對する需要の現實の狀態に於いては、かゝる借地人は、其の耕作されざる狀態に於いて土地が産出するものに等しい地代を支拂ふことも出来ないであらう、そしてこの場合に於いて彼等がかゝる地所に入込むことを許されるのは稀であらう。かくて數千人の人民を支持し得るやうにせしめられ得る土地は、數百頭の牛を支持するが儘にせられてゐることであらう。

ヴェラ・クルス管區の一部を論じてフンボルトは曰く、『今日では數百里四方の土地には二つ又は三つの小屋があるだけであり、その周圍には半ば野性の牛がうろつてゐる。勢力があり、且つ中央臺地に住んでゐる、小數の家族は、ヴェラ・クルス及びデ・サン・ルイス・ポトシの管區の沿海地方の最大部分を所有してゐる。若しかゝる富める保有者が彼等に屬する廣大な土地を自ら開墾しようと望まない態度を續けるとしても、如何なる土地法も彼等に其の世襲財産を賣ることを強制しない。』(註)

註 Nouvelle Espagne, tom. II, III, c. VIII, p. 342.

この種の(註)保有者の間では、移り氣と懶惰とが屢々彼等が自分の土地を耕作するのを妨げたであらう。併し乍ら一般には、これ等の傾向は、少くとも可なりの程度に、自利といふより、着實な力に屈するものと、期待せられ得よう。併し領土の悪い分割が、自利の誘因が、耕作の擴張に當りそれが當然働くべき程度に、有力に働くのを、妨げる。土地の粗生生産物に價値を賦與す

る十分な外國通商なくしては、又製造業の一般的導入が内國の勤勞に通路を開く迄は、大保有者の勞働に對する需要は直ちに充たされて了ふであらう。そしてこれ以上には、勞働階級は、大保有者の土地の使用に對し與へる何物をも有たないであらう。土地保有者はより、大なる人口を其の地面に於いて支持する十分な能力を有つであらうけれども、それから得らるべき享樂品の増大——假に増大があるとして——は極めて僅かであつて、彼等の天性の懶惰に打克ち、又はこの處置に伴ふかも知れぬ所のあり得る不便や面倒を償つて餘りある程十分であることは、稀であらう。新しい家族が生ずるにつれて土地を分割し又細分割する結果生ずる人口の増大に對する刺戟は、財産の本來の狀態と、それが必然的に生ずる傾向ある封建的慣習と習慣との爲めに、この國には存在しない。そしてかゝる事情の下に於いては、若し財産の大きな不平等がこれを是正するよりは寧ろ恒久化するの傾向ある所の商業及び製造業の比較的不足が、そのみがこの不平等によつて惹起された人口増加の阻害を救済し得るものたる勞働及び生産物に對する需要の増進を、妨げるならば、スペイン領アメリカが、數代の間、其の自然的資源に比較して、依然人口稀薄に且つ貧しくなつてゐるであらうことは、明かである。

R 註 若しさうならば、吾々はそれが耕作されないことを生産物に對する需要の缺乏に歸してはならない。『領土の悪い分割が、自利の誘因が、耕作の擴張に當りそれが當然働くべき程度に、有力に働くのを、妨げる。』これは私は理解することが出来る——併しこれはヨオロッパに於いては事實ではない。マルサス氏は、前には、生産物に對する需要がないから利害の誘因は存在

しない、と云つた。
 そしてスペイン領アメリカは事實上人口稀薄に且つ貧しかつた。蓋し、人口と富との増大は、特に近年、母國との取引が比較的に開けて以來、大なるものがあつたけれども、而もそれは全體として、假令スペイン政府の下であつても、土地財産のよりよき分割又は粗生産物に對するより大きな且つより恒常的な需要によつて、土壤の富が呼び醒された場合に生ずべきものには、遙かに及ばなかつたのである。

フンボルトは〔註〕曰く、『メキシコの土壤の富を眞面目に熟慮したものは、比較的苦勞のからぬ耕作により、且つ畑の灌溉に異常な勞働を考へずとも、土地の中既に開墾されてゐる部分は、八倍乃至十倍より多くの人口に對する生活資料を供給し得るのを、知つてゐる。』彼はそこで極めて正當にも次の如く附言する、『若しダタリスコ、デ・コルウラ及びデ・ブエブラの肥沃な平原がより豊富な收穫を生産しないならば、その主たる原因は、消費者の缺乏の中に、土地所有の不平等が穀物の内國通商就中アンティル海岸への其の輸送を妨害してゐる事實の中に、求められなければならない。』〔註〕これ等の地方の現實の状態に於いては、其の耕作を遅延させる主たる且つ直接の原因は、實際、消費者の缺乏、換言すれば、同時に良き耕作を奨励し且つ農業者をして地主に彼等の土地の使用に對し彼等が得んと望む何物かを與へ得せしめる如き價格で、生産物を販賣するの能力の缺乏である。

R註 マルサス氏は曰く、『彼は極めて正當にも次の如く附言する、「ダタリスコ、デ・コルウラ

及びデ・ブエブラの肥沃な平原がより肥沃な收穫を生産しないならば、その主たる原因は、消費者の缺乏の中に求められなければならない。』かゝる國には勞働に對する乏しい需要しかなく且つ生活資料の限界を壓迫してゐる人民があるといふことは眞實であり得るか？

註 Nouvelle Espagne, tom. III. l. iv. c. ix. p. 89.

ニュー・スペインの莫大な資源に比較して富と人口とに於ける其の進歩がおそいのが、資本の缺乏よりは需要の缺乏によるものであることは、フンボルトによれば不足であるよりは寧ろ過剰であるといふ其の資本の現實の状態から、正當に推論せられ得よう。彼がニュー・スペインに於いて行はれたら成功を遂げ得ようと考へてゐる、砂糖の耕作を論じて、彼は曰く、『ニュー・スペインは、其の人口といふ利益の點の外に、更にもう一つの他の極めて重要な利益の點を有つてゐる、すなはち鑛山の保有者に又は商業から引退した商人の手に蓄積されてゐる巨大な額の資本といふ利益がそれである。』〔註〕

註 Nouvelle Espagne, tom. III. l. iv. c. x. p. 178.

全體として見れば、フンボルトの述べてゐるニュー・スペインの状態は、次のことを明かに證示するものである――

第一、勞働を支持する能力はその意思よりも遙かにより廣大なる範圍に存在するであらうこと。
 第二、便宜品及び奢侈品の爲めの勞働に使用せられる時間は、必ずしも常に、食物の爲めの勞働に使用せられる時間の小なるに比例して大なるものではないこと。

第三、肥沃なる國の不足せる富は、資本の不足よりは需要の不足により、多くよるものであらうこと。

そして、一般的には、土壤の肥沃度はそのみでは富の繼續的増大に對する適當な刺戟ではないこと。

併し乍ら、これ等の命題を例證する爲めには、アメリカに於けるスペイン領程遠く出かける必要はない。母國自身の、そしてヨオロッパの大抵の國の状態は、同一の結論を與へるであらう。吾々は實際、極めて廣大なる範圍にその確證を見る爲めには、アイルランド迄行けばそれでよいのである。

アイルランドに於ける馬鈴薯の耕作と、下層階級の人民の一般的食物としての其の採用とは、一家族を維持するに必要な土地及び労働をして、大抵のヨオロッパ諸國に比較して、異常に小ならしめた。富を増大するの効果を十分に發揮せしめる如き一連の好都合な事情を伴はざるこの生産の便宜の結果として生じたものは、多くの點に於いて、文明と進歩とでより遅れてゐる國に類似する事態である。

アイルランドの顯著な特徴は（R註）、それが雇傭し得るよりも遙かにより、大なる人口を維持する能力を有ち且つこの能力を現實に行使して居ることであり、そしてこの事態の自然的且つ必然的結果は、懶惰の習慣の極めて一般的な普及である。土地保有者及び主たる借地人は、食物及び必需品、又は少くともそれ等を獲得する爲めの直ぐ間に合ふ手段を有つてゐるので、労働者を豊

富に支配してゐる。併しこれ等の労働者は、彼等が居住する農場で十分な職を見出し得ないので、彼等の地主達をして、彼等に『最も有用な且つ最も望ましい』物を所有せしめ得たことは稀である。時に實際、人口の過剰により惹起された土地を求める競争の爲めに、極めて高い地代が、馬鈴薯の栽培に適する小地面に對し與へられてゐる。併しかゝる地代を支拂ふの能力は、大なる程度に、仕事を得るの能力に依存しなければならぬから、一地所上の、高い貨幣地代を支拂ひ得る、家族の數は、明かな限界を有たなければならぬ。この限界は、アイルランドの小屋住小作人が其の契約せる地代を支拂ひ得ないことである、と信すべき理由がある。そして、人道心と利害との雙方の誘因によつて影響を受けてゐる最も賢明なアイルランドの地主は、彼等の地所上の過剰人口の増進を妨げようと現在努めてゐると、一般に解されてゐるが、この過剰人口は、過度の貧困及び窮乏並びに懶惰を生ぜしめ乍ら、雇傭者がより以上の人手を雇つて彼等の命ぜられた仕事をさせざるを得ないのを勞賃の低いことで償ふといふことも稀である。雇傭者は今では一般に、より少數のより勤勉な労働者の方が、彼をして、都市及び製造業者の消費の爲めの生産物をより多く産出し得せしめ、かくてこの種の労働者達は國の一般的富に寄與することより多く、彼等自身もより幸福な境遇になり、そして彼をしてより大なる且つより確實なる地代を其の地所から得ることを得せしめる、といふことを知つてゐる。『従つて、アイルランドに於ける食物及び必需品の所有者はその代償として彼等に最も有用な且つ最も望ましい物を獲得し得ないのである、と正當に云はれ得よう。』

註 アイランドはそれが雇傭するよりも、大なる人口を支持してゐることは眞實であるが、併しそれは雇傭するの手段をそれが有つよりも、大なる人口は支持しない。食ひ且つ健康な者は、何人も、若し彼が食物を獲得する他の手段を有たないならば、働かしめられ得よう。マルサス氏の述べる所によれば、アイランドに於いては、大きな人口が支持されてゐるけれども、極めて僅少な仕事しか爲されてゐないことが、わかる。——然らばこの國に於いて行はれた労働の分量から云へば大きな価格が支拂はれてゐるのである——資本家は生産物の中單に多からぬ比例を得るのみであり、従つて私の理論によれば利潤は極めて高くない。——それは食物の低廉に比例して高い譯ではない。マルサス氏はこの演繹を否定する。彼は、地主と資本家とは多量の食物及び必要品の所有者であり、而もその代償として彼等に最も有用な且つ望ましい物を獲得し得ないでゐる、と主張する。利潤は分量に依存せず比例に依存する。資本家は何故に、彼等が所有する食物及び必要品の分量を以て、彼等に最も有用な且つ望ましい物を獲得し得ないでゐるのか？ 蓋しアイランドに於ける熟練と勤勞との現實の状態に於いて、多量のこの食物又は同じことであるがこの分量の價值が、多からざる程度の熟練及び勤勞の結果に對し支拂はれなければならぬからであり、又第二に、蓋しアイランドの特有の食物及び必要品が他國に於いては大なる價值を有たず、従つて他國に於いてはそれ等はその國の何程か多量の熟練及び勤勞と交換せられないであらうからである。私は、一〇〇人を支持すべき食物及び衣服は、英蘭、アイランド又は南アメリカに於いて、同一分量の有用な且つ望ましい物を

得るの手段を獲得するであらう、とは云はず、それ等は、各々の國に於ける熟練及び勤勞の状態に従つて、有用な且つ望ましい物を獲得するであらう、と云つたのである。若しこの國には熟練はなく、そして生産された貨物は他國では價值を有たないならば、資本を蓄積せんとするの誘因は殆んどないであらうし、又は若しその國には熟練があり、そしてそれが極めて稀であり且つ費用を要するものであるならば、これも亦資本が急速に蓄積されない一つの理由であらう。併しこれ等の總ての假定は、私が特に論じてゐた國たる英蘭とは、何の關係があるのであるか？

我國には何等かの熟練及び勤勞の缺乏があるか？ 労働を支配するの手段を有つ者によつて獲得せらるべき有用な且つ望ましい物は何か？ 労働の價格を除いて、何が、労働を支配する手段を所有する者がこれ等の有用な且つ望ましい物を得る能力に、限界を與へるのであるか？ 若し労働の價格が高いならば、労働者はこれ等の奢侈品の一部分を得るの手段を有つであらう、若しそれが低いならば、殆んど全部は労働者を雇傭する手段を有つ者に歸するであらう。

アイランドの場合に於いては、マルサス氏は其の富を、彼れの標準價值尺度たる、それが労働を支配する能力によつて、測定せず、この能力がそれをして獲得し得せしめる有用な且つ望ましい物によつて測定してゐる。

若し吾々が決して價值の尺度によつて價值を測定しないのならば、この尺度は何になるので

あるか？

アイルランドに於ける田園労働者の懶惰は人の普く認める所である。そしてこれが現實の事態に於いて彼等の爲すべきことが實際殆んどないといふことから生ずるものであらうと（二版註）、又は通常の刺戟を以てしては克服し得ない所の怠惰への自然的傾向から生ずるものであらうと、何れにしても、彼等が支配し得る時間の中必要品を得るに用ひられるもの以上に出づる大きな部分が、彼等をして便宜品及び奢侈品を豊かに得せしめるの効果を確かには生じないことは、等しく眞實である。アイルランドの農民の衣服が貧弱であり住居がより悪いことは、彼等に餘暇があることと同じ位周知のことであるが、この餘暇は、彼に總ての種類の便宜品を豊富に與へるの手段であらうと期待し得ようものである。

二版註 労働を富の概略の尺度として適用するに當つて、又はアイルランドに於ける價值を測定するに當つて、吾々は、前に暗示せる如くに、現實に且つ平均的恒常性を以て働かされてある労働の價格を、採らなければならず、半ば雇傭せられてある人口が時に申出る労働の價格ではないことを、記憶しなければならぬ。本書に於いて既に觸れた所の、小屋住小作人の労働に就いてアダム・スミスの與へた注意を、特に守らなければならぬ。

併し乍ら、アイルランドの農民を辯護して、彼れの在來の社會状態に於いては、彼は未だ正當な審判を受けてゐない、彼は未だ勤勞の習慣を産出す通常の刺戟を受けてゐない、と云はれ得ようが、それは眞實であらう。この島の殆んど凡ゆる地方、殊に南部及び西部に於いては、田舎の地方の人口は、土地の上で行はるべき現實の仕事が雇傭し得るよりもより大である。従つて若し

人民が極めて勤勞的な志向を有つてゐたとしても、彼等の總てが、土壤に關する職業に規則的に雇傭されることは、不可能である。この國の比較的山勝ちの地は主として牧場に充てられてゐるが、そこではこの不可能性は一層特別に顯著である。ケリ山脈の中の一小農場は、恐らく、多數の成人となつた息子を含む大きな一家族を支持し得ようが、この農場でしなければならぬ仕事はほんの一寸したことではしかない。その最大部分は女子の負擔となつてゐる。男子のすべきこととして残つてゐるものは、一週間に、一日に當る時間數をも彼等の手間をとらせない。その結果として彼等は一般に、恰も時間は彼等に無價値であるかの如くに、ぶらぶらしてゐるのが、見られるのである。

彼等は、總てのこの餘暇で、よりよい家屋の建築に、又は少くともその改良、及び其の清掃に、従事し得よう、と人は想像するであらう。併しその第一に就いては、原料の獲得に或る困難が起るであらう。そしてその第二に就いては、經驗上、その目的が理解されてゐないか、又はその手數を煩はすに値するものとは考へられてゐないことが、わかる。

彼等は又、衣服の粗生原料を作り又は購買し、そして家庭で仕上げ得よう、と人は想像するであらう。そしてこれは事實上或る程度迄實際行はれてゐることである。彼等が身に着ける大抵のリンネル及び羅紗は彼等自身が調製する。併し粗生原料は、自家製でない時には、労働の貨幣價格が低いので、それを購買することは著しく困難である。そしてそれを着用する様に調製する際には、問題が單に、これを延期し又は無視しても、古い衣服をもう少し長く着用した所で（この

國の慣習を少しも破つたことには確かにならぬといふ場所)「慣習は確かにこれを認めるといふ國に於いて」古い衣服をもう少し長く着用せざるを得ないといふ結果しか伴はない所の、仕事に關するに過ぎぬのであるから、懶惰への誘惑は一般に人間の弱さにとり餘りにも強力であらう。若しアイルランドの農民が、彼れの屋内の職業の結果に對し十分の市場を見出し、爲めに彼が恒常の職業を得て正當な貨幣價格を手に入れる程であるならば、彼れの習慣は間もなく變り得よう。併し或る國に於ける或る多數の人々が規則的な且つ恒常的な仕事を得ることが出来ない場合に、そして彼等が常に且つ便宜に雇傭されてゐる爲めには大きな程度の愼慮と氣力と克己とが必要である時に、彼等が嘗て規則的な且つ勤勞的な習慣を獲得したか否かは、疑はれ得よう。

アイルランドに於いて缺けてゐるものは資本のみであり、そして若しこの缺乏が充たされるならば、其の人民の總ては容易に雇傭せられ得るであらう、と恐らく云はれ得よう。アイルランドの(最も)大なる缺乏物の一つが資本であることは直ちに認められるであらう。併し、多量の資本の輸入は、若しそれが行はれ得るならば、直ちに必要な目的を成就し、そして富の生産に使用せられる許りになつてゐる様に思はれる勞働に比例せる分量の富を創造するであらう、と想像するのは、極めて大なる誤りであらう、と私は考へる。外國への販賣の爲めの(註)財貨を調製する爲めにアイルランドに於いて投ぜられ得る資本の額は、明かに、外國市場の状態に依存しなければならぬ。そして内國製造業に使用せられ得る額は、同様に明かに、内國需要に依存しなければならぬ。資本によつて外國市場を無理に造らうといふ企ては、必然的に、利潤の尙早の下落

を惹起さなければならず、そして大なる損失を蒙つた後に全く無効に終ることもあらう。そして内國需要に關して云へば、多數の人々の習慣が現在の儘であるならば、何程か多量の新しい資本の生産物を吸収するにはそれは全く不適當でなければならぬ。必要な食物がかくも僅かの勞働で得られそして人口が尙ほ生産物に等しく又は殆んど等しい國に於いては、食物の生産に充てられない時間が比例的分量の富を創造する時には、恐らく、常に、社會の下層階級の間に於ける便宜品及び奢侈品に對する極めて決定的な嗜好と、それ等に對する有效需要を惹起す如き購買力とを、伴ふものである。併し、この種の物品に對するアイルランドの農民の嗜好が未だ形成されてゐないことは、周知の事實である。彼れの欲求物は極めて少なく、そしてかゝる欲求物を彼は主として家庭で充たすのを習慣としてゐる。下層階級の人民の主たる食物を成す馬鈴薯が低廉である爲めに、彼れの貨幣勞賃は低い。そして絶對的必要品を手に入れた後に残る部分は便宜品の購買には殆んど充てられ得ないであらう。これ等總ての事情は、内國消費に充てられた製造業から得られる富の増大にとり極めて不利である。併し多數の人民の嗜好と習慣とはその變化が極めて緩慢である。そして他方、この變化の進行に適する以上の分量の資本を使用すれば、必ずや、同一の方途にそれを引續き蓄積し且つ使用するのを助成する如き利潤は生じなくなるであらう。一般に、需要が資本の増大に必要なことは、資本の増大が需要に必要なのと、全く同じである、と云はれ得よう。兩者は相互に作用し且つ助成し、そしてその何れも、若し他方が遙かに後れてゐるならば、旺んに前進することを得ないものである。

R註 若しアイルランドが、貨物を仕上げる上で他國と等しい熟練を有ち、そして其の勞働が眞實に——そして名目的にはなく——低いならば、若し極めて僅かの貨幣に對し多大の仕事が得られ得るならば、外國市場に於ける販賣に對する何の限界があるであらうか？ この國は其の財貨の良質と低廉とで總ての他國と競争して勝を占め得ないであらうか？ 若し多數の人民が唯働きさへしたならば、内國需要の何の不足もないであらう。需要の缺乏は單に手段の缺乏から生じ得るに過ぎない。勞働の結果が獲得されるや否や、常にそれを消費せんとする願望のみならず、更に又その手段も、生ずるであらう。

アイルランドの現實の狀態に於いては、其の製造業に課せられた妨げは、資本の缺乏（²）によると同様に）【¹よりは寧ろ】需要の缺乏によるものである、と信ずるに私は傾く。今度の戦争の終結せる際に當つてこの國特有の慘苦は、その後の資本の破壊が如何なるものであつたとしても、疑ひもなくこのことを起源とするものである。そして其の製造業に對する大なる妨げは、その以前では、英蘭が課した不當な且つ不賢明な制限であつたのであり、それに對する需要をこの制限は防止し又は抑制したのである。【併し乍ら、資本の前拂が行はれ乍ら適當な市場を造出し得なかつたことは時にあつたと考へる理由はあるけれども、或る製造業に對する需要が繁忙せる時には、それが資本の缺乏によつて衰へるに委されたといふ事例は殆んどない、と私は信ずるのである。】（²）アイルランドに於いては實際、繁榮の最大源泉の一つたる完全なる財産の安固が致命的に缺けてゐる。そしてこの缺陷が救治される迄は、英蘭の過剰な資本がどの程度にアイルランドに流

れて行つて最良の効果を擧げるかは、容易には云ひ得ない。かゝる變化は、必ずや、資本の供給の著しき増大と並んでそれに對する有效需要の著しき増大を産出すであらう。併し現實の事態に於いては、資本の前拂が行はれ乍ら殆んど便宜な結果を伴はなかつたことは時にあつた、と考へる理由がある。政府は、特別の機關により、又は國の諸地方間の運輸を便ならしめることによつて、或る確固たる助力を與へ、有利な結果を伴ふこともあらう。併し耕作の擴張に人民を一般的に使用せんが爲めの資本の強制的供給といふが如きものは、必ず、維持され得ない異常な勞働に對する需要を造出し、個人的努力を麻痺せしめる傾向があり、そして終には勞働階級に於ける貧困と慘苦との増大といふことに歸するであらう。

其の食物の生産に必要な時間と勞働とに關しては、アイルランドは、製造業及び商業上の富を造る其の能力は莫大であるといふ狀態にある。若し（²）總ての種類の財産は安固であるといふ事態の下に於いて）改良せられたる農業組織が、人口に必要な食物及び粗生原料を、最もよくそれを爲すに必要な最小分量の勞働を以て、産出し、そして人民の殘部が、土地をぶらつき廻る代りに、大きな且つ繁榮せる都市に於いて行はれる製造業及び商業に従事するとするならば、アイルランドは英蘭よりも比較にならぬ程より富むことであらう。これはこの國の大なる自然的資源を十分に働かすに必要なことである。そしてこの事態に到達する爲めには、多額の資本が疑ひもなく必要である。併しそれが有利に使用せられ得るのはそれが徐々として呼寄せられる時に限る。そして其の尙早な供給は、（²）下層階級及び中流階級の兩者）【¹下層階級の人民】に、内國製造品及び外

國貨物を購買するの（より大なる）意思及び能力【の兩者】を與へる如き、下層階級の人民の嗜好と習慣との變化、【及び】彼等の勞働の支拂法の變更、（及び全社會の構造（二版註）の改良）より、其の效果に於いて遙かに便宜でなく又永續的でないであらう。

二版註 社會の中流階級が大きな比例を占めてゐること程、有效需要にとつて好都合なことはない。然らばアイルランドの状態はニュー・スペインのそれと殆んど同一の結論に導き、そして次のことを證示するものと、云ひ得よう——

（土地保有者の側に於ける）勞働を（雇傭）【支持】する能力は（R註）屢々その意思よりも遙かにより廣大なる範圍に存在するであらうこと。

R註 これは資本家に關することであつて勞働者に關することではなく、そして思ふにアイルランドに當てはまらない。そこで使用されないでゐる資本があるか？

（勞働者の側に於いて）單に一小部分の時間しか（R註）食物の獲得に使用する必要のないといふことは、必ずしも常に、より大なる部分の時間を便宜品及び奢侈品の獲得に使用せしめるに至るものではないこと。

R註 若し選擇權が勞働者の權能に屬するならば、確かに然らず、この場合には彼等の勞賃は高くなければならず、又は寧ろ彼等は彼等の仕事に對しよい支拂を受けなければならぬ。若し勞働が低く、そして選擇權が資本家の權能に屬するならば、同様に確かに然り。それ以外に想像することは、資本の多くは使用されないであらうと想像することである。

肥沃なる國に於ける（R註）富の不足は、資本の不足よりは需要の不足により多くよるものであらうこと。

R註 若し勞働が眞實に高いならば、その通り、若しそれが低いならば然らず。

そして（R註）、一般的には、土壤の肥沃度はそのみでは富の永續的増大に對する適當な刺戟ではないこと。

R註 若し人民が懶惰であり、よき支拂を受け、そして容易に満足するならば、その通り。

第五節 富の繼續的増大に對する一刺戟と考へられたる、

勞働を節約する發明に就いて

勞働を節約する發明は、それに對し決定的な需要がある時の外は、何等か大なる範圍に起ることとは稀である。それは進歩と文明との自然的（結果）【產物】であり、そしてそのより完全な形に於いては、一般に土地に於ける衰へ行く生産力を援助することになるものである。土壤の肥沃度は、天與の賜物であるから、それが欲求されると否とに拘らず存在し、従つて屢々多年の間それを十分に使用する能力を超過してゐなければならぬ。筋肉的力作に代へるに機械を以てする發明は、人間の器用さの結果であり、そして彼れの欲求によつて齎らされるものであるから、期待され得よう如くに、かゝる欲求を【大いに】超過することは稀であらう。

併し同一の法則が兩者に當てはまるのである。それ等は共に生産の便宜といふ項目に屬する。そして兩方の場合に於いて、それが與へる供給能力が適當な市場の擴張を伴はない限り、この便宜は十分に使用され得ないのである。

勞働を節約することにより、財貨を以前よりも遙かにより低廉な比率で市場に齎らす所の、機械が發明される時には、最も通常の結果は、財貨が遙かにより多數の購買者の能力以内に齎されるので、新たな機械で造られた財貨の全量の價值がその以前の價值を大いに超過するに至る程に、それに對する需要が擴大することであり、従つて勞働の節約にも拘らず、より少數ではなくより多數の人手がその製造に必要とされるのである。

かゝる結果は我國の綿機械で極めて明かに例證せられてゐる。綿製品の消費は、それが低廉である爲めに、國內でも國外でも大いに擴大され、爲めに現在造られる綿製品及び綿絲の總體の價值は、比較にならぬ程以前の價值を超過してゐる。然るに過ぐる三十年間の、マンチエスタ、グラスゴウ、其他の都市の人口の急速な増大は、僅少な一時的例外を除けば、綿製造業に關係する勞働に對する需要は、機械の使用にも拘らず、極めて著しく増大されて來てゐることを、十分に證明するものである。

機械の採用がかゝる結果を有つ時には、其の富裕化能力、又は國の内外の貨物の價值及び分量の兩者を増大する其の傾向を、理解することは容易ではない。

併し乍ら機械を應用せられた貨物が、それが低廉になるにつれてその消費が擴大し得るといふ

が如き性質を有たない時には、それより得られる富の増大は然かく大でもなければ又確實でもない。併し乍らそれでもなほそれは極めて有利であらうが、但しこの利益(三)の程度は(事情)

【偶然】に依存する。或る數の資本家が、消費の限られた製造業に於いて(勞働の支拂ひに)各々二〇、〇〇〇磅を使用するを常とし、そして勞働を節約することにより、彼等をして、(勞働の購買に當てられた)各々二萬磅の代りに一萬磅で、この貨物に對する現實の需要に對し供給し得せしめるべき、機械が採用された、と假定しよう。この場合には或る數の一萬磅と、これ等の資本により雇傭せられる人間とが、職から放たれるであらう。他方に於いて、收入の一部分は新たな貨物の購買に充てられ得る地位に置かれるであらう。そしてこの需要は、疑ひもなく、休息資本を他の方向に使用することを奨励するに最も有利なるものであらう。同時に、この需要は新しいものではなく、そしてそれが十分に充たされた時ですら、それだけの數の一萬磅——二萬磅ではなく——を使用することによつて齎された所の、一部門に於ける資本と利潤との減少に代位し得るに過ぎないものであらうことを、想起しなければならぬ。併し(資本を一用途から引去つて他のそれに投ずることには、殆んど常に大なる損失があるものである。(古い固定資本が無用になるので、直ちに、それに對する以前の利子と利潤との額に當る収入は失はれるであらう。))假令殘部の總額が直接に使用せられ(得)たとしても、それは(恐らく價值)【額】に於いてはより小であらう。【それはより大なる生産物を産出しもしようが、併しそれは以前と同一分量の勞働は支配しないであらう。】そして(全體としては)より多くの召使が使用せられぬ限り、

多くの人々が解雇せられるであらう。そしてかくの如くして、同一分量の労働を支配する全資本（及び収入）の能力は明かに、休息資本は減少することなしに、その以前の職業から引去られ、そして直ちに他の職業にそれに等しい用途を見出すといふ、偶然に、依存することであらう。（併し、こゝに假定された、利潤を減少せずに新しい職業に新しい資本に對する即座の用途を見出すの、便宜は、一般的経験と相反する様に、私には思はれる。そしてこゝでなされた假定は、我國の大製造業の大抵のものに於けるが如くに、機械によつて惹起された低廉による需要の擴大が、生産物の全分量と共に全價值をも大いに増大した、といふ場合とは、本質的に異なる場合を提示するものなることが、認められなければならない。）

二版註　こゝで私の考へをかういふ風に述べてあることを考へて見ると、私が時に、シスモンディ氏と共に、機械の敵であるとして類別されたのは、少なからず妙なことに私には思はれる。若し讀者が私が述べたことに注意を向けるならば、こゝで述べた以上を云へば殆んど眞實ではなくなることを認めるべきである、と私は考へる。同一の程度の利益が總ての場合に於いて生じ、そして同一の利潤で資本に新しい用途を見出すには決して最小の困難もあり得ない、と主張することは、私は告白するが、總ての正しい理論にも又普遍的経験にも等しく反する主張である様に、私には思はれる。（譯者註——前節の初めから第六番目の註を参照）

R註　資本を一用途から引去つて他のそれに投ずることには一般に大なる損失があるものであることは、眞實である。併し假定された場合に於いては、それは決して、機械の發見より生ずる利益とは等しくあり得ない。個人は害を蒙るかも知れぬが併し社會は利益する。

若し國の全資本が貨幣か労働かで評價されるならば、改良の前よりも後の方がそれは値する

ことより、少いであらうが、併し労働の現行價格で測定された資本がより少い價值であるからとて、吾々はその故に、マルサス氏と共に、それは眞實により、少い労働しか雇傭しないであらう、と推論してはならない。労働を雇傭する能力は資本の價值には依存せず、特殊的に、それが産出す生産物の年々の分量に依存する。従つて私は、次のことでマルサス氏に同意することは出来ない、『假令殘部の總額が直接に使用せられたとしても、それは額に於いてはより、小であらう。それはより、大なる生産物を産出しようが、併しそれは以前と同一分量の労働は支配しないであらう。そしてより、多くの召使が使用せられぬ限り、多くの人々が解雇せられるであらう。そしてかくの如くして、同一分量の労働を支配する全資本の能力は明かに、休息資本は減少することなしにその以前の職業から引去られ、そして直ちに他の職業にそれに等しい用途を見出すといふ、偶然に、依存することであらう。』私はマルサス氏がかう云ふのを理解する、すなはち、私が綿工場に二〇〇〇〇磅を有ち、そして綿製品が進歩せる機械によつて極めて低廉に供給されることとなり、爲めに私はこの商賣を止める方がよいと考へた、と假定すれば、私が綿工場に於ける私の全財産を販賣しそして私の二〇〇〇〇磅を貨幣に實現し、而して後に或る他の事業に於いてこの貨幣に對するそれに等しい用途を見出し得ない限り、前と同じだけの労働は雇傭されてゐないことになるであらう。

この二〇〇〇〇磅の中、一〇〇〇〇磅は機械から成り、そしてそれは何れの他の職業でも全然役に立たないといふことはあり得る。従つて一〇〇〇〇磅以上を引去ることはないであらう。

問題は、それだけの大きい価値が引去られ得るか否かといふことではなく、それだけの分量の労働が減少せる資本を以て雇傭せられ得るか否かといふことであるのを、記憶しなければならぬ。扱て、この特定の商賣に於いて、雇傭せられたる労働の全分量が、二〇〇〇〇磅には比例せず、一〇〇〇〇磅に比例することは、明かである。一〇〇〇〇磅が支拂ひ得る以上の労働は雇傭せられ得ないであらう、進歩せる機械の發見の後にそれより少い労働が雇傭されなければならぬ必要はない。私は實際、その資本を移さざるを得ない個人は、二〇〇〇〇磅ではなく一〇〇〇〇磅に對して利潤を得るであらう、といふことを認める、併し問題は、何程かのより少い分量の労働が雇傭されるであらうか否か、又社會はこの個人が失ふ程度以上に利益しないであらうか否か、といふことである。そしてこの點に就いては、私は、マルサスを満足させる爲めにより、以上の議論をする必要はない、蓋し彼はそれを認めてゐるからである、——彼は全資本はより、大なる生産物を産出することを認めてゐる。扱てこれが社會が主として利益關係を有つ點である、現實の享樂資料が増大し、そしてこの享樂品の分配に於いてより、小なる分量が社會の最多數階級の分前とならないことが、望ましいことである。同一の貨幣資本が労働の支持に使用せられ、そして人民は増減するものとは假定されてゐないから彼等は同一の貨幣労働を得るであらうことを、吾々は見たのである。

併し貨物は全體としてはより、豊富でありより、低廉であり、従つて各人の勞賃は彼により、大なる享樂を與へるであらう。私は故意に、固定資本の一〇〇〇〇磅は新らしい事情の下に於いて

は最早綿業には使用せられ得ず何等の価値をも有たなくなるものと假定して、私の場合を出来るだけ私に不利益になる様にしたのである。若し、これはありさうなことであるが、それが何れかの他の製造業に於いて用ひられ得るならば、それは更により、以上生産物の分量を増大する傾向があり、これは消費者に更により、有利であらう。

一〇〇〇〇磅の労働の価値を以て、以前に一〇〇〇〇磅の価値の労働と一〇〇〇〇磅の価値の固定資本とを以て造られたと同じだけの量の綿製品が、造られ得ない限り、綿製品は、一〇〇〇〇磅の固定資本を全然無価値として抛棄するのを便宜ならしめる程は、下落し得ないであらう、蓋し若し綿製品の價格が、以前の機械を使用した爲めに、一五〇〇磅だけ高められたならば——それを抛棄するのが製造業者の利益となり得る爲めにはこの財貨は一五〇〇磅だけ下落しなければならぬから。このことが起る時には、彼は自分の資本の一方に對し僅かに一五〇〇磅の利潤を得るに過ぎないであらうが、これは、假定によれば、彼が其の一〇〇〇〇磅を他の何れの商賣に使用しても得ることの出来るものである。

マルサス氏は曰く、『若し、この原理を吟味する爲めに、それをより、以上押し進め、そして我國の財貨に對する外國市場の何等の擴張もなくして、吾々が、機械によつて、今用ひられてゐる労働の三分の一で、現在使用してゐる總ての貨物を獲得し得るとすれば、全部の休息資本が有利に使用せられ得、又は全部の解雇せられた労働者が國民生産物の相當な分前を見出し得るといふことが、少しでもあり得ようか？』(譯註—マルサスの「次のパラグラフを参照」) 私は然りと答へる。三人の人間が各

各一〇人を、その一人は靴の生産に、もう一人は靴下の製造に、そして他の一人は毛織布の製造に、雇傭し、これ等の貨物の總ては社會に於いて必要とせられ且つ消費せられる、と假定しよう。今その各々が進歩せる工程を發見し、それにより彼等は各々五人の勞働を以て同一分量の彼等各自の貨物を生産し得る、と假定すれば、彼等は、各々十人の勞働を雇傭する手段を有つてゐるのであるから、引續き他の五人を雇傭しないであらうか。成程毛織布、靴、及び靴下の生産にはないが、併し人間に有用な且つ望ましい多數の貨物の中の或るもの、生産に。彼等は、さうすることが出来るのであるから、彼等がより、大なる志向を有つべき帽子、葡萄酒、麥酒、什器又は他の何等かの貨物を、獲得しないであらうか？——マルサスの誤謬は、外國貿易の擴張なくしては何事も爲され得ないであらう、と考へる點にある様に、私には思はれる。吾々は總て我國自身の生産品で満足してゐるか？吾々の中の誰も、より多くの且つよりよい衣服、什器の増加、より多くの馬車及び馬、及びよりよい且つより便利な家屋を、好まないであらうか？吾々がこれ等の物を過度に有たない間は、生産の便宜は決して吾々にどうでもよいことではあり得ない。『茶や煙草を得る爲めにより以上の時間勞働すべく誘はれる農民は、新しい上衣を措いて懶惰を選ばであらう。』(譯者註)假定された場合に於いては何人もより以上の時間數勞働する様に求められはしないであらう。彼は煙草又は茶を得、又それを得ずに彼の新しい上衣を得ることが出来よう、そして若し彼がより多くの何物も得ないならば、彼の親方がそれを得るであらう。彼に職を確保する爲めには、マルサス氏が勞働者に於いてはそ

れを作り出すことが極めて困難であると考へてゐる欲求を、親方が有つだけでよいのである。『赤葡萄酒や三鞭酒を飲んだりその客に與へたりすることが出来よう爲めにその營業を續ける取引者や商人は、粗末な貨物の増加を以て、それ程絶えず注意するの勞を拂ふに決して値しないことゝ、考へることであらう！』(譯者註)然らば彼はそれを止め、そして彼の基金の利子で生活するであらうが、この基金は、それにも拘らず、未だに粗末な貨物を十分に得てゐない彼れの後繼者によつて、同様に生産的に且つ同様に熱心に、使用されるであらう。『一國の所得の額が、大なる程度に、勞働や活動力や注意力の力作に依存する場合には、この力作を埋合はすに足る程好ましい何物か獲得せらるべき貨物の中になければならず、然らざればこの力作は止んで了ふであらう。』(譯者註)マルサスのこの文(二番目のパラグラフを参照)これは疑ひもなく眞實であるが、併し、我國の如き國に於いては、起りさうなことゝ考へ得る凡ゆる程度改良の下に於いて、數百數千の人が、彼等に十分に望ましい筈の貨物の獲得に必要な活動力や注意力を、他人が若し彼等にその目的の爲めに基金を委ねるならばその基金を以て、喜んで拂はうとしてゐる。假令それ等の物が基金の所有者自身の力作を刺戟するに足りない——これは私が決して信じない所であるが——と假定しても、『それに使用せられた勞働の分量以外には何の取柄もない貨物を購置せんが爲めに一日六時間又は八時間會計室に勤務するものは實際殆んど全くないであらう。』(譯者註)私はかゝる人々の賢いことを特別に賞めようとは思はないが、併しこれ程普通なことではない。かの金板や寶石やレイスは、それに使用せられた勞働の分量以外の如何なる事情から、其の大

きな價値を得るのであるか？ 而もなほそれ等を獲得する爲めにはどんな苦勞を拂つても大き過ぎはしないと考へるものがあるのである。

若し、この原理を吟味する爲めに、それをより以上押し進め、そして我國の財貨に對する外國市場の何等の擴張もなくして、吾々が、機械によつて、今用ひられてゐる勞働の三分の一で、現在（内國に於いて獲得されてゐる）「使用してゐる」總ての貨物を獲得し得るとすれば、全部の休息資本が有利に使用せられ得、又は全部の解雇せられた勞働者が國民生産物の相當な分前を見出し得るといふことが、少しでもあり得ようか？ 若し職から放たれた資本及び勞働によつて、大いに擴大され得べき、他の外國貿易があるならば、事情は直ちに一變し、そしてかゝる取引の收得は國民所得の價値を維持するに足る刺戟物を與へ得るであらう。併し若し單に内國貨物の増大のみが起り得るならば、勤勞の努力が衰微すべきことを恐れる凡ゆる理由があるのである。茶や煙草を得る爲めにより、以上の時間勞働すべく誘はれる農民は、新しい上衣を措いて懶惰を選ばであらう。生活の普通の便宜品及び奢侈品をその以前の價格の三分の一で獲得し得べき借地人又は小地主は、土地から同一額の剩餘生産物を獲得する爲めに、それ程一生懸命には勞働しないであらう。そして赤葡萄酒や三鞭酒を飲んだりその客に與へたりすることが出来よう爲めにその營業を續ける取引者や商人は、粗末な貨物の増加を以て、それ程絶えず注意するの勞を拂ふに決して値しないことゝ、考へることであらう（R註）。

R註 マルサス氏の議論はこゝでいさゝか矛盾してゐる。貴君は機械の採用の結果として用途か

ら放たれた資本を以て貴君の勞働者に對する職を見出し得ないであらう、と彼は云ふ。そこで私は、彼がこの階級の悲惨な状態を詳論し、そしてこの根據に基づいて機械の無制限の使用に反對してゐることゝ、期待した。所が正反對である。吾々が同情を求められる勞働者の状態は異なる種類のものである。彼は心の中で、茶と煙草の外に、懶惰を措いて新しい上衣を選ばるか否かを、思ひめぐらしてゐる。小借地人は彼れの剩餘生産物を何に費してよいかわからない——そして取引者や商人の地位が、赤葡萄酒や三鞭酒の様な立派な飲料でなければ彼を刺戟してその通常の力作を繼續せしめ得ない程に、繁榮するので、彼れの氣にかけてゐることは、我國の内國貨物を赤葡萄酒や三鞭酒と交換し得る或る外國市場を見出し得るか否か、といふことであらう、と。

若しこれ等のことが、需要の缺乏より吾々を襲ふべき苦難であるならば、私はこの苦難に何時當面してもよく、そしてそれが如何に早く始つても構はない。

何時でも需要に充てらるべき所得がある時には、それを供給せんが爲めの勞働及び資本の使用に何等かの困難があることは不可能であり、それは蓋しかゝる所得の所有者は、それを支出しないよりは寧ろ、一年間百人の勞働を要費した机か椅子を購買するであらうから、と云はれてゐる。相續によつてか或ひは殆んど又は何等の勞苦なしに得られた固定的貨幣收入の場合には、このことは眞實であるかも知れない。主として掠奪といふ（手取早い）「容易な」方法で巨大な富を獲得したロウマの貴族の或る者は、時に娛樂奢侈品に最も莫大な價格を支拂つたことを、吾々はよ

く知つてゐる。反對側に何物もない時には一枚の羽毛も秤を下げるであらう。併し一國の（収入）【所得】の額が、大なる程度に、労働や活動力や注意力の力作に依存する場合には、この力作を埋合はすに足る程好ましい何物か獲得せらるべき貨物の中になければならず、然らざればこの力作は止んで了ふであらう。そして経験は、多數の人が日に日に、引續き確かにその財産を増進せしめ得べき時に、仕事を去るといふことで、大抵の人はそれを爲めに労働せんとする便宜品及び奢侈品の分量に或る限界——如何に可變的な限界であらうと——を置いてゐるのであり、そしてそれに使用せられた労働の分量以外には何の取柄もない貨物を購買せんが爲めに一日六時間又は八時間會計室に勤務するものは實際殆んど全くないであらうといふことを、十分に證示してゐるのである。

併し乍ら（R註、大きな（収入）【所得】が、多額の地代、利潤及び勞賃といふ形で、ひと度一國に形造られた時には、其の價値の何等かの重大な下落に對しては大なる抵抗が爲されるであらう、といふことは、依然として眞實である。次の如きヒュウムの記述は全く正當である（註、すなはち、一國の事情がかゝる状態に持ち來らされてゐる時には、換言すれば、外國貿易によつて、社會が、現實の必需品に使用されてゐない多量の労働に價値を與へるに必要な嗜好を獲得した時には、それはこの貿易の多くを失つても、而も、既に形成された嗜好と既に創造された所得とに供給せんが爲めに、國の不用の資本と器用さによつて爲される國內製造業を改良せんとする異常の努力の故に、引續き偉大且つ有力であることであらうと。併し若し吾々が、かゝる國民の

（収入）【所得】が、かくの如くして恐らくは保持され得ようことを認めるとしても、それが増大する可能性は殆んどない。そして外國貿易によつて齎された市場なくしては、それが同一額に達しはしないであらうことは、殆んど確實である。

R註 こゝでは價値なる語は如何なる意味で用ひられてゐるのか？

註 Essays, vol. I, p. 293.

若し我々が、我が國に於いて、主として我國の機械の結果として輸出してゐる財貨の分量を見、そしてそれに對して得られる收得の性質を考へるならば、吾々はこのことを確信するに至ると私は思ふ。一八一八年一月五日に終る年度の記述で、機械が使用せられてゐる三つの物品——綿製品、羊毛製品及び銅器等を含む鐵製品のみ——の輸出は、二千九百萬磅以上と評價されてゐるのがわかる。そして同年度の主たる輸入物品の中で、吾々は、珈琲、藍、砂糖、茶、絹製品、煙草、葡萄酒、及び棉花は、その價値に於いて全部で、三千萬磅中の一千八百萬磅以上に上るのを見るのである。扱て、私は問ひたい、若し我が國の綿製品、羊毛製品、及び鐵製品に對する外國市場が機械の使用によつて擴大せられなかつたならば、如何にして吾々はこれ等の價値多き輸入品を獲得すべきであつたか？ そして（R註）更に、土地の耕作や資本の蓄積や人口の増大を刺戟すべき同一の結果を産み出す様に思はれる如き、かゝる輸入品に對する内國の代用品を、吾々は何處で見出し得たであらうか？ そして吾々がかゝる考慮に加ふるに、それに對する市場が引續き擴張しつゝあり且つそれに用ひらるべきより多くの資本とより多くの人間とを引續き必要としてゐる

る所の、これ等の製造業に於いて造られた財産を以てし、そしてこの事態に對照するに、その一部分は新らしい發明毎にその以前の職から追ひ出される所の、同一の資本と同一の人間とを、使用する新らしい方法を、求めなければならぬ絶えざる必要、を以てするならば、——生産された貨物に對する市場の同一の擴張なしに、同一の器用さが機械の發明に發揮される場合には、我が國の状態は現状とは全然異なるに至り、そしてそれは確かに、地代、利潤及び勞賃で同一の(收入)¹【所得】を獲得しなかつたであらうことを、確信しなければならぬのである。

R註 これに單に、機械の發明と使用とにより、又我國人の大なる機敏性によつて、我國が大いに便宜に生産し得た貨物に對する、市場の擴張によつて、大なる利益が得られた、といふ主張に過ぎない。これ程正しいことはなく、そしてスペンス氏及び彼と同一考へ方をする少數の者を除いては、私はこの利益が否定されたのを聞いたことがない。私は兎に角自由貿易の利益を過少評價したといふ疑ひはかけられないであらう。通商は便宜品及び奢侈品の交換である。市場が擴張されるに比例して、凡ゆる國の人民は、其の最良の分業を行ひ且つ其の力作を最も有利に利用し得ることとなる。それは常に彼等をして、若しそれを得る他の手段がなければ彼等が自ら造ることの出来る貨物をよりよく且つより低廉に獲得し得せしめるのみならず、更に又それは、彼等の氣候が其の生産に適しないので外國通商がなければ彼等が全然得ることの出来ない他の貨物を得る手段を、彼等に與へるのである。

然らば吾々が外國貿易から得た利益は十分に認められてゐる。廣大な外國市場があつて機械

が改良されるならば、それはかかる利益なき改良よりも、吾々に遙かにより便宜であらう、蓋しそれは吾々をして、その製造に吾々がより優れた熟練を有つてゐる貨物の製造に、吾々の時間と注意とを専ら向け得せしめるからである。併し乍らこれは今の論點ではない。吾々が知り度いと思ふことは、改良は何等かの事情の下に於いて吾々にとり便宜以外のものであり得るか否か? といふことである。マルサス氏の議論はそれは便宜以外のものであり得るといふのである。

この際、我國の外國通商が妨げられたと假定して、吾々の現在の(收入)²【所得】の價值を維持する様に、茶、珈琲、砂糖、葡萄酒、絹製品、藍、綿製品の適當な代用品を、吾々は見出しさうもあらうか否か、と疑ふのは、正當なことであらう。併し、若し、エドワード一世の時代より、又當時廣く行はれてゐた土地財産の現實の分割を以て出發して、我國の貨物の外國の賣口が依然停止的であつたならば、土地のみからの我國の收入は其の現在の額に接近せず、取引及び製造業からの收入には一層接近しなかつたであらう、といふことを疑ふことは出来ないものである。

五〇〇年以前の狀態よりも極めて遙かによりよい所の、ヨオロッパに於ける現實の土地財産の分割の下に於いてすら、その中の諸國の多くは、取引及び製造業がなかつたならば、人口は比較的により、少いことであらう。この種の産業の結果から生ずる刺戟なくしては、彼等の【大きな】地面を販賣の爲めに分割する爲めにも、又はそれがよく耕作される様に配慮する爲めにも、十分な誘因は、(大土地保有者)【彼等】に與へられ得ないであらう。

アダム・スミスによれば、ヨオロッパの北部及び西部の地方の最も重要な製造業は、その嗜好がそれに先立つ外國貿易によつて既に形成されてゐる外國物品を模倣してか、又は内國貨物が輸出に適する迄にそれを徐々として改良することによつて、樹立されたものである(註)。第一の場合には、製造業の始源は、前以ての市場の擴張と外國物品の輸入とに、依存せしめられてゐる。又第二の場合には、或る内地國の國內貨物の改良の主たる目的と用途とは、それを廣汎な市場に適せしめるにあり、かゝる市場なくしては享受されてゐる地方的得點は大いに失はれて了ふのである様に、思はれる。

註 Wealth of Nations, Vol. II, B. III, ch. III, p. 115, 6th edit.

今度の戦争を (R註) 行ふに當つては、吾々は大いに吾々の蒸氣汽罐の援助を蒙つたが、それは吾々をして、莫大なる分量の外國の生産物と外國の勞働とを、支配し得せしめたのである。併し、若し吾々が我國の綿製品、毛織物類及び鐵製品を輸出し得なかつたならば、其の効力は如何に弱められたことであらうか？

R註 蒸氣汽罐等による利益はこの場合思ふにマルサス氏によつて誇張されてゐる。かゝるより低廉な貨物製造手段の採用は貨物の價格を低め、その結果として我國は、一定分量の外國貨物と引換へに其のより多くを與へざるを得なかつた。然らば、我國の改良による外國にとつての利益は、極めて短期間の後は、我國自身がそれから得る利益と同様に大である。

一國が極めて進歩せる機械を發見し、それによつてこの國が、全然外國市場の爲めに造られ

そして内國では何も消費されない貨物を製造する、と假定すれば、——その場合にはこの改良の全利益は外國の得る所となり、この進歩せる機械を使用し發明した國は少しも利益を得ないであらう——但し成程、次の利益だけは別である、すなはち、その國が購買せんと望む外國貨物を獲得する手段としては、職業の分配上、これ程好結果を擧げ得る其の勤勞の使用法は恐らくないといふことだけは。

貨物の價格はそれを生産するの便宜に比例して内國に於いて下落し従つて又外國に於いて下落する、といふ點で私に同意する者は、思ふに、この結論を否定することは出来ない。

市場の擴張より生ずる利益をかくも正しくその價值通りに評價してゐるマルサス氏が、穀物の自由貿易より得らるべき利益をかくも過小評價してゐるのは、奇妙なことである。市場の擴張と自由貿易とは同一事の異なる名前である、蓋し、外國がそれで我國の綿製品、毛織布、及び鐵器を購買するのが最も便宜な貨物を自由に入れること以上に、これ等の貨物に対する市場をより大いに擴張し得るものは、何であるか？

若しアメリカの鑛山が有効に機械によつて採掘され、そしてスペイン國王の租税がこの得點を十分利用する様に任意に増額せられ得るならば、その鑛山は何と莫大な收入を彼に與へるやうにさせられるのではなからうか！ 併し若し貴金屬に對する市場が隣接諸國に限られるならば、かかる機械の結果がとるに足らざるものとなり、そして其の主たる結果が資本及び勞働を職から放つにあることは、明かである。

我國に於ける現實の事態に於いては、マンチエスタ、グラスゴウ、リイズ等の人口と富とは、大いに増加しつつある。それは蓋しこれ等の都市の財貨に對する需要が擴大して行くので、より多くの人間が引續きそれを造り上げる爲めに必要とされてゐるからである。併し若し、適當な市場の擴張を伴はぬ機械による労働の節約の爲めに、遙かにより少數の人間が必要とされてゐるならば、これ等の都市が【比較的】(より)貧しく、そして人口が(より)少いであらうことは、明かである。一地方に於いて職から放たれた不用の資本と労働とが、如何なる程度まで他の地方を富ましめてゐるであらうかは、云ふことが出来ない。そして吾々は事實に訴へて確めることが出来るのであるから、この問題に對しては如何なる主張でも爲され得よう。併し私は問ひ度い(註) 密に或る時にこれ等の製造業で不用になつた資本が保存され且つ他所で使用されるのみならず、更にそれは、他の場所で、市場の擴張を伴つて、マンチエスタ及びグラスゴウに於けるが如くに有利に用ひられ、且つそれ程の交換價值を造り出すであらう、と云ふことには、少しでも尤もらしい根據があるかどうか？ 略言すれば、若し吾々が今輸出してゐる二千萬磅の値の綿製品が、有效な外國の競争か又は積極的な禁止かによつて、完全に停止されるとしても、吾々は、個人に對しては利潤の點で等しく有利であり、又國に對しては其の收入の交換價值に關して等しく致富の力ある、吾々の資本及び労働の用途を見出すのに、何等の困難もないであらう、と述べるのに、何等かの尤もらしい根據があるのか？

R註 私、資本は他の場所で使用され、そして又同一の利潤率で使用されるであらう、と考へ

る者の一人であるが、併し、私は、若し綿製品の輸出が停止され、そして我國がその事業に吸収されてゐる資本を他の場所を使用せざるを得ないならば、我國はかゝる處置によつて大いに苦難するであらうといふことは、疑はない。

利潤率は外國貿易には依存せずに、内國に於いて最後に耕作されてゐる土地に於ける労働に對する收得と生産物の分配とに依存する。これ等のものが引續き不變であり、そして外國貿易より内國取引への變化に於いて何物もそれ等のものを變更し得ないと假定すれば、利潤は引續き同一率にあるであらう。若し以前に二〇〇〇〇磅の資本を以て私が年に二〇〇〇〇磅の利潤を得たとすれば、私は引續き同一の利潤を得るであらうが、併し私の二〇〇〇〇磅を以て同一分量の外國及び内國製貨物を支配し得ないであらう。國の全收入は同一の貨幣價值を有つであらうし、そして私は同一の眞實價值を有つであらうと云ひ度いが、併しこの價值はより少い貨物で表現されるであらうから、其の多くは價格が騰貴するので、同一の眞實收入で購買されるべき享樂品はより少いであらう。

マルサス氏と私とはこの問題に就いて本質的には意見を異にしない。彼は、貨物は依然同一の價格にあつて、より少い貨幣利潤が得られるであらう、と考へる——私は、同一の貨幣利潤が得られるであらうが、併し貨物は價格が騰貴するであらう、と考へる。吾々の意見が外見上異なるのは、吾々が價值を測定する媒介物が異なるからである。

疑ひもなく(註) 如何なる國も、如何に多量であらうともそれが生産する總てを消費する

〔資格〕〔能力〕を有つてゐる。そして健康な凡ゆる者は、彼れの心身を、一日十時間又は十二時間、生産的勞働に充てる能力を有つてゐる。併し、かゝることは、必ずしも富の増加に關する實際的歸結を含むものではない所の、〔一國の能力に關する〕無味乾燥な斷定である。若し吾々が吾の綿製品を輸出し得ないならば、吾々は、それを總て（生産者に償ふ如き價格で自分で）〔國內で現物で〕消費する能力は有たうが、その意思は有たないであらう。そして吾々の國民的富と收入との維持は、綿業から追ひ出された資本が、以前に輸入せられてゐた外國財貨程に高く評價せられ且つそれ程熱心に消費される貨物を、生産する様に、用ひられ得るか否か、といふ事情に〔全然〕依存するであらう。外國市場には何の魔術もない。最終的需要及び消費は常に國內になければならない。そして若し、人々を刺戟して一日に同じ程の時間働かせ、同一の享樂を與へ、且つ同一價値の消費を造り出す（R註三）所の、財貨が國內で生産せられ得るならば、外國市場は無用であらう。併し乍ら吾々は、經驗によつて、この點に關して、種々なる氣候と土地への貿易によつて得らるべきものと、同一の效力ある、貨物を生産することは殆んどどの國にも出來ないことであるのを知つてゐる。かゝる貿易なく、且つ生産力の大なる増大があれば、勤勞、消費、及び交換價値が減少するといふ少なからぬ危險がある。そしてこの危險は、機械によつて内國商品が低廉になつたことが、支出の増加よりは寧ろ貯蓄の増大に導くことになれば、最も疑ひなく實現されるであらう。

R註一 其の身心を一日十時間又は十二時間生産的勞働に充てるには、或る大いさの力作を必要

とするが、併し以前に生産するの苦痛を採つたものを消費するには全然力作を必要としない。一方は苦痛を與へ他方は快樂を與へる。斯も異なる事を如何にして類似してゐると考へ得ようか？吾々は恐らく假定された場合に於いて吾々の綿製品の總てを消費する希望を有たないであらう、併しそれを生産する勞働は、吾々が消費せんとする他の物を生産し得るであらう。

R註二 一國の幸福は、それが有つてゐる享樂すべき物の分量に依存し、かゝる貨物の『價値』には依存しない。

兎に角、マルサス氏が機械の使用に關して望むことを理解するのは困難である。世界は一つの大きな國と考へられ得よう——かう考へて、マルサス氏は機械の最も廣汎な使用に反對しない、そしてこの點では私は彼に同意する。吾々が意見を異にする様に思はれるのはかういふ點である、すなはち私は、或る事件によつて在來も將來も外國と少しも通商しない極めて限られた地域に住む人民も、それにも拘らず、『資本の蓄積、土壤の肥沃度、及び勞働を節約する諸發明』（譯者註—本節の最後）から純粹の利益を得るであらう、と信ずる——マルサス氏は、多くの場合に於いてこれ等のものは彼等に對する不幸な贈物であらう、と考へる、それ等は、彼によれば、それを便宜ならしめる需要を伴はなければならぬ。扱て私は需要は供給に依存すると考へるから、豊富な貨物を獲得する手段は思ふに決して便宜以外のものではあり得ない。

併し、生産の便宜が國の内外共に市場を開拓する最も有力な傾向を有つことは、周知のことである。従つて、（現實の事態）〔大抵の國の現状〕に於いては、機械の採用から（大きな利益が期

待せられそして何等かの永續的害悪を危惧する理由は殆んどない。推定されることは常に、それは富及び價値の大なる増大に導くであらう、といふことである。併しなほ吾々は、機械を以て筋肉労働に代へることから得られる屈指の利益は、生産せられたる貨物に對する市場の擴張と、消費に對し與へられる刺戟の増大とに、依存することを、そしてこの市場の擴張と消費の増大とがなければ、この利益は大いに減少されなければならぬことを、認めなければならぬ。土壤の肥沃度と同様に、良き機械の發明は、莫大な生産力を齎らすものである。併しこれ等の大なる生産力の何れも、若し社會の位置及び諸事情が、又は習慣及び嗜好が、十分な市場の開拓と適當な消費の増大とを、妨げるならば、十分に發揮せしめられ得ないのである。

生産に最も好都合なる三大原因は、資本の蓄積、土壤の肥沃度、及び労働を節約する諸發明である。それ等は、總て同一方向に作用する。そしてそれ等は總て、需要を顧ずる供給を便宜ならしめる傾向を有つ故に、それ等は、別々にも又一緒にも、「貨物に對する需要の繼續的増大によつてのみ維持せられ得る所の」富の繼續的増大に對する適當な刺戟を、與へるものではないからである。

第六節 富の繼續的増大を保證する爲めに、生産力と

分配手段とを結合するの必要に就いて

吾々は會て、生産力が如何なる程度に存在しようとも、それはそれのみでは、それに比例する程度の富の創造を確保するに足りないことを、見た。その外の何物か、この力を十分に發揮させる爲めに、必要である様に思はれる。「そして」これは（生産せられた總てに對する有効な且つ妨げられざる需要である。そしてこの目的の到達に最も寄與する様に思はれるものは）全量の交換價値を引續き増大する如き、生産物の分配、及びそれを消費せんとする者の欲求へのこの生産物の適應、である。（富と價値との區別に關する前の節（譯者註）に於いて、富と價値とが最も密接に關聯する場合は、前者の生産に對する刺戟としての後者の一般的必要といふ場合であることを、述べた。一物の評價、又はそれが獲得せられたる時に個人又は社會がそれに附する價値が、それを獲得する爲めに拂はれた犠牲を適當に償はない限り、かゝる富は將來生産されないであらう。）

R註 その通り。缺陷ある分配はこれ等の結果を伴ふであらうが、併し、貴君は、凡ゆる者をして好むが儘に生産することを許し、そして彼れの生産せるものを自ら消費し、又は他人の労働の生産物とそれを交換するのを許す、といふ保證よりもよりよいそれに對する如何なる保證を、有ち得るか？ 貨物を支配する彼れの能力は、彼が自分の生産する物を選ぶ能力に、依存しなければならぬ。

個々の場合に於いては、特定貨物を生産する力は、それに對する有效需要（の強度）に比例して、發揮せしめられる。そして（生産の便宜と關係なき）其の（増大）「生産」に對する最大の刺

戦は、(より大なる價值)【より多く】の資本【及び労働】がそれに使用せられるに先立つての、高き市場價格、又は其の交換價值の増大である。

同様にして(R註)、全體として見ての、貨物の繼續的生産に對する最大の刺戟は、【より多くの労働及び】(より大なる價值の)資本がそれに使用せられるに先立つての、其の全量の交換價值の増大である。【そしてかゝる價值の増大は、社會の現存の欲求を満足し、且つ新らしき欲求を鼓舞するに、最も適する如き、現實の生産物の分配によつて、起るものである。】

R註『より多くの労働及び資本がそれに使用せられるに先立つての、貨物の全量の交換價值の増大』とは何のことであるか？ 若しその意味が、それは労働に比較してより價值多い、といふことであるならば、それは、労働は價值に於いて下落してゐる、と云ふのを遠廻しに云つたことになる——マルサス氏は労働の價值を労働者の稼ぐ貨物の分量で測定するから、何かの原因によつてより多くの貨物が労働に對し與へられる時には常に労働は騰貴すると云はれ得、より少い貨物が與へられる時には常に労働は下落すると云はれ得よう。

若し國の總ての道路と運河とが破壊せられ、そして其の生産物を分配する手段が本質的に阻害せられるならば、生産物の全價值は大いに下落するであらうといふことは、前節に於いて述べた所である。實際若し、種々なる地位にある現實の人口の欲求、嗜好及び能力に適當しない様に生産物が分配せられたならば、其の價值は、比較的に全く少額になる程度に下落するであらう。同一の原理によつて、若し國の生産物の分配手段が更に一層便利にせられるならば、又若し消費者

の欲求【嗜好】及び能力への適應が現在よりもより完全であ(り、そして新らしい嗜好を鼓舞するによりよく適合するならば、全生産物の價值の大なる増大が(先づ利潤の増大の形に於いて、次いで價值の比例的増大を伴はざる分量の増大の形に於いて)起るであらうことには疑ひはあり得ないのである。

(併し交換價值の全量を増大せしめる分配の能力を例證する爲めには、吾々は單に經驗に訊ねるだけでよい。英蘭に良い道路や運河が開かれる以前には、多くの田舎の地方に於ける生産物の價格は、ロンドン市場に於ける同一種類の生産物に比較して、極度に低かつた。分配の手段が(R註)便利になつた後は、地方の生産物の(地方に於ける)價格と、それと引換へに地方に送られる或る種のロンドンの生産物の(ロンドンに於ける)價格は、騰貴し、而も地方の生産物がロンドン市場に於いては下落した程度以上に、又はロンドンの生産物が地方の市場に於いて下落した程度以上に、騰貴し、その結果として、全生産物又はロンドン及び地方の兩方の供給品の價值は、大いに増大せられた。そして需要の擴張によつてより大なる分量の資本の使用に對しかくの如くして獎勵が與へられてゐた間は、この擴張によつて惹起された利潤の一時的騰貴は、必要とされる追加資本(及び労働)を供給するに大いに役立つたことであらう。(運輸の便宜の増大によつて惹起された一國の貨物のよりよき分配が、全生産物の分量と共に其の價值を増大せしめなかつたことは、未だにない、と私は信ずる。)

R註 こゝに假定された、ロンドンと地方との間の自由な通商といふ場合に於いては——それは

労働の價值の下落を伴ふであらうと私は云ひ度い。若し穀物がより便宜に地方からロンドンへ運ばれ得るならば、其の價值はロンドンに於いて下落し、そして穀物は労働の價格の規制者であるから、労働も亦恐らく下落し、そして利潤は騰貴するであらう。

併し穀物は何故にロンドンに於いて下落するのか？ 蓋しそれを栽培しそれを其の地に齎らす爲めに初めから終りまでに必要な労働の分量がより小であるからである。

通商の便宜はロンドンに於ける地方の生産物及び地方に於けるロンドンの生産物を下落せしめるであらうが、併し地方の生産物は地方に於いては騰貴も下落もせず、ロンドンの生産物はロンドンに於いて又同様であらう。それが生産された場所に於ける、又實に總ての他の場所に於ける、それ等の價格は、其の生産費によつて左右されるであらう。

* 私は生産費の中に常に其の現行率での利潤を含む。

【一國の全生産物の交換價値の増大は如何にして測定せらるべきであるか？ と恐らく問はれるであらう。眞實交換價値は、其の本質上、如何なる正確な且つ標準の尺度も有ち得ないことは、前にこれを述べた。従つて今の場合に於いて、完全に満足な尺度を擧げることが出来ない。併し】
 (全生産物の價值の増大を測定する際には) 一般的には、且つ短期間に就いては、吾々の最も普通の價值尺度たる地金に頼(つても安全であ)り得よう。そして絶對的に考へれば、富は殆んど貨幣と無關係のものではあるけれども、而も世界の種々なる國の相互の關係の現狀に於いては、貨物の供給に比較しての其の需要の増減なくして、一國の總ての貨物の地金價值の大なる増減が

起るといふことは、稀なことである。

併し乍ら疑ひもなく、(若干の長さの時期に就いては)「時に」地金の價值が、常に一般的のみにならず、更に特定の諸國に於いて、變動することがある。そしてこれは、一國は、其の總ての貨物の貨幣價格に下落が生じた後は、「恐らく」富の増加へと刺戟せられないであらう、と云ふ積りではない。(従つて、貨幣の價值の變化に關して疑ひがある時には、私がその有用性とその比較的正確性とを確證せんと努め、且つそれにしてはアダム・スミスが『労働が銀及び總ての他の貨物の價值の眞實尺度であり、或る特定の貨物又は一群の諸貨物がさうであるのではないことを、記憶しなければならぬ』(三版註)といつてゐる所の、その標準に吾々は頼らなければならぬ)【異なる國及び異なる時の貨物に適用するに當つて、眞實交換價値の尺度の最もよい近似物として、私は以前に穀物と労働との中項を提議した(二版註)。そして穀物及び労働自身を除いて何等かの貨物が測定せらるべき時には、私は常にこの尺度を擧げる積りである。併し國民的富を論ずる際には食物の交換價値を含むのが必要であるから、又食物はよく食物の尺度ではあり得ないから、私は一般的に、生産物の地金價格が支配する國の内外の労働を、又はそれを獲得せんが爲めに人々が提供する意思及び能力を有つ自己自身の又は他人の力作の犠牲を以て、適用され得る最良の價值尺度として、擧げるであらう。そしてこれは疑ひもなく正確なものではないが、而も今の目的には十分に正確なものである。】

一版註 第二章第七節

一般的富は、其の特定部分と同様に、常に有效需要に従ふものである。貨物に對する^(R註)大なる需要のある時には常に、換言すれば、全量「¹の交換價值」が⁽²⁾それを生産するに何程かのより大なる價值の資本を必要とすることなくして、以前よりもより大なる分量「¹の價格で通常以上」の（標準）勞働を支配する時には常に、貨物の一般的増大を期待すべき理由があり、これは特定貨物の市場價格が（其の貨幣生産費の比例的騰貴を伴はずに）騰貴する時に其の貨物の増大を期待する理由と同一種類の理由である。そして他方に於いて、それが支配すべき勞働で測定された一國の生産物の價值が下落⁽²⁾し、他方同一價值の前拂が繼續）する時には常に、（勞働者を働かせる）「それと共に同一分量の勞働を購買する」能力と意思とが減少されなければならず、そして生産物の増大「¹に對する有效需要」は一時の間妨げられなければならぬ「¹ことは明かである」。

R註 マルサス氏が、凡ゆる機會を利用して、諸國を刺戟して力作に赴かせる需要の重要性を強調し、そして常にこの鼓舞力の不足を恐れてゐるのが、觀られるであらう。然らば彼が「需要」なる語に如何なる意味を附してゐるかを正確に確かめるのが望ましい。こゝで吾々は、貨物に對する大なる需要とは、全量の交換價值が同一の價格で通常以上の勞働を支配することであると告げられる。

私が一〇〇〇磅の價值の帽子、靴、靴下、等を有ち、そして勞働が一日二志に値すると假定

すれば、私の貨物の全額は一萬日の勞働に値するであらう。若し勞働が一日一志八片に下落するならば、私の貨物は矢張り一〇〇〇磅に賣れるであらうが、併しそれは一萬二千日の勞働を支配するであらう。——然らばマルサス氏によれば私の貨物に對する需要は増大したのであり、そしてこの需要の増大は、一特定貨物の市場價格の増大がその貨物の生産の増大に導くと同様に確實に、生産の増大に導くであらう。貨物がより多くの勞働を支配するからといつて、恐らくは單に人口の過剰があるからといつて、これを需要の増大と呼ぶ代りに、そして貨物は價值に於いて増大したと云ふ代りに、私は、若しこの表現が許されるならば、貨物は依然同一の價值にありそして勞働は價值に於いて下落し、そして勞働の下落の結果として利潤は騰貴した、と云ひ度い。貨物に對する需要はより大でもより小でもないであらうが、併し親方はより多く消費する權利を得、雇人はより少く消費する權利を得るであらう。親方が彼等の増大せる所得を蓄積するか費消するかに従つて、この高い利潤はより多くの生産品に導き又は導かないであらう。利潤が普く高い時に、より多量の貨物を生産するの誘引は、一特定貨物の高い市場價格が與へる、その特定貨物を生産する誘引とは、極めて異なるであらう。

後の場合には、高い利潤はその一貨物を生産することによつてのみ獲得せられ得るに過ぎないが、他方に於いては高い利潤は總てによつて享受せられる。貨物が勞働で測定して現在一〇、〇〇〇日の勞働ではなく一二、〇〇〇日の勞働に値するからといつて、従つて一二、〇〇〇日の勞働を行ふ人間が使用せられるであらうと想像するのも、誤りであらう——若し親方が得た

總てと彼等が貯蓄した總てとが生産的に使用せられるならばこのことは眞實であらうが、併し決してさういふことにはならない。若しポルトガルの友人が私に一千日の労働に値する一パイアのポルト葡萄酒を與へるとするならば、この國の貨物は以前よりも一〇〇〇日の労働だけ價値がより多くなるであらうが、併し若し私が家族とその葡萄酒を飲むならば、唯の一人も餘計には雇傭せられないであらう。私は決して貨物の全量の交換價値が『同一の價格で』通常以上の労働を支配するのを見ようとは望まない、蓋し、私は、高い利潤から生ずる利益を大きく評價しはするけれども、かゝる利潤が労働階級を犠牲にして増大するのを見ようとは、決して望まないからである。私は、マルサス氏はこの問題に就いて私と同一の感情を有ち、そしてこれが貨物の分量の増大を伴はざる其の全量の價値の増大に附せられた條件であることを理解してゐないのだと、確信する。吾々が望むべきものは、貨物の價値の増大を伴はずして其の分量を増大することである。その時には貨物の全量は以前と同一の貨幣價値を有ち得よう、そして若し労働が一日につき二志から一志八片に下落しても、労働者は、一志八片で、以前に二志で得たよりもより多くを得ることも出来ようから、前よりもより豊かになることも出来よう。利潤率は前と同様にして増大されるであらう、併しそれは労働階級を犠牲としてではないであらう、——それは單に労働の生産性の増大より生ずるに過ぎないであらう。

リカアドウ氏は、その價値及び富を論ぜる章に於いて曰く、『一定分量の毛織布及び食料品は、それが百名の労働によつて生産されたると、二百名のそれによつて生産されたるとを問はず、同一

の人数を維持し且つ使用し、而してそれ故に同一量の仕事を爲さしめるであらう。併しそれ等の物は、其の生産に若し二百名が使用されたのであれば、二倍の價値をもつであらう。』(註併し彼自身の特有な價値の評価を採つてすら、この記述は【實に】(決して)眞實(ではない)【たることは極めて稀】であらう。單に百日の労働を(註)要費したに過ぎない毛織布及び食料品は、最も不自然な事態の場合を除いては、決して、それが二百日の労働を要費した場合と同一分量の仕事を爲さしめ得ないであらう。かくの如く想像することは、(利潤は百パーセントであり)必要品で測定された労働の價格が總ての時及び總ての國に於いて同一であり、そして労働に比較しての必要品の多少に依存しない、と想像することであり、普遍的經驗に反する想像である。九クヲタアの小麦は恐らく英蘭に於いては一年の労働を支配するであらう。併し(十八)【十六】クヲタアはアメリカに於いては同一の仕事を爲さしめないであらう。(そして、同一の時に於ける異なる國、及び異なる時に於ける同一の國に於いて、穀物勞賃が甚だしく各種各様であることは、労働者を働かせる必要品の能率を決定するものが、其の分量ではなくして其の價値であり、そして其の價値を増大せしめるものは何れも同時に其の能率を増大せしめ、そして其の價値を減少せしめるものは何れもそれを減少せしめるであらう、といふことを、最も明かに證示してゐる。【その収入の資本への急速な轉換によつて(註)生産的労働が突如として増大するか、又は同一分量の労働の生産性が突如として増大するか、の何れかの場合には、必要品の一定量が同一分量の労働を全く働かせ得ないことは、少しも疑ひがない。そして若し生産物の交換價値が、其の分量の増加

する比率以上の比率で下落するならば（このことは極めて容易に起るであらうが）、その時には、必要品の分量の増大によつては、同一分量の労働は働かせられず、そして富の増進は決定的な妨げを受けるであらう。】

註 Prince, of Polit. Econ. ch. XX. p. 349. (譯者註—前掲譯書、二九九頁)

R註一 私はそれを知つて居り、そしてそれを聞いて嬉しく思ふ。若しそれが出来るならば總ての利益は利潤に歸するであらう。一部分が労働者の享樂品の増大に歸するのが極めて望ましい。

R註二 私は農業者でありして一〇〇クワタアの穀物を生産しその中五〇クワタアを私の労働者に與へる。私はより多くの労働を使用することなくして私の土地の生産性を向上せしめ、そして一二〇クワタアを得、そして私は今は五五クワタアを私の労働者に與へる。帽子製造業者、毛織布業者、靴製造業者も其の事業に於いて同一の改善を行ひ、そして彼等が得る生産物を同一の比例で彼等と其の労働者との間に分つ。社會は富裕にならないか？ それは以前よりも豊かではないか？ 價値を以て貴君の好むものなりと呼び、貨物が騰貴するとか下落するとか云つて見た所で、社會の状態は改善されてゐなければならぬではないか？

マルサス氏は曰く、『同一分量の労働の生産性が突如として増大することにより、必要品の一定量が同一分量の労働を全く働かせ得ないことは、少しも疑ひがない。』生産物は誰に歸屬するであらうか？ 親方又は労働者に。若し前者に歸屬するならば、彼等はより多くの労働を支配する能力を得る。若し後者になれば、同一分量の労働は使用されないであらうけれども、労働

者は豊かになり、そして親方は減少せる労働量を以て以前と同様に裕かであらう。この場合に、マルサス氏は、必要品の一定量が同一分量の労働を全く働かせ得ないことを以て、害悪なりと云ふのか？ それが働かせ得ないことが最も望ましいのである。

【¹外國貿易の衰退 R註又は其他の原因によつて生産物に對する需要が減少する時には、かゝる妨げは更に一層明かに起るであらう。かゝる事情の下に於いては、生産物の分量も價値も間もなく減少するであらう。そして労働は需要の缺乏によつて極めて低廉となるであらうけれども、資本家は間もなく以前と同一分量の労働を使用する意思も能力も喪失するであらう。】

R註 この結論は私には如何に誤つてゐる様に見えることであらう！

(²このことは、生活の必需品に當てはまると同様に、奢侈品と名付けられてゐる物品にも當てはまる、蓋しかゝる貨物は現物では通常の労働の維持に充てられた財本の如何なる部分をも成すものではないけれども、而も其の價値の増大は、それを生産する者に、其の分量の増大に對する最大の刺戟を成す財本に對するより、大なる支配力を、與へるからである。従つて凡ゆる場合に於いて R註、労働で測定された(全)生産物の價値の繼續的増大が、富の繼續的な且つ妨げられざる増大にとつて、絶対に必要な様に思はれる。蓋しかゝる價値の増大なくしては、新しい労働が働かせられ得ないことは明かであるからである。そしてこの價値を維持せんが爲めには、生産物の有効な分配が行はれ、そして消費せらるべき物と消費者の數、欲求、及び能力との間に、換言すれば貨物の供給とそれに對する需要との間に、正當な比例が維持せられることが、必要である。

R註 私はこの問題をかくも長く纏説して讀者を倦怠せしめてゐるだらうと恐れるが、併しマルサス氏のこゝでの主張は、かういふことにならなければならぬ。若し一國が總ての種類の其の生産品を倍加しても、それがより多くの労働を支配し得ない限り、それはより富まないであらう。私は、其の利潤は價值に於いてより高くなるかも知れないが、利潤は二倍の分量の享樂品を支配し、この國は二倍に富むこととなるであらう、と云ひ度い。

マルサス氏は富と價值とは同一物ではないことを同意するが、而も彼はこゝで主張する、『生産物の價值の増大が、富の繼續的な且つ妨げられざる増大にとつて、絶對的に必要な様に思はれる。』貴君が何等のより多くの労働をも用ひずに貨物の分量を倍加する考案をしても、一國の富は増大しないであらうか？

(収入の形に於ける) 社會の上流階級の支出と消費との現實の且つ繼續的の減少によつて惹起されたる、資本の急速なる蓄積の場合には、(全生産物の)「この」價值が維持せられ得ないことは、既にこれを證示した(註)。而も資本に追加せんが爲めの収入よりの貯蓄が富の増進に於ける絶對的必要階梯であることは、極めて容易に認められるであらう。然らばこの貯蓄は、如何にして、危惧せられる價值の減少なしに、行はれるであらうか？

註 本章第三節

それは(R註、(國民的収入の) 價值「又は収入」の前以ての増大の結果として行はれ得ようし、又實際上殆んど常に行はれて來たが、この場合には常に需要及び消費の何等の減少も來さない許

りでなく、更にその過程の凡ゆる部分を通じて需要、消費及び價值の現實の増大を伴つて、貯蓄が行はれ得よう。そして蓄積に大なる刺激を與へもすれば、又その蓄積を富の繼續的生産に於いて有效ならしめるものは、事實上この前以ての(國民的収入の) 價值「及び収入」の増大である。

R註 これは疑ひもなく一つの方法である。

シスモンディ氏は、その最近の著作に於いて、蓄積の限界を論じて曰く、『要するに、凡そ一年の生産物の總體を前年の生産物の總體と交換するのみである。』(註) 若し實際これが事實であるならば、國民生産物が如何にして凡そ増大せられ得るか、を言ふことは困難であらう。併し、若し生産物が、それを獲得し且つ消費する爲めに適當な犠牲を拂ふの願望を刺激するが如くに、よく分配せられ、且つ社會の嗜好と欲求とによく適合せしめられるならば、事實上その大なる増大は直ちに適當な市場を見出し、従つて交換價值を大いに増大するであらう。(事實上、價值の増大は常に、貨物に對する外國の需要の増大に際して眞實に起る。そして疑ひもなく、價值の同様な増大は、内國消費者の嗜好と願望とによりよく適合する如き内國貨物の生産及び分配の場合に、起るであらう。『貨物の一切の増大は先づ収入の増大で現れる。そしてそれが、適當に分配せられ且つ消費が供給に適當に比例せしめられた爲めに價值に於いても分量に於いても増大する限り、収入の年々の増大と支出及び需要の年々の増大と矛盾することなくして、年々の貯蓄が行はれ得ようことは、明かである。』

註 Nouveaux Principes d'Economie Politique, tom. I, p. 120. 消費及び需要に關するシスモンディ氏の諸原理の(若

干〔多く〕には私は全く同意する。併し消費及び需要の一切の増大がそれに依存する所の、國民收入の形成に關して、彼が採る見解が正しいとは、私は思はない。そして私は少しも、機械に關して彼が懐いてゐる恐れには同じ得ず、そして競争の諸影響から個人や階級を保護せんが爲めの、政府の側の類々たる干渉の必要に關して、彼が採る意見には、一層同じ得ない。人口に關して云へば、彼は、かくも有能な且つ卓越せる論者から私が期待し得る以上に、私の著作を誤解してゐる。彼は、私が可能なる人口増加を現實の食物増加と比較してゐる故に、私の推理は全く詭辯的であると言ふ。併し私は確かに、可能なる人口増加を可能なる食物増加に比較し、又現實の人口増加を現實の食物増加と比較したのであり、そして私の著書の大部分は、後の比較に充てられてゐるのである。實際上シヌモンディ氏は遙かに私以上に過剰人口を危惧し、そして凡ゆる種類の奇妙な手段でそれを壓縮せんことを提議してゐる。私は、勞働階級に、其の數の過大の増加によつて彼等の利害が影響される仕方を説明し、そして憤懣と先見との習慣を阻害する傾向ある積極的法律を除去し又は弱めるといふこと以外の方法を、今迄推奨したこともないし又今後推奨もしないであらう。

一國の財産は〔R註〕、假令必然的に、緩慢に造られるとはいへ、個人の財産が事業の上で一般に造られると同様にして、造られるものである、——即ち確かに貯蓄によつて、併し利得の増加によつて與へられ、且つ決して奢侈や享樂の目的物への支出の減少を意味せざる、貯蓄によつて。

R註 併し乍ら、個人は、奢侈や享樂の目的物に對する支出を減少することによつて、彼れの財産状態を改善することが出來ようことは、認められるであらう。一國は何故に同一のことを爲し得ないであらうか？

多くの商人は〔R註〕、この財産を獲得する間には、奢侈や享樂や贅澤の目的物への彼れの支出を減少よりは寧ろ増大せしめないことは、恐らく唯の一年としてなくとも、大なる財産を造つてゐる。

る。我國に於ける資本の額は巨大であり、そしてそれは確かに過ぐる〔四十〕〔二十五〕年間に極めて著しく増大した。併し振りかへつて見ると、〔收入の形での〕〔不生産的勞働の維持への〕支出が減少した形跡は殆んど見出され得ない。併し乍ら若し或るかゝる形跡が見出され得るとしてもこゝに展開された理論と全く矛盾することなく見出されるであらう。それは、特殊の事情によつて、國民生産物の價値が維持せられず、又その結果として支出の能力の〔大なる〕減少と富の生産に對する〔比較的〕〔大なる〕妨げとがあつた所の、期間中に見出されるであらう。

R註 その通り、併し奢侈や享樂や贅澤の目的物への支出の増大を避けた所の、仲間の商人は、同一の利潤で、彼よりもより速かにより富むであらう。

分配をかくも強調し〔R註〕、そして需要〔の増大〕を全生産物の交換價値〔の増大〕によつて測るといふことは、一國の純收入の地位を下げた總收入を上げ、そして各々の物品に最大の人數を使用する耕作及び製造業の制度を擁護するものと、恐らく云はれるであらう。併し、私は既に、農業及び製造業の兩者に於ける勞働の節約と熟練の増大とは、一國をして、利潤の減少を齎らすことなくして其の耕作をより貧弱なる土地にまで押し進め、そして其の製造品に對する市場を廣汎に擴張し得せしめて、全體の交換價値を増大せしめる傾向を有たねばならぬことを、證示した。そして我國に於いてそれが、過ぐる三十年又は四十年間に起つた國民的富の價値の急速な且つ驚くべき増大の主たる源泉でなければならぬといふことには、疑ひはあり得ないのである。

R註 こゝで又も需要は貨物の交換價値によつて測定せられてゐる。何での交換價値か？ 勞働

でのか？ 貴君が國の總ての財貨を二〇パーセントだけ増加し、そしてよりよい勞賃によつて勞働階級をして總てのこれ等追加貨物を支配し得せしめる、と假定しよう、より大なる分量は單に以前と同一の勞働を支配するに過ぎないから、貴君は貨物の價値を増大せしめてはゐないであらうか？ 各勞働者は貨物の追加分量を需要し且つ消費する能力と意思とを有つてあらうけれども、貨物はより多くの勞働を支配することは出来ないから、需要の増大はないであらうか？ 『生産者の利益が貨物をかゝる條件で與へさせない。』これは答へではない、それは與へられてゐるのである。貨物の生産に投ぜられたよりもより多くの勞働を支配しない貨物を生産しようといふ誘因は資本家にはない、といふことを吾々は否定しない、併し若し彼がこの利益と反對に行動するならば、彼はどうしてその國に害を與へるのであるか？ 生産された貨物の需要と消費とを何故に疑ふのであるか？ この個人に生産し續けない様にすゝめるのが何故に必要なのであるか？ 彼自身の利益が、彼は消費すべき他のものを得る爲めに生産してゐるのであることを、彼に告げないであらうか？ そして就中、彼は課税を如何にして免れるべきであるか？ 彼は其の資本の一部分に對し利潤を得ないのであるから、彼又は彼が雇傭する勞働者から、何ものが取られなければならぬ。如何なる救済策が彼を助けるかは私は豫言することが出来ない。

従つて一國の純収入よりは寧ろ其の總収入を主として注視するといふことは、決して熟練及び機械によつて得られる莫大なる利益を過少評價することではなく、單に總生産物の價値にそれが

正當に値すべき重要性を賦與することであるに過ぎない。單に純収入に關説するに過ぎない國民的富の説明は決して少しも満足なものではあり得ない。エコノミストは、専ら土地の純生産物にのみ關説することによつて、彼等の著書の實際的重要性を破壊した。そして富を以て勞賃を除外して地代及び利潤より成ると爲す論者は、程度はより少いが正に同一種類の誤謬を犯すものである。(云ふ迄もなく個人的奉仕に従事する者を含んで)勞働の勞賃によつて生きるものは、『生産的なるものも不生産的なるものも』年々の生産物の遙かに最大部分を受取り且つ費し、政府の維持の爲めに極めて巨額を租税に支拂ひ、そして其の物理的勢力の遙かに最大部分を成すものである。愼慮の習慣が廣く存在する時には、この大衆の全部は、他の二階級の個人と殆んど同様に幸福であり、そして恐らく彼等の中のものより大なる比例ではないとしてもそのより大なる數は、より幸福であらう。従つて、彼等の分前に歸する年々の生産物の部分に關しても、又それが齎らすと考へらるべき健康と幸福との手段に關しても、その凡ゆる觀點に於いて、勞働の勞賃によつて生きる者は、社會の最も重要な部分と考へられなければならない。そして總人口の供給により小なる年々の生産物を必要とする如き、彼等の數の減少を意味する富の定義は、必然的に誤謬でなければならない。

本書の第一章に於いて、富を以て『人類に必要、有用、且つ快適な物質物』なりと定義したる後、私は、一歸結として、一國は、面積に比較してこれ等の物が供給せられる多少に比例して、貧富である、と述べた。この定義が處分せらるべき生産物の額又は課税の爲めの財本が何と呼ば

るべきかの問題を、包含するものでないことは、容易に認められるであらう。(それにも拘らずそれは)「併し私はなほ、それを以て」この處分し得る部分(——それを純地代に限るエコノミストか、又はそれを地代及び利潤に限るリカアドウ氏か、によつて理解せられたる意味に於ける——)のみを指す如何なる定義よりも、遙かにより正確な一國の富の定義である、と考へなければならぬ。我國の人口と生産物とが三分の二を減ぜられたのに其の地代と利潤とは引續き同一たり得るといふことが、可能であるならば、吾々は我國の富に就いて何と云ふべきであらうか？ 確かに上記の定義によればそれは遙かにより貧しいであらう。そしてかゝる結論を拒否しようとするものは(確かに)多くはないのである。

國民的富の定義には、現實の量及び價值と同様に處分し得る生産物の考慮を含むことが、望ましいといふことは、疑ひ得ない。併しかゝる定義は其の本質上不可能である様に思はれる、蓋し各々の個々の場合に於いて、處分し得る生産物の幾許の増大が總生産物の一定の減少と等しいと計算せらるべきかは、意見によつて異らなければならぬからである。

従つて吾々は、一般的に國民生産物の額及び價值を擧げること、満足しなければならぬ。そして特定の諸國では、生産物の額及び價值は同一でも、その生産物の中の處分し得る部分の比例はより大でもより小でもある、といふことは、極めて重要な考察であるが、後に別に論ずるであらう。この點では(註、疑ひもなく、肥沃な土地を有つ國は、その富が殆んど全く製造業に依存する國よりも、莫大な特典を有つであらう。同一の人口と、同一の利潤(及び勞賃の)率と、

同一額及び同一價值の生産物とを有てば、其の富の中處分し得る部分が遙かに(より)【最】大なるは農業國民であらう(換言すれば、其の人口のより大なる比例は、其の富を害することなくして、餘暇を享受し、又は個人的奉仕に従事し得るであらう)。

註 マルサス氏は「同一の人口と、同一の利潤率と、同一額及び同一價值の生産物とを有てば、其の富の中處分し得る部分が遙かに最大なるは」農業國であらうと云ふ。私は問ふ、如何にして農業國は、同一の人口と、同一の利潤率と、同一額及び同一價值の生産物とを、有ち得るであらうか？ 製造業國に於ける價值と生産物との額は勞賃及び利潤に分たれなければならぬ——農業國に於いては地代、勞賃、及び利潤に分たれなければならぬ。若し貴君が農業國に於いて等しい價值から同一の價值を現金で勞賃及び利潤に與へるならば、地代に對して何が残るか？

幸ひにも、總収入を犠牲として生ずる純収入の増加によつて惹起される利益又は不利益の額を決定しなければならぬといふことが起るのは、極めて稀でしかない。個別資本家の利害は、彼等が如何なる事業に従事してゐようと、普く彼等を驅つて勞働の節約に向はしめる。そして理論も經驗も共に、この方向への彼等の有效なる努力は、常にその交換價值を不斷に増大する如き、増大せる貨物供給の分配及び消費が起る限り、生産力を増大することによつて、總生産物の額及び價值を、行ひ得る最大程度に、増大する的手段を、與へるものであることを、證示するのである(註)。

註 このに述べたる所によつて(R註)、讀者は、私が、リカアドウ氏の、純收入及び純收入に就いての章に於ける意見に、決して同意し得ないことを、看取するであらう。私は、五百萬人の爲めの衣食より成る地代及び利潤よりの純收入を有つ國は、若しか、る純收入が五百萬人よりは寧ろ七百萬人より得られた——彼等が等しくよく支持せられてゐるとして——場合の方が、決定的により、富み且つより、有力であらう、と云ふに一瞬も躊躇しないのである。總生産物は、より大であらう。そしてより、以上に出づる二百萬の勞働者は、その成るものは疑ひもなくその勞賃の一部分を自由に處分し得るであらう。「併し私は更に問ひ度い、かゝる變化の場合に於いて、人間と並んで資本はどうなるのか? と。その可成りの部分が過剩に且つ無用にならねばならぬことは明かである。」併し乍ら私は、總ての勞働の節約と機械の發明とに替する點では、リカアドウ氏に「全く」同意する。併しそれは、これ等のものの傾向は、總生産物を増大しそしてより、大なる人口とより、大なる資本とに對し餘地を造るにあると、私が思ふ故である。若し勞働の節約がリカアドウ氏の説例に述べられてゐる諸結果を伴ふとすれば、私は、一大不幸としてそれに反對する點で、シスモンディ氏及びオウイン氏に同意することになるであらう。

(リカアドウ氏は、其の最終版に於いて、彼はこの問題に就いて其の意見の現はし方が恐らく強きに過ぎたのであり、そして勞働者は國の純生産物の成る部分を得ることも出来よう、と註の中で認めてゐる。併し彼は本文を變更してゐない。)

R註 マルサス氏は曰く、『より以上に出づる二百萬の人間は、その或るものは疑ひもなくその勞賃の一部分を自由に處分し得るであらう。』然らば彼等は純收入の一部分を得るであらう。勞賃が純收入の一部分を勞働者に與へる底のものであり得ることを、私は否定しない——私は私の命題を、勞賃が低過ぎて彼に絶對的必要品以上には何等の剩餘も與へない場合に、限つた。マルサス氏は私を正確に引用してゐない。私は次の如く云つた、『若し五百萬の人が一千萬人に必要なるだけの食物及び衣服を生産することが出来るならば、五百萬人に對する食物及び衣服は

純收入であらう。この同じ純收入を生産するために、七百萬の人が必要とされるといふこと、即ち、一千二百萬人に足るだけの食物及び衣服を生産するに七百萬人が使用されるといふことは、その國にとつて何等かの利益であらうか? 五百萬人の食物及び衣服は依然として純收入であらう。より大なる人数を使用することは、吾々をして吾が陸軍及び海軍に一兵を加へることも、又租税に一ギニイだけより、多くを貢納することも、得せしめないであらう。』

『アダム・スミスが最大量の勤勞を動かす所の資本のその使用を擇ぶべきことを主張して居るのは、大なる人口より生ずる或る想像上の利益の、若くはより多數の人間によつて享受され得べき幸福の、故ではなくて、明かにそが國力を増進するといふ理由に基づいて居るのである。』
等々。(譯者註——前掲譯書、三七八—三九九頁)

マルサス氏は七百萬人は必要とされないと想像してゐる——これは私の命題の反駁ではなくて其の變更である。セエ氏も亦この章句を評論してゐる、そして、私は納税力等に關するアダム・スミスの議論に應へてゐるに過ぎず、そして他の場合には最も考慮に値するものたるかくも多くの人類の幸福のことを考へてゐるのではない、と述べて、注意深く豫防線を張つて置いたのに、彼は、この考察は私の評價に於いて全然重要ならざるものであるかの如くに、論じてゐる——彼は私を正當に取扱つてゐない、と私は彼に確言する——それは一瞬と雖も私の心を去つたことはなく、又私がそれを、其の正當な重きを置いて考へなかつたことも、ないのである。

(讀者は、本節に於いて述べた所から、富の直接的増進の主たる原因として分配の重要性を講述するに當つて、私が決してこれ等の語を、通常使用されてゐる貨物に關して云へば、欲求されてゐる毛織布製品の代りに欲求されてゐない綿製品が市場に齎されるのを妨げる過程に、限るものではないことに、氣が付くであらう。毛織布製品を生産することによつて極めて遙かにより大なる利潤を得ることが出来る時に綿製品の生産を保持して行くことは、餘りにも大なる誤りであつて、如何なる國に於いても直ちに是正されなければならず、特に我が國の如きに於いては最も然りである。私の意味する分配はかくも直ちには成就されない。それは、生産物の供給を量に於いても質に於いても消費者の現實の嗜好と欲求とに最もよく適應せしめ、そしてより大なる通商の便宜によつて新らしい嗜好と欲求とを造り出す所のものである。外國よりの新らしい貨物による、農業に於ける大都市の發達による、かゝる分配は、社會の中流階級を増大せしめるから社會構造の徐々たる進歩を意味するものであり、その成就はおそく且つ困難なものである。實際生産物を減少せず供給に對する需要の比例を増大するのは、容易なことではない。國の内外に於ける新通商路の開發と市場の擴張とが吾々の欲求するものを與へるであらうことは、吾々は知り得よう。併しこれ等のことは國民や政府が任意にこれを成就し得ることの極めて稀なことである。)

一般に (R註) 生産物の増大と價値の増大とは手をたづさへて進む。そしてこれが、富の増進に最も好都合なる、自然的且つ健全な事態である。生産物の分量の増大は主として生産力に依存し、そして生産物の價値の増大は其の分配に依存する。生産と分配とは富の二大要素であり、この二

要素はその正當な比例で結合されるならば、地上の富と人類とを程なく其の可能資源の最高限界にまで齎らし得るが、併しそれが別々にされ、又は不當な比例で結合されるならば、數十年を経過して後に、現在地球上に散在してゐる、乏しい富と乏しい人口とを、産み出すに過ぎないものである。

R註 さうならないことは極めて稀である、支出から行はれそして資本に追加せられる總ての貯蓄は、貨物の額を増大し、同時に、マルサス氏の價値増大の指標たる、労働を支配する能力を増加する。労働の供給が資本と歩調を共にしない程資本が急速に増大するのは殆んど不可能である。その場合には多くの貨物はより多くの労働を支配しないであらう。

第七節 全生産物の交換價値を増大する手段と考へられたる、

土地財産の分割により惹起される分配に就いて

分配に依存する價値の増大に最も好都合なる原因は次の如くである、すなはち第一に、土地財産の分割、第二に、内外の通商、第三に、(個人的奉仕に従事し、又は、其の他の形で、直接に物質的生産物の供給に寄與せずに、それに對する需要をなすの、資格のある所の、社會の適當な比例)「不生産的消費者」の維持。

新國の最初の定住と植民とに於いては、土地の容易な分割と細分割とは、極めて最高重要性を

有つ點である。小資本を蓄積せる者が小さな土地を獲得するの便宜と、親から新家族が分れるにつれて新保有者（が）²「を」¹土壤に定住（す）²「せしめ」¹るの便宜とがなければ、人口の原理は適當に實現せられ得ない。（人口が増大するにつれての）¹「生れて来る人口を」¹土壤に定住（す）²「せしめ」¹るのこの便宜は、内外通商上好都合の位置を占めてゐない内地國に於いては、更により一層の緊急必要事である。この種の國は、若し、土地財産に關する法律と慣習とによつて、其の分配の途上に大なる困難が投ぜられるならば、人口の原理にも拘らず、長期に互り引續きその人口は極めて稀薄であらう。然るに新家族が生じてその生計の資を得るの必要あるにつれて土地が容易に分割せられ且つ細分割せられるならば、比較的に通商が殆んどなくとも、人口に對する有効な需要が與へられ、そして少なからざる交換上の價値を有する生産物が創造せられるであらう。かゝる國は恐らく其の總生産物に比較して小なる純生産物を有つであらう。それは又其の製造品及び商業生産物の額に於いて大いに缺けてゐるであらう。而もなほ其の現實の生産物と人口とは立派なものであらう。そしてこの國は、かゝる諸結果を産み出した交換價値の増大に就いては、主として、土地の容易なる分割より生じた生産物の分配に負ふものであらう。

アメリカ合衆國の（R註）急速なる増大は、全體としては、疑ひもなく外國通商によつて極めて著しく助けられたのであり、又「特に」僅少の勞働で獲得せられた粗生産物を（若し内國で造られたならば）多くの勞働を要費（すべき種類の）¹「した」¹ヨオロッパの貨物に對して販賣する能力によつて、助けられたのである。併し内部地方の大きな部分の耕作は、（本質的に、土地財産の

容易な分割）¹「大なる程度に於いて、上述の原因」に依存したのである。そして普通の勞働者ですら、數年間勤勉且つ節約的であるならば、新定住者となり土地の小保有者となり得るの便は、著しく、外國通商なければ生じ得なかつた所の勞働の高き貨幣價格を、實現せしめた。そしてそれ等は共に年々、吾々の知る他の如何なるものと比較しても、北アメリカに於ける植¹民¹地の進歩を早からしめた所の、交換價値の驚くべき増大を齎したのである。

R註 アメリカにとつては、自國の貨物の代償としてそれが得る貨物が、ヨオロッパ人に多く要費しようと少く要費しようと、どうでもよいことである、それが利益關係を有つ總ては、それを自國で製造するよりも購買する方がより少い勞働しか要費しない、といふことである。

殆んど全ヨオロッパに互つて、極めて不平等な且つ有害な土地財産の分割が、（西ロウマ帝國の崩壊に當つて征服により、そして後に）封建時代に、樹立せられてゐた。若干の國家に於いては、この分割を保護し永久化せる法律は、大いに弱められ、そして商業及び製造業の助力によつて比較的無効にせられた。併し他の諸國に於いては、これ等の法律はなほ引續き大いに有効であり、富と人口との増大の途上に極めて大なる障害を投じてゐる。極めて大なる保有者の周圍を極めて貧しき農民が圍繞してゐるといふ状態は、有効需要に對し最も不都合なる財産の分配を成すものである。

アダム・スミスは、中世の大保有者の間に生ずる傾向があり、且つ事實生じた所の、弛緩せる種類の耕作を、よく敘述してゐる。併し彼等は單に悪しき耕作者であり且つ改良者であり、そし

て一時の間は恐らく製造生産物に對する正當な嗜好を缺いてゐた許りでない。而も假令彼等がこれ等の嗜好を、それが現在廣く存在してゐるのが見出される程度に所有してゐたとしても、彼等の數は少數であつた爲めに、彼等の需要がいくらでも多量のかゝる富を生産することはなかつたであらう。吾々は歴史上の凡ゆる時代に於ける王侯貴族の大なる豪奢を耳にする。困難なことは、富者に服飾品に對する愛好心を鼓舞することよりは寧ろ、彼等の巨大なる財産を打倒し、そして生産的勞働の結果を購買する能力と意思とを有つより多數の需要者を（中流階級の中に）造り出すことにある。これは、明かに、單に極めて徐々として行はれ得るに過ぎぬであらう。増大し行く服飾品の愛好がこの目的の達成に大いに助力したことは恐らく確かであらう。併し、（他の點では）財産のよりよき分配を伴はないかゝる嗜好のみでは、全く無効であつたであらう。多數の所領の所有者は、彼れの邸宅と城廓とを美麗に造作し、美しい衣服と美しい馬車とを手に入れた後には、單にさうする能力があるといふだけの理由で、それ等總てを二箇月毎に取變へることとはしないであらう。かゝる無用な且つ煩瑣な取變へに耽る代りに、彼は、多數の召使や怠惰な従者をかゝへ、彼れの借地人に對する支配力をより大ならしめんが爲めに地代を減額し、そして恐らくは、より多くの鳥獸を繁殖させそして狩獵の興味に耽つてより大なる効果を擧げ而も妨げられることより少い様に彼れの土地の大きな部分の生産物を犠牲にする、可能性の方がより多いであらう。一年一千乃至五千磅に當る所得のある三十人又は四十人の保有者は、一年十萬磅の所得を所有する唯一人の保有者よりも、（生活の必需品、便宜品、及び奢侈品）特小麥パンや

【第一】(第七章)富の増進【直接原因】に就いて

良い肉や製造生産物】に對する遙かにより、有效な需要を創造するであらう。比較的少數の極めて富める保有者と、多數の極めて貧しき勞働者とで、土地と製造業との兩者の生産物を、國の資源と器用さとの許す最大範圍にまで押進めることは、實際一國民にとつて物理的には可能である。【恐らくかゝる財産の分割の下に於いては、生産力は最大可能なるものたらしめられるであらう】併し（このことを爲す）【この生産力を働かせる】爲めには、製造品及び生産的勞働の結果を消費せんとする富者の情熱が、人類社會に於いて嘗て證明されたよりも遙かにより過剰なることを、吾々は假定しなければならぬ。そしてその歸結は、財産家の割合が小であれば、如何に彼等が富み且つ奢侈的であらうとも、一國が大なる範圍にまで其の自然的資源を推進めた事例は、未だ嘗て知られてゐない、といふことである。實際上は、少數者の過剰の富は、有效需要に關しては、多數者のより相應な富と決して等しいものではないことが、常に見出されてゐるのである。多數の製造業者や商人は、（大土地保有者の地位以下）【單なる職人や勞働者の地位以上】にある多數の消費者の階級の間のみ、彼等の貨物に對する市場を見出し得るに過ぎない。そして製造業の富は同時に財産のよりよき分配の結果でもあれば、又商工業資本の生長が必ずや創造する所の社會の中流階級の比例の増大によつて、かゝる分配のより以上の改善の原因でもあることは、經驗が吾々に證示する所である。

併し假令一定の程度迄の土地財産の分割と商工業資本の擴充とが富の増大にとり最も重要であることが眞實であるといへ、而も、一定の程度を越せば、兩者はそれが以前に富の増進を促進

したと同様にこれを阻害することは、これと等しく眞實である。彈丸が最も遠く達する一定の傾角があるが、併し若しそれがより高く又はより低く向けられるならば、その點には達しないであらう。商工業生産物の過剰な量よりも（僕婢や従者）「僕婢の奉仕」及び領土的勢力を認む所の比較的小なる比例の富める保有者がある場合には、（資本家の間に於ける）生産的労働の結果を供給する能力はそれを消費せんとする意思よりも遙かにより大であり、そして富の増進は有效需要の缺乏によつて妨げられるであらう（註）。土地及び資本の兩者の小保有者の比例が大に過ぐる場合には、土地に於ける總ての大なる改良や、商業及び製造業に於ける總ての大なる企業や又分業によつて生ずるものとしてアダム・スミスの述べたる「總ての」驚異（の大抵のもの）は、停止するであらう。そして富の増進は、供給能力の不足によつて妨げられるであらう。

註 地主を刺戟して、最多數の僕婢を支持せんが爲めに、土地を最もよく耕作せしめる所の、僕婢の奉仕を求める情熱を、考へることは、恐らく實に可能である。これは前の節で觸れた人口を求める情熱と同一事であらう。かゝる情熱は、こゝで假定した範圍内では、可能であり得よう。併しかゝる假定は殆んど最も非蓋然的なるものである。

思ふに、富に關する經濟學上の總ての偉大なる結果は、比例に依存するといふことが、眞實なることが、見出されるであらう（註）。そしてかくも多くの誤謬が歸結の推測に廣く存在するのは、時として諸國民が貧しくなると期待せられた時に富むに至り、又富むものと期待せられた時に貧しくなるのは（註）、そして富の増大に對する最も有效な奨励に關して時々かゝる反對の諸見解が存在するのは、この最も重要な眞理を看過することによるのである。併しこの全論題の中

で、土地財産其の他の財産の分割に於ける程有力に、富の生産に於ける比例の効力が例證され、且つ或る範圍迄の分割は富の増大に便宜であり且つ或る範圍以上に出でるとそれに有害でなければならぬことが、かくも極めて明かな、部分はないのである。

二版註一 併し乍ら、かくも多くのことが比例に依存するのは經濟學だけのことでなく、自然と藝術との全範圍に亘つてさうである。

二版註二 このことは、この前の戰爭中に行はれた、平和の直接的結果として豊富な富が得られるであらうといふ豫言に於て、顯著に例證せられた。

財産の大なる細分割の結果に就いては、恐るべき實驗が今フランスで行はれてゐる。この國の相續法は、「總ての種類の財産を、長子相續權や性の區別なしに、總ての子供の間に平等に分割し、そして」（父の財産の）「其の」一小部分のみが遺言によつて自由に處分されることを許す（一）、そして殘部は、年齢や性の區別なしに、總ての子供の間に平等に分割する。

この法律は未だ（註）、それが國民的富及び繁榮に及ぼす影響が如何なるものであらうかを示すに足る程久しく施行されてゐない。若しフランスに於ける財産の状態が現在勤務及び需要に好都合である様に見えるとしても、このことから將來に於いてもそれは好都合であらうといふ推論を下すことは出来ない。或る範圍迄の財産の分割が極度に望ましいことは、普く認められてゐる。そして封建時代から傳つて來てゐる廣大なる土地所有の痕跡はなほ殆んどヨーロッパ中に極めて多く残つてゐる故に、フランスのその如き法律が、或る年數の間、富の獲得の爲めに、無用な

國は、多くはないのである。併し若しかゝる法律が引續きフランスに於いて永續的に財産の繼承を左右するならば、若しそれを回避する方法が發明されないならば、そして若し其の影響が異常の程度の結婚の戒慎の作用によつて——かゝる法律は確かにこの戒慎を阻害する傾向あるものであるが——弱められないならば、この國は、一世紀の終りには、其の異常なる財産の平等を以て顯れることにならうが、それと全く同様に、其の異常なる貧困と慘苦とを以て顯れるに至るであらう、と信すべき凡ゆる理由がある。土地財産の小分割の所有者は、——彼等は常にさうであるのだが——別して詮術を失ふであらう、そして不作の度に數多く死滅しなければならぬ。政府から俸給を受ける者の外は、殆んど何人も富んでゐないであらう。

R註 何故にこの法律はかくも大なる財産の分割を惹起すであらうか？ 啻に結婚に於ける慎慮がそれを妨げるのみならず、更に又各家族員による富の取得もそれを妨げるであらう。かゝる取得によつて、恐らく、彼は、自分がその父から受けたと同じ大いさの相続財産を彼れの子供に残し得ることとなるであらう。彼れの子供は又それで又も其の父の例を倣ふ氣になり又さうすることが出来るであらう。この慣行は英蘭に於いて貴族を除く總ての家庭に於いて現實に廣く行はれてはゐないか。總ての商人、銀行業者、製造業者、農業者、店主、等は、彼等の財産を其の子供に平等に分割してゐないか、そしてフランスの場合にマルサス氏が豫期してゐる惡結果の何れかがそれから生ずることが見出されてゐるか？

土地を子供達の間で割當る結果としてそれが大いに細分割せられるからといつて、それがこ

れ等の子供達によつて別々に耕作されるといふことにも、又各々の子供達が引續きその土地の中彼れの本來の分前たるものの保有者となつてゐるといふことにも、ならない。賣られるであらうし、又借地に出されるであらうし、又大保有者が現在其の土地を便宜の爲め及びよりよき耕作の利益の爲めに別々の農場に分割してゐると同様に、色々の接近してゐる小保有者達は彼等の小地面を同一の目的の爲めに一つの大きな農場に合せるであらう。

同時に王侯の權力とR註人民の暴力とを妨げる財産の自然的影響が殆んど又は全くないかゝる事態に於いては、フランスが今度樹立した如き混合的政府が維持され得ると考へることは不可能である。又私は、かくも大なる貧困を生ずべき事態は、共和國の存在と存續とに對し好都合であり得ると、考へることも出来ない。そしてこれに加ふるに吾々が、總ての歴史の經驗が示す如くに、如何なる事情の下に於いても、良く組織せられたる共和國を樹立することが、如何に極度に困難であるかを、又其の繼續の可能性が如何に少いかを、考へる時には、かゝる形態の政府が永續するといふ如何なる十分の基礎ある希望をも、懐くことを得ないであらう、と云ふも過言ではないのである。

R註 私は、かゝる制度の下に於いて自由な政府が永續し得ないであらうといふマルサス氏の危惧を共にすることは出来ない。

併し上述せる財産の状態は正に軍事的專制政治を生む土壤であらう。若しこの政府が、自己を以て唯一の領土所有者なりと考へる東方の思考方法を採用しないならば、それは少くともエコノ

ミストより暗示を得、そして自らを以て地主と共に共同保有者なりと宣言し得よう、そしてこの源泉により（地主は數多い爲めに貧しからうが、これはなほ肥沃なる源泉であらう）並びに若干の其の他の租税により、軍隊は容易に社會の最も富める部分たらしめられ得よう。そしてそれはその際には、かゝる事態に於いて何もものも抗し得ざる壓倒的勢力を所有することになるであらう。専制者は時々、ロウマ諸皇帝の場合に近衛兵によつて變更せられた如くに、變更され得よう。併し専制政治は確かに極めて強固なる基礎の上に立つことになるであらう。

何等の遺言による讓渡の妨害なくとも、長子相続（法）²【權】及び限嗣相続（權）²【法】の廢止によつて惹起さるべき土地財産の分割によつて、大英帝國の富が本質的に増大せられるであらうか否か、の問題に立入る必要は殆んどない。この國が、其の現實に於いて且つ其の現實の法律の下に於いて、大なる領土を有つ近代の何れの國家よりも特に其の自然的資源と比較した場合に、より大なる富の光景を示すものであることは、一般に認められてゐる。或る大家族の自然的衰滅と、或る他のその自然的不愼慮によつて、併し就中商工業の異常なる生長によつて、以前には國內至る所に存在してゐた巨大なる土地財産は、長子相続（法）²【權】あるにも拘らず、大なる程度に打倒されて了つた。そしてなほ残つてゐる少數は、商人及び親方製造業者に、彼等が大なる資本を獲得しそして富に於いて大地主と競ひ得るまで、彼等の熟練と能力との發揮を繼續すべき誘因を與へるに、恐らく役立つであらう。若し、長子相続（法）²【權】の廢止によつて、土地財産が總て極めて小になるならば、商人の間に多くの大なる資本を生ずることは恐らくあり得な

いであらう。そしてこの場合には多くの生産力は疑ひもなく失はれるであらう。

併しこれがどうであつても、極めて多數の社會の中流階級と呼ぶべきものが我が國に形成されてゐることは、確實である。他方長子相続（法）²【權】は、貴族及び大土地保有者の弟息子等をこの中流階級の上層に押込むことによつて、凡ゆる實際的目的の爲めには、地位及び出生に基づく區別を無にし、そして富と名譽との凡ゆる途上に於ける個人的長所の競争の爲め最も公平な競技場を開いたのである。彼等自身の運命の創設者となるといふ弟息子等に一般に課せられた義務は、恐らく、土地の財産がより平等に分配せられた場合に生ずべきよりも、大なる程度の勢力と活動力とを自由職業上及び商業上の努力に吹込んだことであらう。全體として我國は有效需要者の極めて大なる階級を有つてゐるのであつて、彼等はその購買力を、種々なる自由職業や、商業や、製造業や、卸小賣業や、種々なる種類の俸給や、公私債の利子から得てゐるのである。そしてこれ等の需要者は、恐らく、土地上の小財産の所有者よりも、富の奨励にとりより好都合な嗜好を獲得する傾向があるのである。

それが一般に存在する範圍に互つて殆んど特有なることを認めなければならぬかゝる事情の下に於いて、若し長子相続（法）²【權】が廢止せられるならば我國民はより富むに至るであらうと結論するのは、早計であらう。併し假令吾々がこの問題を肯定的に決定し得るとしても、それは決してかゝる變更が得策なりとは決定するものではないであらう。この種の總ての場合に於いては、單なる富と關聯するに過ぎぬ考慮以上の考慮が爲されなければならないのである。

かくも久しい間英國人を他より擯んでさせて来た我國現在の憲法と自由及び特權との、最初の形成とそれ以後の保持と改善とが、主として土地貴族によるものなることは、一瞬も議論の餘地なき歴史上の眞理である。そして、確かに長子相續法によつてのみ有効な状態に維持され得る貴族なくして、かくの如く樹立せられたる憲法【及び自由】が將來維持され得ると結論することは、吾々は確かに未だ如何なる經驗によつても保證されてゐないのである。若し然らば吾々が英國憲法に價値を認めるならば、若し吾々が、其の理論的不完全が何であらうと、それが實際上歴史が記録する何れよりもより多數の大衆によりよき政府とより多き自由とを與へたことを、考へるならば、この全構造を賭し、そして吾々の求める目的物に達する可能性のかくも極めて少ない實驗の大海に吾々を投げ出すが如き變更を敢てせんとするのは、最も不賢明なことであらう（二版註）。

二版註 これを書いたのは一八二〇年のことである。その後緊急な事情の爲めに改革が行はれたが、この改革は、時と事情とが思ひの儘になつたら憤懣が恐らくは命じたであらうと思はれるよりも、より突然の且つ廣汎な性質のものであつた。併し、行はれた總てのことは、憲法の實際の運用を其の理論により、接近せよとするには、認めなければならぬ。そして、選舉權が主として擴張された社會の中流階級の大多數は、擾亂を助勢し且つ財産の安固をおびやかす傾向ある凡ゆる事件によつて、彼等自身の利益と彼等に依倚する者の利益及び幸福が、最も本質的に害せられるであらうといふことを、問もなく見なければならぬ、と信すべき凡ゆる理由がある。若し彼等がこの最も疑問の餘地なき眞理を感得し、そしてそれによつて行動するならば、かの醜い汚辱の、不満を刺戟し民衆を擾亂する爲めに如何にも尤もらしく何時でも利用せられ得るかの手段の、除去が、英國憲法を在來よりも遙かにより廣汎な且つより、強固な基礎の上に置くであらうことは、疑ひはなからぬ。

長子相續法及び限嗣相續法の廢止が、如何なる範圍迄我國の土地財産を分割するであらうかを云ふことは、恐らく容易ではない。若し遺言による贈與の權能が手を付けられないならば、過去の習慣が暫くの間は多くの所領を依然一緒にして置くことは可能である。併し蓋然的なることは、漸次に可成りの土地細分が起るであらう、といふことである。そして若し一年一千磅以上を齎らす所領が殆んどなくなれば、商業階級は、前述の如くに、地主と競争する誘因がなくなるので、富の獲得に於ける彼等の努力を緩和する氣になるか、又は、商人及び製造業者が相互の競争が政治的野心かに刺戟されて依然大なる富を獲得するとすれば、彼等は國家に於いて大なる勢力を有する唯一の人々になるであらう。そして、この國の政府は殆んど全部彼等の手に歸するであらう。その何れの場合に於いても恐らく我國現在の憲法は維持せられ得ないであらう。個人の財産がかくも小に且つかくも平等になる第一の場合に於いては、傾向はデモクラシイか軍事的專制かに向ひ、後者への可能性が大であらう。そして第二の場合には、政府の形態はどうであらうとも、商人及び製造業者はこの政府の會議に於いて最大の勢力を有つであらう。そしてこれ等の階級の利害が常に必ずしも彼等をして最も健全なる忠言を爲さしめるものではないことは、アダム・スミスの正當に觀察せる所である。

従つて假令我國に現在實際に一般に存在してゐるものよりもよりよい土地財産の分配が存在し得ようことが眞實であるとはいへ、又それをよりよくする爲めには分配がより平等にせらるべきであることも亦眞實であるとはいへ、而も恐らく國の富にとつてすら好都合なるべき程度以上に

出づる所の、又確かに、專制的統治者の暴政と專制的暴徒の憤激とから等しく人民を保護することに關はるより、高き利益と一致する程度以上に出づる所の、土地の細分割に導く傾向のある、長子相続法を廢止することは、決して賢明ではないであらう。

併し立法の叡智と政策とが相續法に關し如何なる行爲を指示するとしても、土地財産の分割が、富の交換價値を維持し且つ増大し、そしてより以上の生産を獎勵する所の、富の分配の大なる手段の一つであり、又かくの如くして惹起されたる分配が、それが擴大するにつれ、それが其の對立原理に出會し、そして生産力を妨げ始める迄は、引續き富により、好都合の影響を産み出すであらう、といふ原理は、依然として眞實であらう。この生産力を妨げるといふことは、内外通商活動と地主以外の有效需要者の數とに主として依存する所の諸事情によつて、遅かれ早かれ起るであらう。若し土地とは關係なしに需要が大であるならば、生産力の僅少な減少は形勢を一變せしめるであらう。そして蓄積、企業、及び分業に不都合な變化は、富の増進に不都合となるであらう。併し若し國の位置が外國通商にとつて悪しく、そして其の嗜好、習慣、及び内國交通が、活潑な國內取引を獎勵せざるが如き程度であるならば、土地財産の容易な細分割以外には何物も生産物に對する適當の需要を惹起し得ない。そしてかゝる細分割なくしては、大なる自然的資源を有する國も、長期に互つて、耕作せられざる土壤と乏しいが而も餓ゑつゝある人口とを擁して、眠つてゐることであらう。

第八節 生産物の交換價値を増大する手段と考へられたる、内外の通商により惹起される分配に就いて

分配に依存する交換價値の増大に好都合なる第二の主たる原因は、内外の通商である。

一國に起る凡ゆる交換は、社會の欲求によりよく適合せる其の生産物の分配の結果する。それは關係兩當事者に就いて、欲求せられることより少きものの欲求せられることより多きものとの交換であり、従つて雙方の生産物の價値を引上げなければならぬ。若し、その一つが肥沃な銅鑛山を有し、又その他方が肥沃な錫鑛山を有してゐる所の、二つの地方が、常に、越し得ない河又は山で分たれて居るならば、交通が始めれば錫にも銅にもより大なる需要が生じ、そしてより大なる價格が與へらるべきは、疑ひのあり得ぬ所である。そして兩金屬のこのより大なる價格は、單に一時的に過ぎぬとしても、そののみが、より以上の需要を充たさんが爲めに要求されるより以上の資本を與へるに大いに効果があるであらう。そして兩地方の資本と兩鑛山の生産物とは、量に於いても價値に於いても生産物のこの新分配又はそれと等しき或る事件なければ起り得なかつた程度に、増大せられるであらう。

(フランスの)エノノミストは、取引の不生産的性質を證明せんとする彼等の努力に於いて、常に、その結果は單に價格を平等にするにあると主張し、この價格は或る場所に於いては高きに過ぎ又他の場所に於いては低きに過ぎるが、併しその額に於いては交換が行はれた後と同一である、

と主張した。この主張は無根據のものであり、そして議論の餘地なき事實により否定せられ得るものと、考へなければならぬ。市場の擴大による最初の價格の増大は疑問の餘地がない。そして吾々がこれに加ふるに、より以上の生産物に對する需要によつて惹起される結果と、この需要を充たす爲めの、かくの如くして與へられる、急速な蓄積の手段とを、以てするならば、國民生産物の（分量及び）價值（の兩者）を増大するといふ總ての内國取引の直接的傾向を一瞬でも疑ふことは不可能である。

若し實にそれが國民生産物の價值を増大する傾向を有たないならば、それは營まれないであらう。それに従事する（R註）商人が支拂を受けるのはこの増大からである。そして若し或るロンドンの財貨がグラスゴウに於いてロンドン以上に評價されず、そして或るグラスゴウの財貨がロンドンに於いてグラスゴウ以上に評價されないならば、これ等の都市が取引する物品を交換する商人は、自分自身にも又その他の何人にも何等の利益を供しないであらう。若し當事者達が、財貨のこの新分配が起つた後に、以前よりもより豊かにならぬならば、一組の貨物を他のそれと交換することは單に無益な行程である。受取つた貨物が、價值に於いて、手離した貨物に使用せられた勞働を、關係資本家に適當な利潤を産み出し且つ彼等に同一事業に新らしい勞働を働かせる能力と意思とを與へる程に、超過しない限り、一物品を他物品と引換へに與へることは有效需要とは何の關はりもないのである。

R註 こゝでも又他の多くの場所でも、マルサス氏は、商業と貨物の交換とは貨物の價值を大い

に増加しそして商人をして彼等の利潤の額及び價值を増加し得せしめ、更に總ての大きな貯蓄と蓄積とが行はれるのはこの源泉からである、と考へてゐる様に思はれる。若し『或るロンドンの財貨がグラスゴウに於いてロンドン以上に評價されず、そして或るグラスゴウの財貨がロンドンに於いてグラスゴウ以上に評價されないならば、これ等の都市が取引する物品を交換する商人は』それを交換することによつて『自分自身にも又その他の何人にも何等の利益を供しないであらう』（譯註——この引用文は原文と）といふことは、疑ひもなく眞實である。

併しこのことが如何にして、これ等の財貨がこの交換により少しでもより高い價值を得、又はそれを一方の場所からもう一つの場所へ送るのに従事してゐる商人に資本に對する少しでもより以上の利潤を與へることを、證明するのであるか？

國內の貨物の全部はかゝる交換の結果としてより多くの勞働を支配するであらうか？ 又はそれは既知の價值の何等かの媒介物の少しでもより多くと交換されるであらうか？ ロンドンに於ける鐵器の價格は其の生産費に依存し、換言すれば、それは單に、其の價格が、それに投ぜられた總ての支出並びに通常の且つ一般の利潤率を、償ふといふことを條件としてのみ、生産せられるに過ぎないであらう。與へられた分量に對して普通の且つ通常の需要があらうと又はその十倍量に對してあらうと、短期間の後には鐵器の價格はその點にきまるであらう。マルサス氏は、この短期間は極めて重要なものであり、そして若し貨物に對して需要があるならば、製造業者はこの期間に大なる利潤を得、そして價值多き貯蓄を爲し得るであらう、と云ふ

であらう——私はそれは認めるが、併しこのより大なる利潤は誰の犠牲で得られるであらうか、又それは全部の貨物の價值を増加するであらうか？ 若し一定分量の鐵器の通常價格が一〇〇磅であり、そして需要の結果として私がそれに對し一〇〇磅を與へざるを得ないならば、賣手はより大なる利潤を得るであらうが、併し誰がそれを支拂ふのであるか？ マルサス氏は單に製造業者のみを觀、そして吾々が、製造業者はより大なる利潤を得、そして何人もその爲めに不利益は受けず、従つてそれは國にとつての明瞭な利得である、と信ずる様に、望んでゐるのである。併し私は云ふ、消費者がそれを支拂ふのである、蓋し彼は次の三つの中の一つをしなければならぬから、すなはち、彼はより少量の鐵器で満足しなければならぬか——彼は通常消費してゐた或る他の貨物に對する一〇〇磅の支出を自制しなければならぬか、又は、若し彼が以前と同一分量の貨物を享受するならば、彼は今迄追加するを常としてゐた額に對し一〇〇磅だけ貯蓄から彼の資本に追加することを得なくせしめられる。若し彼が自分の支出からこの一〇〇磅を節約するならば、彼は實際鐵器の製造業者をして、其の利潤の増大により其の資本に一〇〇磅を追加することを得せしめる、併し、若し他の何等かの手段により彼が一〇〇磅を其の支出から節約する氣になつた場合にも同一の結果が起つたことであらう、兩者の相違は實際、一方の場合に於いてはそれは彼自身の資本に追加せられ、他方の場合に於いては鐵器の製造業者の資本に追加せられるといふだけのことである。——雙方の場合に於いて國民資本は價值に於いて一〇〇磅を増大せられるであらう。——そして若し勞働が價值に於いて騰貴してゐないならば、

より多くの勞働が雇傭せられ得る。そしてこゝに私は、利得の増加から行はれるこの貯蓄——これがマルサス氏によれば總ての大きな財産を作る手段である——は、實際は支出の減少によつて行はれる貯蓄であるが、この支出の減少は、彼れの著書の四二二頁(譯者註——第一版の本頁第六頁の終りから九番目のパラグラフ)に於いて見られる如くに、マルサス氏によつて大いに過少評價せられてゐる貯蓄の源泉である、といふことを一寸述べて置き度い。併しこゝでの問題に戻らう。若し鐵器の購買者が通常量の財貨を購買するならば、彼は以前よりも一〇〇磅だけより少ししか貯蓄し得なくなり、そしてこの場合には成程鐵器の製造業者によつて貯蓄が行はれ得ようけれども、併しそれは社會の他の成員を犠牲として行はれるのであり、そして國民資本は少しも増加しないであらう。若し今貴君が、グラスゴウ市場に對する商人の需要はロンドンに於ける鐵器の價格を引上げないが、併しそれにも拘らず彼はグラスゴウの消費者に高い利潤を課することが出来る、と假定するのなら、私も同様の記述をしなければならぬ。彼は單に彼の資本に對して日常且つ通常の利潤を得るに過ぎないか、又はより大なる利潤を得るかである。若し彼が單に日常利潤を得るに過ぎないならば、彼がこの特定の取引によつて國民資本に何もかを追加したと云ふべき口實はあり得ない。若し彼の利潤が高くそして通常の水準以上であるならば、それが依然高くあり得るのは、他の資本家が彼と競争の地位に齎され得る時迄のことであり、そしてその時には彼の利潤と彼の財貨の價格とは其の自然的水準に下落するであらう。貯蓄が行はれ且つ資本が増大されるのはこの高い利潤が得られる期間のことである、と私は再び告げられるかも知

れない——併し私の答へは前と同一である。鐵器の價格がグラスゴウに於いて其の水準價格に下落する時には、この物品の購買者によつて行はれるこの節約は他の物に支出され、又はそれは資本に追加されるであらう。若し私がそれは他の物に支出されるであらうと告げられるならば、然らば私は利潤が高い期間に於ける消費者の懷中から商人の懷中へのこの一〇磅の移轉は資本の蓄積にとり好都合であり得ようことを認める、蓋し私は消費者は浪費的であり商人は恐らく節約であることを知るから、併しこゝで再び、財貨の價格の下落によつて消費者が彼れの支出から一〇磅を節約しそれを彼れの資本に追加した場合と全く同一の結果が生じてゐることを認めなければならぬ。

一國の一般利潤は、私が屢々述べた如くに、勞賃の状態に依存し、勞賃が低い時には利潤は高くなければならぬ——併し特定群の製造業者又は特定群の商人の特定の利潤は、勞賃の状態が如何にもあれ、彼等が自分の貨物に對し消費者に課し得る價格に依存しなければならぬ。一定分量の毛織布、一定分量の靴、一定分量の帽子等の自然價格が、一〇〇磅である、と吾等は假定しよう。若し毛織布の所有者が彼れの毛織布に對し一一〇磅を得ることが出来るならば、それは消費者を犠牲としてのこととなければならず、そしてこれ等の消費者は單に自分の所有する貨物でこの特定貨物を購買し得るに過ぎないのであるから、其の騰貴は彼等にとつては彼等の貨物の下落と同一事である。若しこの騰貴以前に、靴製造業者が毛織布の分量の半に對し彼れの靴の半を與へたならば、毛織布の價格が一一〇磅に騰貴してゐる今では、彼は、同

一分量に對し彼れの靴を十分の一だけ多くすなはちその五五パーセントを、與へなければならぬ。然らば、總ての場合に於いて、特定の商賣の利潤の超過は消費者を犠牲として行はれるのであり、そしてそれが一方の資本増大力を増加するに比例してそれは他方の資本増大力を減少するものである。商人が彼れの財貨を外國に高い價格で賣ることによつて大なる利潤を得る時には、彼れの利潤は彼自身の國にとつての利潤であるが、併しそれは矢張り消費者を犠牲として得られたものであり、唯この場合には消費者は外國人であつて、この移轉は一國から他國へと行はれるのである。私が述べた何事からも、グラスゴウ及びロンドンの雙方に其の貨物の交換より生ずる利益を私が過少評價してゐる、と推論されてはならない。私は單に、この利益が高い利潤と價値の増大といふ形で現れるといふことを、否定するに過ぎない。ロンドン及びグラスゴウの雙方の勞働がより生産的に導かれる限り、兩者は共にこの取引から利益を得るであらう。若しグラスゴウが自身で鐵器を造り、又はロンドンが自身で綿製品を造るならば、兩者は各々、一定の資本を以て、共に、より少い鐵器と綿製品とを得るであらう。——よりよい分業によれば、綿製品はロンドンに於いてより低廉であり、又鐵器はグラスゴウに於いてより低廉であらう——然らば兩地にとつての利益は兩者が價値の何等かの増大を得るといふことではなく、同額の價値を以て兩者が共により多量の貨物を消費し且つ享受し得るといふことであり、そして若し兩者がより多量を購買しようといふ志向がないならば、兩者はその支出から貯蓄するの手段を増大するであらう。然らば『収入の價値は、生産せられたる貨物の市場價格に

よつて、より大でもより小でもあらう』(譯註「次のべ」)といふのは眞實ではあり得ない、蓋し貨物の生産費が變動しないと假定すれば、一方の高い市場価値とは實際他方の低い市場価値のことである——何故ならば、貨物は貨物で購買せられ、そして若し毛織布の価値が絹で測定して高いならば、絹は毛織布で測定して低くなければならぬ故に——からである。若し毛織布製造業者の利潤が絹及び其の他總ての他の貨物で測定して高いならば、それは單に毛織布の總ての消費者の基金からこの利潤に支拂はれる所があつたからに外ならない。

一國の勤勞は其の資本の額によつて測定され、そしてこの資本の使用方法は、住民の享樂に或る相違を造るかも知れぬけれども、國民收入の價值には殆んど相違を造らぬものである、と云はれてゐる。この事は、一つの假定の下に、而も一つの假定の下に於いてのみ、眞實であらう。それはすなはち、住民が、遠方から獲得する貨物の如くに、彼等の限られた生産品をそれだけ高く評價し、それ等を獲得し消費するにそれだけ熱心であり、そしてそれだけ喜んでそれ等の爲めに激しく働き且つそれ等の爲めに大なる犠牲を拂ふ氣にさせられ得る、といふことである。併し吾は任意にかゝる假定を爲し得ようか？ 商人がその地で産する貨物をより以上要求される他のものと交換するのは、明かに、その地で産する貨物を購買せんとする熱心の缺乏に打克たんが爲めである。吾々が單に、グラスゴウの人々の欲求と嗜好とを、彼等をして、彼等が生産する多量の綿製品を、繁榮せる取引の下に於いて彼等がそれと引換へに受取り得る或る物品と、同様に高く評價せしめる様に、變更し得るとすれば、吾々は最早彼等の慘苦を聞くことはないであらう。

一國に於いて維持せられる生産的勤勞の量か、使用せられた資本の量に殆んど比例することは、認められ得よう。併し收入の價值は、生産せられたる貨物の市場價格によつて、より大でもより小でもあらう。かゝる市場價格は、明かに、財貨の交換に依存しなければならぬ。従つて、收入の價值とそれを増加する能力及び意思とは、貨物を社會の欲求と嗜好とに最も適合せしめる所の貨物の分配に依存しなければならぬ。

一國民の全生産物は貨幣及び勞働に於いて市場價格を有つものと云はれ得よう。この市場價格が高い時には、換言すれば、貨物の價格が、同一の資本と人數とがそれに使用せられてゐるのに、それが生産に於いて要費した所以上に出づる勞働の超過の以前よりもより多量を支配し得る程に、騰貴するならば、より多くの薪らしき勞働が毎年働かせられ、そして富の増加が確實且つ急速となるであらうことは、明かである。他方に於いて、貨物の市場價格が、その生産が要費した勞働の殆んどより以上を支配し得ざるが如きものである時には、國民的富が極めて緩慢に進行し、又は恐らく全く停止的であらうことは、同様に明かである。

貨物の分配(註)に於いては、凡ゆる國の流通媒介物が極めて重要な役割を帯びてゐる。そして私が前に註に於いて(譯註「本註第三」)暗示した如くに、吾々は、それを吾々の考慮外に追出すことによつて、吾々の推理を明かならしめるよりは不明瞭にする傾向が、遙かにより多い。實に流通媒介物に關説することなくしては、一國の貨物が、それにその正當な價值を與へるが如くに分配せられてゐるか否かを、確めることは、容易ではないのである。

R註 原理を明かにするに當つては、單に媒介物自身が不變である限り、價值が如何なる媒介物で測定されても構はない。貨幣——穀物、労働は、何れも等しく良いものである、マルサス氏は、貨幣を用ひるに當つて、貨幣自身の變動を、彼が論じてゐる貨物の變動と屢々誤つてゐる様に、私には思はれる。貨幣の價值の變動は、貨物の價格を同一の比例で騰落せしめるから、其の相對價值には何の影響をも及ぼさない。併し、經濟學者の見解に最も重大な影響を及ぼすものは、貨物特に必需品及び奢侈品の相對價值の變動である。

若し労働の維持の爲めの財本フナツトが何等かの時に於いて異常に豊富であるならば、それが通常の分量以上の労働を支配し得るであらう、と正當に推測され得よう、と恐らく云はれるかも知れない。併しそれは確かに、若しその分配に缺陷があるならば、より多くの労働を支配し得ず、又同量すら支配し得ないであらう。そして流通媒介物を有つ國に於いては、流通に缺陷があるといふ明かな證據は、全生産物が以前と同額の流通媒介物と交換せられず、従つて生産者が貨幣利潤を大いに減少して、又は積極的に貨幣損失をなして、販賣せざるを得ざるに至つてゐる、といふことである。

一八一五年の收穫から一八一六年の收穫に至る間に、我國に於ける労働の維持の爲めの財本フナツトが異常に豊富であつたことには、疑ひはあり得ない。穀物は特に豊富であり、そして其他の必需品も少しも不足ではなかつた。而も部分的には以前と同一の分量の労働を使用する能力の不足により、又部分的にはその意思の不足により、多數の者が解雇せられたことは、一般に認められてゐる。

521 といふに【因原接直の】進増の富【章七第】(第一節)

る事實である。この事實は如何に説明せらるべきであらうか？【前述の如くに】流通媒介物に關説することなくしてはそれを説明することは（確かに）容易ではないであらう。【蓋しこれに關説しなければ、缺陷ある分配の證據は極度に困難であらうからである。】併し吾々が流通媒介物に關説した瞬間に右の事實の理論は全く明かになる。殆んど三分の一の額に及ぶ粗生産物の貨幣價值の下落があつたことは、認められてゐる。併し若し農業者が（註二）、彼が以前にそれを販賣した價格の單に三分の二で彼れの生産物を販賣し（他方労働の貨幣價格は騰貴しなかつた）ならば、彼が前年と同一分量の労働を支配し且つ同一分量の資本を彼れの農場に使用することを全く得ないであらうことは、明かである。そして後に、大なる程度に於いてこの前以ての粗生産物の下落によつて惹起された所の、（殆んど）總ての製造生産物の貨幣價格の大なる下落が起つた時には、（若し労働の價格が下落せず、又はそれに比例しなかつたならば、極めて多量の生産物が労働者に支拂を爲す爲めに必要とされ、爲めに）製造業が以前と同一數の労働者の労働を（雇傭）【支配】し得ないであらうことは、同様に明かである。必需品の豊饒の眞唯中に於いて、これ等の社會の二つの重要な階級は、實際その労働雇傭能力を減少されてゐるが、他方固定的所得を有する總ての者は、労働を使用する能力は増大されようが、彼等の需要をそれに比例して擴張する意思が増大する可能性は殆んどないであらう。そして一般的结果は、在來存在した運輸の妨害より起る所の生産物の局部的分配の結果に類似するであらう。短い間は（註三）、同一量の【又はより多量の】貨物が生産せられ得よう。併し分配が、供給を各部に於いて需要に比例せしめ

るが如きものではない故に、全體は交換價值に於いて下落し、そして全國に關して「極めて」決定的な生産の妨げが經驗されるであらう。その爲めに、若し必需品が、同時に適當な分量の労働を使用する能力も意思も有つてゐる者の手にないならば、社會の労働階級はこの必需品の豊富の眞唯中に於いて解雇せられるであらう、といふことになるのである。

R註一 彼が翌年に同一分量の労働を支配するか否かは、労働の價格に依存するであらう。假令労働が穀物に對し或る比例で下落しても、農業者は恐らく大いに慘苦を蒙るであらう、蓋し地主との彼の契約は貨幣地代を支拂ふにあるのであるからである。この地代は生産物の價格如何を問はず依然として同一である。併し乍ら若し農業者がより少い労働しか雇傭し得ないとしても、地主は——若し彼がその地代を受取るならば——より多くを雇傭することが出来る。マルサス氏は、労働を雇傭する能力は減少し、従つてそれに對する需要は減少するであらう、と考へてゐる——彼は、労働者の消費する主要物品たる穀物の價格は下落するであらうことを、認めてゐるが、而も彼の議論に於いて、彼は、労働は以前と同一の價格にあるであらう、と考へてゐる。マルサス氏は附言して曰く、『そして後に、總ての製造生産物の貨幣價格の大なる下落が起つた時には。』併し何故に製造生産物は下落しなければならぬのか？ 其の生産費は以前と同一であり、そして穀物が製造貨物に比較して下落するのは、單に穀物は豊富であり、——より低廉に生産され、そして製造貨物はさうではない、からに過ぎない。何事が起つたか？ 穀物の分量の増加、事實上全人口に比較しての貨物の分量の増大、これである、そしてマルサ

ス氏によれば何事が結果でなければならぬか？ 曰く、總ての階級の普遍的慘苦。前述せる如くに私は農業者が慘苦を蒙る理由を理解し得る。併し凡ゆる人が穀物の生産者で貨幣地代を支拂ふ約束をしてゐる譯ではない。労働者が彼の穀物の購買に當つて行ふ節約に比例して勞賃が下落するものと假定しても、彼は矢張り以前だけの量の製造貨物を購買し得るであらう——若し彼の勞賃が下落しないならば、彼はより多く購買し得るであらう。凡ゆる製造業者自身はより多くの製造貨物を他の製造業者から購買し得るであらう。より少ししかパンに支出しなくて済むので、彼は他の物により多く支出し得るであらう——地主も同一の地位にあるであらう、そして製造業者(譯註「製」)に對する需要は疑ひもなく農業階級の側に於いて減少されるであらうけれども、それが他の諸階級に關しては増大されることは、思ふに争ひ得ないことである——然らば製造品は貨幣價格に於いて下落せず、製造業者が以前と同一數の労働者の労働を支配し得ないこともないであらう。若し労働の價格が下落するならば、彼等はより多くを支配し得るであらう。

R註二 マルサス氏は曰く、『全體は交換價值に於いて下落するであらう。』これは何のことであるか？ それは貨幣價值に於いて下落するであらうか？ マルサス氏はこれを肯定するであらう。然らば私は問ふ、この貨幣價值はより大なる分量の労働を支配するか否か、と。マルサス氏は労働階級は解雇せられるであらうと云ふ——若しさうならば、この貨幣價值は以前よりもより多くの労働を支配するであらう。然らば、貨物は、マルサス氏の眞實價值の定義によれば、騰

貴したのではないか？

【従つて、生産物の大なる増大に關して假定を爲し、そして流通媒介物に關説することを一切拒否してこの大なる増大が正當に分配せられ且つ有効に消費せられるであらうと結論するのは、何の役にも立たないことである。それは吾々がそれを下す何等の權利も有たざる結論である。吾々は、理論からも又經驗からも、若し全生産物が貨幣價值に於いて下落するならば、分配が生産を阻害するが如きものである筈であることを、知るのである。】生産物の貨幣價格に於けるこの下落が引續き【國の内外の】労働を支配する能力を減少する限り、生産への【大なる】阻害が明かに續いてゐる筈である。そして若し、労働が新たなる價格水準に適合した後に、生産物の永續的分配と人民の永續的嗜好及び習慣とが適度の（有效）消費にとり好都合でないならば、經濟學の（R註）最も明瞭なる諸原理は、資本の利潤が或る時期の間、土地の状態が必要ならしめたよりもより低くなり、そして生産（の比率の鈍化）【に對する妨げ】は、それを惹起した所の、生産物の缺陷ある分配と不都合なる嗜好及び習慣と同様に、永續的であらうことを、證示するのである。

R註 最後に耕作せられそして地代を支拂はない土地に於ては、利潤は、何等かの期間、土地の状態と労働者への報酬とが必要ならしめるよりも、より低くはあり得ないであらう。この場合には資本に對する二つの利潤率——一つは農業に使用せられた資本に對するもの、もう一つは製造業に使用せられた資本に對するもの——がなければならぬが、併し一方の資本家は彼れの資本を自由に他方の用途に移し得よう。これはあり得ないか？

一國の流通媒介物の價值の何等かの本質的變化が、其の生産物の分配の變動を惹起することなくして起ることは、殆んど不可能である。紙幣の不愼慮なる使用は、かゝる變化の主たる原因であると認められなければならぬ。併し假令紙幣なくとも、又は紙幣が常に地金と同一の價值を維持すると、凡ゆる國は、其の貨幣と比較しての其の生産物の價值の變化を蒙るのである。そしてかかる變化は、部分的には一時的に又部分的には永續的に、生産物の分配に對し大なる影響を及ぼさなければならぬ故に、かくも有力なる因子の影響を考慮に入れることなくしてかゝる問題に關して推理せんと決することは、故意に眞理に對し眼を閉づることであらう。従つて終局的には全生産物の價值の最良の實際的尺度として【國の内外の】労働への支配力に關説することとして、生産物の分配がこの生産物をして其の分量の増大に對する【或る】比例に於いて労働を支配し得せしめるが如きものであるかを確かめんが爲めに、それに先立つて其の地金價值に關説することは、有用であらう。若し一國の生産物の地金價值が、（利潤の下落を伴はずに）年々より多くの【國の内外の】労働量を支配するが如くに増大するならば、それは富と繁榮とに妨げなしに生じてゐるものと吾々は可成り確實に確信し得よう。併し若し單に貨物の増大があるに過ぎないならば、より以上の研究なくして、それは、國民的富の増進を促進せず遅延せしめるが如くに分配せられてはゐないであらう、と云ふことは不可能である。

凡ゆる國に於いて、生活資料の獲得の困難より、（比較的）沈滞期が、終には到達しなければならぬことは、十分に述べられ且つ認められてゐる。併し（有效需要の不足は）【國內で生産せら

れた財貨を多量に消費せんとする志向がなく、且つ有利な物々交換の手段が缺けてゐるといふことは「一國民の進歩の『極めて』初期に、同様の沈滞を『惹起し得ようし、又』屢々惹起してゐる。内外の市場が極めて限られてゐる國は、決して多量の資本を蓄積し得なかつたが、それは蓋し、かゝる市場が、貨物の市場價格を維持し且つ（利潤の下落を妨げる）『貨物に對する又それを生産すべき資本に對する需要の増大を惹起す』に絶對的に必要なる、欲求及び嗜好と消費の願望との形成を妨げるからである。内國取引によつて惹起される貨物の分配は、富及び資本の何等かの大なる増大に向ふ第一階梯である。そして若し我國に於いて五哩以上の距離の所に交換が行はれ得ないならば、恐らく現在の資本の五分の一が使用されない中に、蓄積に對する有效なる奨励と富のより以上の増進とは（殆んど）停止して了つてゐたことであらう。

個人を誘つて（R註）外國通商に従事せしめる誘因は、同一國のより、遠い地方の間の財貨の交換に導く誘因と正確に同一であり、すなはち地方生産物の市場價格（を増大し又は維持せんとする願望）『の増大』である。そしてかくの如くして個人によつて爲される利潤の増大、又は資本が國內に於いて使用されたならば起つたであらう所の利潤の下落の防止は、國民生産物の價值の（比較的）『比例的』増大と考へられなければならない。

R註 四四二の記述を見よ。（譯者註—四つ）
（置いて前のR註）

リカアドウ氏はその外國貿易に關する章を次の如く述べることによつて始めてゐる、「如何に外國貿易が擴張されても、假令それは諸貨物の總量を、従つて享樂品の數量を増加するに甚だ有力

に貢獻するといへ、それは直ちに一國に於ける價值の分量を増加しないであらう。」（譯者註）この敘述は、價值は一に貨物が要費した勞働に依存するといふ、價值に關する彼特有の觀念と、全く一致するものである。商人の利得が如何に豊富であらうとも、又はその價值が價值なる語の普通の意味に従つて、彼れの輸出品のそれを如何に超過しようとも、これ等の輸出品を獲得するに使用せられた勞働が最初は同一であらうことは、確實である。併し（R註）異常に有利な貿易より得られる收得が異常なる分量の貨幣、勞働及び内國貨物と交換されるであらうことは、極めて顯著な且つ否定し得ざる事實である故に、又貨幣、勞働及び貨物を支配する能力のこの増大は、實際上、商人が外國市場の擴大や有利なる貿易と云ふ時に彼が意味してゐるものである故に、（又かゝる事態は）最も重大な結果を産み出すに足る時間の間『續き得ようし又』屢々續く（ことは知られてゐる故に、この敘述は全く不正確であることを認めなければならない。）『所のかゝる事態は、そのみで又直ちに、交換價值をして専ら生産費に依存せしめる見解が全く誤つて居り、そして富の増進に伴ふ大現象を解くに全く役に立たぬものであること、決定的證據であるやうに、私には思はれる。』

譯者註 前掲譯書、一三二頁

R註 私は、これが、商人の利潤を判断すべき正常な指標である、といふ點で、マルサス氏に全く同意するが、併し私は、それは明瞭な利得ではない、と主張する——それは屢々彼の同胞市民の或る者の貯蓄を犠牲として得られるものである。

「若し外國が——とマルサス氏は曰ふ——ロンドンの市場で五萬磅に賣れる新種の貨物を特定商人に送つたとすれば、かゝる商人の富はそれだけ増加したことになる。そこで私は問ひ度い、誰がより、貧しくなつたであらうか？」(譯者註—次のパラグラフを参照、但し引用文は原文と若干の相違がある。)これは、貨物の性質と、これ等の財貨を商人から消費者が購買する基金フナンドとに、依存するであらう。若しそれが、然らざれば貯蓄された筈の基金から購買され、そしてかくの如くして購買せられた貨物が直ちに消費されるならば、國の資本はこの贈物によつては増大されないのであらう——唯一の結果はその特定年度の享樂品の分量の増大といふことであらう。若し或る他の貨物を購買する代りにこの貨物が購買され、——この他の貨物がこの外國貨物と引換へに商人に與へられ、そして商人によつて資本として使用されるならば、全體としてこの贈物の結果として五〇〇〇〇〇磅の貯蓄の増大が生ずるであらう。この場合は、如何なる點に於いても、グラスゴウとロンドンとの場合と相違しない。國の年収入から行はれる貯蓄の増大の結果として、蓄積が行はれるのである。貴君は五〇〇〇〇〇磅を與へられ、それを貯蓄し貴君の資本に追加することにきめるのである。

(疑ひもなく、リカアドウ氏の述ぶる如くに、商人の利益は、二十五パイプの葡萄酒の代りに五十パイプを輸入しても、若し五十パイプがより大なる價值でないならば、それによつて少しも影響を蒙らない。利潤は、私の證示せる如くに、常に價值によつて測定され、分量によつては測定されない。商人、外國通商に従事する時に懷いてゐる特別の目的は、彼れの資本に對し、それを内國に於いて使用した場合よりも、大なる價值の收得を得ることである。そして市場の擴大に

より外國貿易が順である場合には常にこれが特殊的に云つて彼の得る所のものである。)

(併し)リカアドウ氏は、生産物の一部門に於いて價值が増大する時には、他の部門に於いては必ず減少する、と考へてゐる「やうに思はれる」(註一)。このことは又も、價值に關する彼れの見解によれば、眞實であらうが、併し經驗によつて樹立され且つ確證されてゐる交換價值に關するより、廣大な見解によれば、全く無根據なものである。若し或る外國が、ロンドン市場で五萬磅に賣れる新種の貨物を特定商人に送つたとすれば、かゝる商人の富はそれだけ増加したことになる。そこで私は問ひ度い、その爲めに誰がより貧しくなつたであらうか？ かゝる貨物の購買者が、以前には買入れるを常としてゐた物品の若干の使用を見合さざるを得なくなり(註二)、そしてそれだけ或る方面で需要が減少するであらうことは、疑ひもなく眞實である。併しこの減少を相殺する爲めに、富裕になつた商人は、恐らく全五萬磅に及ぶ追加の財貨の購買者となり、かくして國內で消費される國産生産物の價值の一般的下落を防止するであらうが、他方かくの如くに消費せられる外國生産物の價值は輸入せられた新生産物の全額だけ増大してゐるのである。私は、外國からの贈物と新らしき外國貿易の異常なる利潤との間に、一國家の富に及ぼすその影響に於いて、何等の相違をも見ない。兩者は等しく、獲得されたる生産物の分量と價值との兩者の増大だけ、社會の富を増大せしめるものと考へられる。

註一 リカアドウ氏の (R 註) 外國貿易に關する章に於ける最初の二文が十分の根據を有つならば、諸國民間の「かゝる」通商は存在しないであらうやうに、私には思はれる。

R註 マルサス氏は私を誤解してゐる。私は、文字の上から云つて、輸入貨物は輸出貨物以上の價値は有たぬであらうといふことを、意味してゐない——輸入貨物は、少くともそれを輸入するに使用せられた労働、並びに商人の資本が使用せられた期間の商人の利潤を——これが事實上その貨物の生産費を成すものであるが——償ふに足るだけ、より大なる價値でなければならぬ。併し輸出貨物は同一の理由によつて同一の價値を追加せられ、従つて若し貴君が輸入貨物の生産費と價値とを増大したとしても、貴君は又輸出貨物の生産費と價値とを増大してゐるのである。若し私が一〇〇磅に値する帽子を送り出しそれがフランスに於いて一〇五磅に賣れ、そして一〇〇磅に値する赤葡萄酒を受取りそれが我國に於いて一〇五磅に賣れるならば、私は一〇〇磅を與へて一〇五磅を得た様に思はれ、又フランスの商人にとつては、彼が一〇五磅を受取つて一〇〇磅を與へた様に思はれるであらうが、併し事實上は兩者は共に同一の價値を受授したのである。この五磅は資本の支出と利潤とを償ふために加へられたものである。同一期間に内國に於いて使用され且つ同一の車力費又は何等かの他の種の費用を伴つた所の、如何なる一〇〇磅も、等しく一〇五磅を産出すであらう。然らば吾々は外國貿易によつてより望ましい貨物を得たのであるが、併しより價値多き貨物を得たのではない。然らば私が次の如く云ふのは正當ではないか、『如何に外國貿易が擴張されても、假令そは諸貨物の總量を、従つて享樂品の數量を増加するに甚だ有力に貢献するとはいへ、そは直ちに一國に於ける價値の分量を増加しはしないであらう。』(譯者註—前掲譯書、一三三頁、すははちマルサスの「論議する、外國貿易に關する章の冒頭の文である。')

註二 併し乍らこのことは必ずしも起るものではないであらう。消費の誘惑の増大は、或る人々をして、然らざれば貯蓄し大であらうものを支出せしめ、そして多くの場合に於いて、國の富は、この變化によつて害を蒙ることなく、それによつて利得するであらう。消費の増大は、それが行はれる限りに於いて、市場價格と利潤との増大を惹起(し、そしてこの)「すであらう」利潤の増大は、間もなく、短期間それがあべき所から離れてゐた資本を、恢復するであらう。[そして國はより、大なる消費の習慣と、同時に又それに比例するそれを供給する手段とを、有ち積むることになるであらう。]

假定によれば國の人民も貨幣も増大せられてゐないのであるから、労働又は貨幣で測定せられた全生産物の價値は増大し得ない、と恐らく云はれるであらう。

【労働に關して云へばR註、私が、一國の全生産物の價値が以前よりもより多くの労働を支配し得る、と云ふ時には、私は特別により、大なる數の労働者のことを云はうといふ積りではなく、それは以前の價格でより多くを購買するか、又は現實の労働者により、高く支拂ふことが出来ようと、云はうといふ積りである。そしてかゝる事態は、人口が直ちに増加せられないので、常に、以前には恐らく單に半ば支拂はれ且つ半ば雇傭せられてゐたに過ぎぬものの力作をかくも有力に奨勵し、そして同時に増加し行く富の最も確實な徴候でもあれば又最も有效な刺戟でもある所の、かの労働に對する需要を惹起するのである。それは労働で測定された生産物の價値が人口よりもより速かに増加してゐる當然の結果であり、そして人口のより以上の増加に對する眞實の且つ健全なる奨勵を成すものである。】

R註 こゝには、マルサス氏の眞實交換價値の尺度の、新説明がある。若し私は昨年よりも今年の方がより大なる價値を有つてゐるか否かを知らうと私が思つても——私は、昨年私が雇傭し

得た労働者数と今年雇傭し得る数とを比較することによつては、この事實を確かめ得ない——蓋し、若し私が少しもより多くの労働を支配しないが併し現實の労働者により高い支拂をしたならば、私は等しくより大なる價值を有つてゐる筈であるからである。若し私がこのことを理解するならば、それはかういふことになる、若し私が私の貨物をこの價值尺度のより多くと交換し得るならば、私はより大なる價值を有つてあらう——そして若し私がその様に交換し得なくとも、私は等しくより大なる價值を有つてあらう、と。

【貨幣に關して云へば、この最も有用な價值尺度は、若しそれが如何なる點に於いても此の種の場合に適合し得ず、そして若し價值多き貨物の輸入が常に國民的生産物の他の部分の價格を比例的に低減するならば、極めて無差別に其の作用を演ずるであらう。併し此の事は、假令吾々が貴金屬の新しい輸入を少しも想像しなくとも、事實と相距る甚だ遠きものである。かゝる事件が起るのは、正に、現實に用ひられてゐる貨幣の流通速度が増大し、そして外國爲替相場場の下落や地金及び財貨の價格の下落なしに新たな紙幣が発行せらるべき、時期である。最も野蠻な國を除いては、これ等の方法の何れか一方又は両者が採られるであらう。そして疑ひもなく、國產財貨と直接に競争の地位に立つ外國貨物の輸入せられる場合には、かゝる國產財貨は價格に於いて下落し、そしてその生産者は一時の間より貧しくさせられるであらうけれども、而もかゝる競争によつて影響を蒙らなかつた他の財貨が貨幣價值に於いて下落するといふことは實に極めて稀にしか起らぬことであらう。そして全體としてはR註、全生産物の貨幣價值の騰貴を妨げるに足る特定貨物の下落は起らないであらう。】

R註 吾々がこれを認めると假定しても、商人の利得は新しい價值であるか、又は消費者の犠牲によつて獲得せられた價值であるか、の問題は、これによつては決定せられない。マルサス氏も私も共に、低廉な又は望ましい外國貨物の導入によつて利益が得られることを、認める、併し私は、其の利益の全部は消費者に歸屬し、そして若し商人が何時かその利益を享受するならば、それは、消費者を犠牲とし且つ彼からそれを奪ふことによつて、享受されるのである、と云ふのである。それは最終的には消費者に歸屬しなければならぬ。

(恐らく、全生産物の貨幣價值は、貨幣の輸入なくしては、増大せられ得ない、と考へられるかも知れない。併し)【併し乍らより多くの貨幣が輸入されるであらうと當然期待されるであらう。そして】事實上、外國貿易の成功的擴張が正に、最も直接に地金の輸入に導く所事態である。文明國民の場合に、輸出商人が、特別に、外國通商の成功的擴張と考へるものは何であるか？疑ひもなく、彼れの外國への輸出品を、地金で測定して、通常以上の價值で販賣する能力である。そして云ふまでもなく、若し彼がそれと引換へに輸入する財貨が國內で、その輸入を保證する程より高く賣れないならば、收得の一部【又は全部】は(最終的に)貨幣で輸入されるであらう。併し若し、(全取引に對し)國の通貨の全部が其の生産物の全部に對してとると同一の比例を、財貨での收得に對しとる如き額が、輸入されるに過ぎないならば、國の生産物がその以前の價格で流通するに何等の困難も——外國財貨が直接にそれと競争の地位に立つ物品が唯一つの例外である、この場合にはそれは決して全生産物の價值の一般的増大を妨げるに足りないであらう——

起り得ないことは、明かである。

従つて吾々は次の章句に含意されてゐる結論に於いてリカアドウ氏と明確に見解を異にするのである。『總ての場合に於て、外國貨物及び内國貨物の兩者に對する需要は、價值に關する限りに於いて、その國の收入及び資本によつて限定される。若し一方が増加すれば、他方は減少しなければならぬ。』(註) 成功的な外國貿易のR註殆んど凡ゆる場合に於いて、全體としての國の内外的貨物に對する需要が決定的に増大し、そして外國生産物の價值の増大が内國生産物の價值の比例的減少を惹起さないことは、疑ひ得ない事實であるやうに、私には思はれるのである。

註 *Princ. of Polit. Econ. c. vii. p. 138. 2d edit.* (譯者註——前掲譯書、一三四頁)

R註 若し四人の人間が各々一年一千磅を得るならば、彼等は一年四〇〇〇磅以上を支出し得ない。彼等が外國貨物に多くの價值を支出すればする程、彼等が内國貨物に支出すべきものは益々より小になる。少額の價值に對し低廉な換言すれば豊富な貨物を買ふことは著しく重要なことであらう。そして外國貿易と市場の擴張とが彼をしてこのことを爲し得せしめる限り、それは國にとつて便宜なことである。マルサス氏は曰く、『併しこの問題に關する私の見解によれば、地代、利潤、及び勞賃の合計から成る國民收入は、外國貿易商人の利潤の増大によつて直ちに決定的に増大せられる。』(譯者註——次のラクラフを参照) 國民收入は増大せられる！ 何でか？ 消費貨物の分量の増大又は品質の改善で。併し其の價值の増大ではなく。併しこの利益は何で現れるか？ 恐らく短期間には商人の利潤の増大で、併し最終的には常に外國貨物の低廉な價值で。それは、

製造業者が彼れの財貨を製造すべき進歩せる機械を發見せる場合と、正確に同一である。競争が彼に十分の作用を及ぼしそして彼をして其の財貨の價格を生産費に迄低下するの止むなきに至らしめない間は、彼は大きな利潤を得るが、併し最終的にはこの改良の利益は全く消費者に歸屬する。

併し乍ら私はなほ、内外兩貨物に對する需要は、『價值に關する限りに於いては』その國の收入及び資本(の價值)によつて限定されることを、認めるであらう。併しこの問題に關する私の見解によれば、地代、利潤、及び勞賃の合計から成る國民收入は、他の如何なる方面に於いてもそれに比例する收入の減少を齎らさず、外國貿易商人の利潤の増大によつて直ちに決定的に増大せられる。然るにリカアドウ氏は明かに、貨物の量は増加されるであらうが、國の收入は、價值に關する限りに於いては、依然同一である、といふ意見である。『そして私が表現されたといふよりは寧ろ含意されたといふ語を用ひたのは、引用章句の現實の用語よりは寧ろ傳へんと企圖された結論に私が反對であるからである。』

貨物の分量のR註増大が外國貨物の最も望ましい結果の一つであることは、容易に認められるであらう。併し私は特に、殆んど總ての場合に於いて、『明かにリカアドウ氏によつて反對されてゐる』もう一つの最も重要な結果が、すなはち交換價值の額の増大が、それに伴ふことを、力説して讀者の注意を求めたい。そして又この後の結果は、生産的勤勞に繼續的刺戟を創造し、そして貨物の豊富なる供給を維持せんが爲めに、極めて必要なものであり、従つてそのことが起らな

い僅少の場合に於いては、勞働に對する需要の沈滞は直ちに感知せられ得るに至り、そして富の増進は妨げられるといふことを。外國通商の擴大は、リカアドウ氏がそれに就いて探る見解に従へば、——私の意見によれば——吾々を屢々、我國が一八一六年の初期にあつた状態に、置くものであらうが、その時には、大なる供給が不足なる需要に際會した爲めに生じた穀物其の他の貨物の突然の豊富と低廉とは、國の所得の價值を著しく減少し、爲めにそれは最早同一の價格で同一量の勞働を支配し得なくなり、その結果は、豐饒の眞唯中に於いて、數千「又數千」と解雇せられることとなつた——これは、明かに、そのみが國の一般所得をして以前と同一數の勞働者を雇傭し得せしめ、そして富の増大に對する著しき妨げの時期の後に進歩的運動を再開し得せしめる所の、勞働の貨幣勞賃の下落の、極めて苦痛なる併し殆んど不可避的なる豫備手段である。

R註 『交換價值の額の増大』！如何なる媒介物でか？ 資本の普通の且つ通常の利潤は生産的勤勞に對する十分な刺戟ではないか？

『國の所得の價值を著しく減少し、爲めにそれは最早『同一の價格で同一量の勞働を支配』しなくなり、その結果は、等々。』併し若し貨物が價格に於いて下落し、そしてより低い價格で同一量の勞働を支配するならば、誰がそれによつて害を蒙るであらうか？ 勞働の雇傭者ではない、蓋し同一量の貨物を以て彼は同一の勞働を支配し得るであらうから、——勞働者ではない、蓋し彼等は其の勞働と引換へに同一量の貨物を支配し得るであらうから、そして若しその何れかが害を蒙るならば、他方がそれに相應する利益を得るであらう。これは單に貨幣の變動に過

ぎない。

リカアドウ氏は R註一 R註二 常に、勞働者にとつては、彼が勞働の貨幣價格の騰貴によつて生活の必需品のより多くを支配し得ようと、又は食料品の貨幣價格の下落によつてさうであらうと、全く同一であると、考へてゐるやうに思はれる。併しこれ等の二つの事柄は、その結果に於いては外見上同様であらうけれども、最も本質的に異なるものであり得ようし、又一般に異なるものである。【名目的及び眞實的の雙方の】勞働の（貨幣）勞賃の増大は、（一般に）【普く】總ての勞働階級に十分の雇傭を保證し、且つより以上の生産物とそれを獲得すべき資本とに對する需要を創造する爲めに、勞働を増大し行く價值を賦與する如き、現實の富の分配を意味する。略言すれば、それは健全と繁榮との確實なる徴標である。然るに、必需品の貨幣價格の下落は、屢々、其の價值の一般額が維持せられ得ざる如き國の生産物の缺陷多き分配より、起るものである。この場合には、最も好都合なる事情の下に於いても、職業の不足と慘苦との一時的の時期は不可避的である。そして多くの場合に於いては、（地球上の種々なる國を調べるに當つて餘りにも屢々見られるが如くに）必需品の貨幣價格のこの下落は、退歩的な且つ永續的に減少せられた富の結果たる、雇傭口の永續的缺乏と、最も悲惨なる貧困との隨伴物である。

R註一 或る瞬間には價值はそれが支配し得る勞働量によつて測定せられると主張し、次の瞬間にはこの尺度に反對し其の不十分なることを證示する所の、經濟學の體系に對しては、吾々は何と云ふべきであらう。若し貨幣勞賃が依然同一であり、そして勞働者の勞賃が支出される凡

ゆる貨物が貨幣價格に於いて下落するならば、労働者の勞賃はマルサス氏の價值尺度に於いて眞實に増大される、そして若し貨物の額が増大されないならば、それは——若し労働が價值の尺度であるならば——彼れの眞實價值の尺度で下落してゐる筈である。蓋しかゝる事情の下に於いては、同一分量の貨物は同一分量の労働を支配し得ないから。若し貨幣勞賃が増大し、そして貨物の價格が騰貴しないならば、眞實勞賃も亦増大するであらう、そしてこの場合に於いても亦若し貨物が分量に於いて増大されなければ、其の眞實價值は下落してゐることであらう。これ等の二つの場合は正確に同一ではないか？ マルサス氏が、労働の貨幣價格の騰貴は貨物の分量の増大と労働に對する需要の増大とを物語るものであるが、併し貨幣勞賃が停止的であつて貨物の價格が下落するのはかゝることを少しも物語るものではない、と云ふであらうことを、私は知つてゐる。併し彼はこのことの證明を何も與へてゐない。貨幣がより、價值多くならないであらうか、そしてその場合には貨幣勞賃が停止的であつて貨物の價格が下落するのは、労働に對する需要の増大を物語るものではないであらうか？ 唯貨幣のみを除いての總ての貨物の生産に於ける新らしい便宜以外には、かゝる結果を生じ得る原因を私は知らないのである。

外國貿易に關する私の章の議論は、短期間を除けば外國貿易に於ける利潤は一般利潤率以上には上り得ないといふ、信ずらくは争はれない假定に、基づくものであり、そしてそれがそれ以上に上る時には、常に、私は、利潤の平等化は外國貿易に於ける利潤の下落によつて行はれ、

他の事業に於ける利潤の一般的騰貴によつては行はれない、といふ意見であり、又この意見に對する私の理由を擧げて置いた。

外國貿易に於ける利潤が一般利潤以上に上る期間には、それに従事する者はより多くを得、そして他の何人もより少くは得ず、従つてその限りに於いて國民收入は増大されるであらう。併し他の資本家の競争が外國貿易の利潤を利潤の一般水準に下落せしめるや否や、國民收入は貨幣で測定した時には以前よりもより少い價值となるであらうけれども、國にとつては何物も失はれず、以前には商人が得た利益は今も消費者によつて享受せられるであらう。商人はより低い價格で賣りそしてより少い利潤を得るであらう——消費者はより低廉な價格で買ひ、そして彼が行ふ節約は商人が以前に享受し今は拋棄する利潤と額に於いて正確に等しい。併しこの期間に於いて國の全生産物はより大なる價值であつた。確かにより大なる交換價值であつた、併し、それが拋棄された時にも矢張り等しく社會の他の部分が享受してゐることがわかるのであるが、それでもこれは國にとつての何等かの眞實の利益を伴つたであらうか？ この場合は新らしい機械を發見しそして暫くの間その秘密を守り得る人間と正確に同様である——彼はその期間大なる利潤を享受し、そして國の年収入は、彼が其の貨物を其の自然價格で賣る間は、増大されるのであらうが、併し、貨物をより低廉に生産する彼れの方法が普く知られるに至り、そして消費者が、この特定の製造業者が拋棄するものと正確に等しい、又は實際に等しい以上の、利益を得ることが出来る様になる時に、この利益の一分子でもが失はれるのであらうか？

若し外國貿易商人の又は個人製造業者のより大なる利得が望ましいのであるならば、然らばそれは一般的獨占制度の擁護論であるのな——單に資本家の利潤のみを考へそして消費者の愉快と利益とを殆んど顧慮しない制度の。

R註二 マルサス氏は私を誤解してゐる。私は、勞働の勞賃の増大が總ての勞働階級の十分な雇傭を意味するといふ點で、彼に全く同意するが、併し、食料品の價格の下落が偶然の供給過剰によつて惹起されるのでなく食料品を生産するより低廉な方法によつて惹起されるのである限り、貨幣勞賃の下落を伴はざる食料品の貨幣價格の下落も同じことを意味する。マルサス氏の誤謬は、低廉な穀物及び低廉な貨物は必然的に穀物の供給過剰及び貨物の供給過剰を意味する、と想像する所にある。吾々は供給過剰が害悪であることに同意する。それは一般に利潤なき生産を意味し、又時には使用された資本の回収すらなき生産を意味する。それは思ふに常に生産する物の選擇の誤りから生ずるが、併し唯一の正當な低廉と私が考へる生産の便宜による低廉は、必ずや最も幸福なる結果を伴ひ、そして明りが闇と違ふ程に供給過剰とは違ふものである。

機械の改善^{R註}又は外國貿易による特定貨物の價格の大なる下落が、常に全生産物の交換價值のみならず、更にこれ等の特定物品自身の全生産物の交換價值すら、繼續的な且つ大きな増大と、完全に兩立し得るものなることは、讀者の十分に知る所であらう。我國に於いて生産せられる綿製品的全價值が、その價格の大きな下落にも拘らず、驚くべき程に増大せられて來てゐることは、(既に)「屢」述べた所である。同一のことは、それが甫めて輸入せられた時には「一封

度當りの」(それ等の)價格は今日よりも著しくより高かつたとはいへ、茶(砂糖、其の他多くの物品)に就いても云ひ得よう。そして、若し吾々が或る國自身の葡萄酒を温室で造らうと企てたとしても、それは全然今日よりも遙かにより、少い貨幣に値するに過ぎず、そして遙かにより、少い勤勞を獎勵するに過ぎないであらう、といふことには殆んど疑ひがあり得ない。

R註 これ等は兩立し得るが、併し相互に缺くべからざるものではなく、そして一般に同時には起らない。地代の喪失によつて貨物の全量の貨幣價值は下落しそして少くとも一時の間はそれは大なる追加分量の勤勞を少しも支配しないであらうことは、明かに證明せられ得ようけれども、生産か輸入かの便宜の結果たる穀物の低き價值による利益は、大であらう。

* 次を挿入。然らば何故に貨物は大なる追加分量の勤勞を支配しないのか？ 蓋し勤勞に對する需要は、それに相應する供給がないのに、大いに増大するであらうから——すなはち勞賃は高くそして勤勞者の状態は最も幸福であらうから。

【假令貨物が、價格の下落によるそれに対する市場の擴大を許さぬが如き性質のものである時に於いても——これは極めて稀にしか起らぬことであるが——この場合使用せられざるに至る資本及び勤勞は、一般に、進取的且つ商業的の國に於いては、他の通路に導かれ得、國民所得の價值を維持し、又は屢々維持する以上に出づる、利潤を齎らすであらう。同時に、國民所得の價值を引上げるといふ、外國通商の一般的な且つ有力な傾向に僅少な例外が生ずるのは、正にこの種の場合に屬するといふことは、注意しなければならず、又極めて重要な點である。そしてかゝる例外が起る場合

には常に、換言すれば貨幣ですら測定して、國民所得の價值が減少する時には常に、生産物の分配の缺陷より起る一時的慘苦が必ずや起る。若しこの價值の減少が労働で測定されるならば、労働階級の間の慘苦と富の増進への妨げとは、かく測定せられたる價值の減少が續く限り、繼續するであらう。そして若し(食料)特殊の事情の下に於いて、何等かの種類の外國貿易が、國民生産物が國の内外的労働を支配する能力を永續的に減少する傾向があることが、證明せられ得るならば、かゝる貿易は確かに富及び人口の増進を妨げるの結果を有つであらう。】

R註 若し證明せられ得るならば！ 私は如何なる場合に於いても證明せられ得ないと信ずる。併し國民生産物は労働の支配力を減少せず而も富と人口とは共に増大しないであらうか？ 若し生産物が同一であつて労働が騰貴するとしても、而もそれは、より以上の貯蓄が行はれることを、より以上の富が獲得されることを、許すに足る、高さにはあり得ないであらうか？ 若し私の利潤が一〇〇〇磅から五〇〇磅に低減しても、若し私が一〇〇〇磅を貯蓄するならば、私はそれにも拘らず私の富を増大する筈である。

特定貨物に對する有效需要の増大の原因は極めて容易に説明し得る。併し時に全國を通じてかくも痛烈に感ぜられ、そして普く極めて沈滞せる取引状態を惹起す所の、需要の一般的繁忙の原因を説明することが、かくの如く極めて容易ではないことは、前述せる所であり又それは理由のあることである。有效需要の(食料)この一般的増大の特殊の且つ直接の原因として、私は、決定的に、(より)多くの労働が其の生産に使用せられる以前に、「國の内外的」労働に對する支配力の増

大を、それが賣れる貨幣價格に、與へるが如き、生産物の分配と、社會の欲求と嗜好とへの其の適合を、擧げたい。そして私は、若しこの嘗試が今まで起つた總ての顯著なる場合に當てはめられるならば、それが失敗する事は稀であり又は決してないであらう、と云はうとするのである。

R註 總ての場合に於いて、生産物のよい分配と、社會の欲求と嗜好とへの其の適合とは、取引の繁忙と資本の蓄積に對し最も重要なものである。この缺乏は、私の意見によれば、商業が種々なる時に經驗する沈滞の唯一の原因である。それは總て、誤算に、欲求せられる貨物の代りに欲求せられないそれを生産するといふことに、辿られ得ようが、併しこれを認めたらと云つて、吾々は、貨物の生産の便宜の増大による其の價格の下落から生ずる有利な利益を、否定しなければならぬのか？ この便宜を十倍に増大しても、而も若し生産される貨物が社會の欲求によく適合するならば、それ等は總て需要せられ、そして若しさうはならないならば、それは單に、生産者とその點に就いて誤りを犯し、そしてより賢明な事物の選擇を行へば必ずや生じたに違ひない需要の繁忙を保證するに必要な條件を充たさなかつたことを、證明するに過ぎない。

例へば、地金か「國の内外的」労働かで測定されたアメリカ合衆國の生産物の年々の増大が、吾々の知る如何なる國のそれよりも、より大であり、又このことが、この國の生産の便宜にも拘らず、その穀物及び粗生産物に、ヨオロッパの諸國の多くに於いてそれが有すると(殆んど)等しき價值を與へ、従つて、それが使用した労働の分量に比較した場合に、全く異常なる他國の生産物と労働とを支配する能力をそれに與へた所の、その外國通商に大いに負ふものであることは、

一瞬も疑ひ得ないことである。我國に於いて、一七九三年より一八一四年までに、「國の内外の」勞働か地金かで測定された生産物の全交換價值が、毎年大いに増加せられたことも、これと同様に殆んど疑ひ得ない。殆んど何等の^R甚異見なしに、この價值並びに富の増大に於いては、我國の外國通商の擴大が、極めて有力なる因子であると考へられてゐる。そして確かに一八一五年までは、我國の輸入品の増大し行く價值が、我國の内國生産物の價值を減少するの傾向が少しも有る、といふことを示す如何なる外貌もない様に思はれる。兩者は地金で測定されても勞働で測定されても、共に増大し、而も大いに増大したのである。

R註 若し一國民が貯蓄しそしてより多くの勞働を生産に使用するならば、それは其の生産物の分量及び價值を増大するであらう。かゝる場合に於いて、それが、内國貨物の價值は少しも減少せしめずに、外國輸入品の價值を増大せしめ得ようことは、確實である。マルサス氏は、私^Rが、國の内外の貨物の價值及び額は同時に増大し得ないであらう、と云ふ積りであつた、と想像することは出来なかつたのである。

併し、關説し得る様に思はれる凡ゆる國に於いて、價值の増大は増大し行く繁榮及び富に伴ふことが見出される間は、成功的な通商を營み且つ貨物の分量を増大しつゝある國で、「國の内外の」勞働で測定された全生産物の價值が退歩的であり又は停止的すらあるといふ、唯一つの例も作られ得ない、と私は（信ずる）【考へるに傾いてゐる】。そしてリカード氏が外國通商に關するその章に於いて述べてゐる所の資本が蓄積され得る二方法、すなはち利潤の増大による收入

の増大又は貨物の低廉より生ずる支出の減少（^R註）の中、その後者は^R註増大し行く富の永續的な且つ繼續的な生産に對する有效な刺戟としては、經驗されたことはないし、又決して經驗されな

いであらう、（といふ）ことが、見出されるであらう【と私は信ずる】。

註 Princ. of Polit. Econ. ch. vii. p. 139. 2d edit. (譯者註—前掲譯書、一三五頁)

R註 全く反對であると私は信ずる——それはマルサス氏が専ら關説してゐるものよりもより有力な刺戟であると私は信ずる。マルサス氏のこの意見は、彼が其の著作の他の部分に於いて、土地に於ける改良の結果たる國民的富に對する有利な影響に關して、彼が與へてゐる意見と、矛盾してはゐないか。この改良は、吾々をしてより大なる貯蓄を支出から爲し得せしめるといふことによる以外に、如何に作用したか。私は、生産的支出に追加する爲めに不生産的支出を貯蓄するといふ以外の貯蓄法を、知らないのである。

【リカード氏は、價值に關する彼自身の見解によれば、その國が獲得する總ての貨物の生産により多くの勞働が使用せられるに至るや否や、外國通商は價值を増大するであらうし、そして外國貿易により生み出された産物の豊富は當然にかゝる使用を奨励するであらう、と恐らくいふであらうし、又それは尤もなことである。併し私が^R註特に述べたいと思ふことは】外國貿易の自然的傾向は、（分配がそれによつて社會の欲求によりよく適合して行はれる所の總ての種類の交換のそれと同様に）他の場所に於いてはそれに比例する減少を伴はずに、利潤より成る國民收入の部分の價值を直ちに増大せしめるに（ある）【あり、そして】より多くの勞働を使用する能力と意思

との兩者を與へ、成功的な外國通商の驚くべき且つ殆んど普遍的な隨伴物たる、勞働、生産物及び資本に對する活潑なる需要を惹起するものは、正に、國內に於いてより、少なき價值を有つものをより多き價值を有つものと交換することから生ずる、國民所得のこの直ちに行はれる増大である【¹といふことである】。然るに勞働に比較して價值が極めて著しく下落せる貨物の單なる豊富は、(富の現實の増大と呼ばれ得ようけれども)明かに、最初は、同一數の勞働者を使用する能力を減少し、そして一時的供給過剩と需要の一般的不足は勞働、生産物、及び資本に起らざるを得ず、それは供給過剩が(必然的に)惹起さねばならぬ通常の慘苦を伴ふこととなるであらう。

R註 一商人が一捆の綿製品を所有し、これを彼は輸出し、そしてそれと引換へに一パイプ四分の一の葡萄酒を得、この一パイプを彼は英國に於いて一捆の綿製品に對して賣り、そしてこの四分の一パイプは彼自身の利潤として保持し、そしてそれを自分が最もよいと思ふ様に處分する。彼は新市場を發見し、そして彼れの取引を再び始め、そして彼れの一捆の綿製品に對し、彼は皆に一パイプ四分の一の葡萄酒のみならず、更に又一〇〇封度の藍を得る。若し彼がなほ内國で一パイプの葡萄酒を一捆の綿製品と交換し得るならば、——以前の如くに四分の一パイプの葡萄酒ではなく、彼はそれとその他に藍とを得るであらう。併し、彼れの葡萄酒の五分の四と共に、彼が藍の五分の四をも、一捆の綿製品に對して與へなければならぬ、と假定すれば、彼れの利潤は成程利潤の一般水準——第一の場合に利潤はその水準にあつたものと私は假定する——に下落したであらうが、併し、一捆の綿製品又はそれと等しい價值の財貨を有つてゐる

凡ゆる者は、前の商人が拋棄するものを利得しないであらうか、そして彼等は、彼が以前に有つてゐたと正確に同一の貯蓄力を有つのではないか。この問題は極めて明かであつて一瞬と雖も疑はれ得ないものと私には思はれる。こゝには雙方の場合に於いて英國と外國との貨物の同一分量がある、然らば何故に一方の場合に於いては他方の場合よりもより多く供給過剩がなればならぬのか? マルサス氏は決して、其の總ての關聯に於いてそれに追隨する目的の爲めに、特定の簡單な場合を述べることをしない、若し彼がさうするならば、吾々は外見では意見の相違がある様に見えるが、併し實際はかゝる意見の相違はあり得ないであらう。

リカアドウ氏は常に、外國貿易を、より低廉な貨物を獲得する手段として見てゐる。併しこれは單に其の得點の一半を——而もそれはより大なる一半ではないと私は思はざるを得ないが——眺めてゐるに過ぎないのである。少なくとも我國自身の通商に於いては、外國貿易のかうした役割は比較的輕微である。我國の輸入品の大部分は、外國で生産されても國內で生産されてもその比較的低廉なることには何等の問題もあり得ぬ如き物品から成つてゐる。若し吾々が外國から、吾々の絹や棉花や藍を、吾々の茶や砂糖や珈琲や煙草を、吾々のポルト酒やシェリイ酒や赤葡萄酒や三鞭酒を、吾々の扁桃や乾葡萄やオレンジやレモンを、吾々の各種の香料や吾々の各種の藥品を、並びに外國の氣候に特有なその他の多くの物品を、輸入することが出来ないならば、吾々がそれ等を全然手に入れ得ないことは全く確實である。吾々がそれを國內で生産しようと企てた場合にそれが要費すべき勞働及び(其他の前拂)「資本」の分量と比較してそれが低廉なことで、

その輸入より得られる得點を測定することは、全く前後顛倒であらう。實際はそれを國內で生産しようといふ企ては少しも考へられたことはないであらう。若し吾々が何とかして立派な赤葡萄酒を一壘十磅で造り得たとしても殆んど又は全くそれを飲むものはなかつたであらう。そしてこれ等の外國貨物の獲得に使用せられた勞働及び（其の他の前拂）「資本」の現實量は、吾々がそれを輸入しなかつた場合よりも、現在比較にならぬ程より大であるのである。

従つて吾々は明かに、かゝる貿易より吾々の得る得點を、極めて異つた原理によつて、測定しなければならぬ。これは對外的であらうと又は國內のものであらうと凡ゆる交換行爲の基礎として屢々述べられてゐる簡単な且つ明瞭な原理であり、すなはち欲求されることより、少なきものを欲求されることより、多きものと交換することより生ずる價值の増大である。吾々が、内國貨物の吾々の輸出によつて、それと引換へに、上述せる總ての外國物品を獲得せる後に、吾々が吾々の貨物の分量を増大したか減少したかを云ふには極めて當惑するであらうが、併し吾々は、新たに生じた生産物の分配が、輸出せられたるものよりも遙かによく吾々の欲求と嗜好とに適する貨物を吾々に與へることによつて、決定的に、吾々の所有物の、吾々の享樂手段の、そして吾々の富の、交換價值を、増大したことを、確信するであらう。

従つてR氏外國通商が交換價值に及ぼす影響について、リカードウ氏とは極めて異なる見解を採る私は、市場の擴張を以て、其の一般的傾向に於いて、分配より生ずる價值及び富の増大にとり壓倒的に好都合なるものと、云はなければならぬのである。

R註 マルサス氏自身が私の意見に關し云つてゐることからして、私が、彼と同様に、「市場の擴張を以て、其の一般的傾向に於いて、分配より生ずる富の増大にとり壓倒的に好都合なるものと、云はなければならぬ」のを、彼は知つてゐる筈である。併しこゝでの彼れの言葉は彼れの讀者を導いてこれと異つた想像をさせるであらう。私はそれはかゝる富の價值を増大せしめるであらうとは云ひ度くない、蓋し讀者の知る如くに私は價值をマルサス氏とは異なる媒介物で測定するからである。

第九節 全生産物の交換價值を増大する手段と考へられたる、（個人的奉仕及び）不生産的消費者

によつて惹起される分配に就いて

生産物の分配を便宜ならしめることによつて其の價值を維持し且つ増大する所の傾向ある第三の主たる原因は、（個人的奉仕への個人）「不生産的勞働者」の使用、又は適當な比例の（直接には物質物を生産しない）「不生産的」消費者の維持である。

急速なる資本の蓄積（R註、又は（換言すれば）「より適當に云へば」（個人的奉仕に従事する者）「不生産的勞働」の生産的勞働（者）への急速なる轉換の下に於いては、物質的生産物の供給と比較しての需要は、その時期に至らざるに衰頽し、そしてより以上の蓄積への誘因は、それが、

土地の消耗によつて妨げられる以前に妨げられるであらうことは、既に述べた所である。このことから、經驗によつて知られてゐるよりも遙かにより多く生産的階級が消費するものと假定しなければ、特に彼等がその資本に追加せんが爲めに収入から急速に貯蓄してゐる時には、大なる生産物を有する國が一國の（生産に従事してゐない）【不生産的】消費者を有すべきことが、【絶對的に】必要であるといふことになる。

R註 一國の不生産的労働者は、製造業者の倉庫で然らざればかゝる不生産的労働者が消費すべき財貨を消費する火事と丁度同じだけ、將來の生産の目的の爲めに必要であり且つ有用である。土壤の肥沃度と、労働の代用物として機械を用ひる人間の能力と、そして私有財産制度の下に於ける力作への誘因といふ形で、自然の大法則は、社會の一部分が閑暇（又は個人的奉仕）を得るの用意をしてゐる。そして若しこの便宜多き提供が適當數の個人によつて受容されないならば、かくして獲得され得べき積極的幸福が失はれるであらうのみならず、社會の殘部は、かゝる自制によつて利益を受ける所か、それによつて決定的に損害を蒙るであらう。

富の繼續的増大（R註に對する最大の奨勵を與へる【社會の】生産的（労働者）【階級】と（個人的奉仕に従事する者）【不生産的階級】との間の、比例如何は、經濟學の知識がこれを決定するに一致してゐないことは、前に述べたることである。それは多數の事情に、特に土壤の肥沃度と機械に於ける發明の發展とに、依存しなければならぬ。肥沃なる土壤と器用なる人民とは、常に大なる比例の（直接には物質的富を生産しない）【不生産的】消費者を支持して害を伴はぬことが

出来るのみならず、更に、【彼等の】生産力を有効に働かせる爲めにかゝる一國の需要者を絶對的に必要とする。然るに貧弱な土壤と僅かな器用さとしかない人民とでは、かゝる一國を支持せんとする企ては、土地の耕作を抛棄しそして確實に貧窮と破滅とに導くであらう。

R註 私は何の困難もなくそれを決定することが出来る。それは他の目的の爲めには有用であるかも知れぬが、富の生産の爲めには少しも有用でない。

（直接に生産的な消費者）【生産的階級】に對する如何なる比例の（直接には生産的でない者）【不生産的階級】が富の増大にとり最も好都合であるかを云ふことを不可能ならしめるもう一つの原因は、生産者自身の間に行はれる消費の程度の相違である。

恐らく、生産物の價値を維持するに足る消費が、生産に従事する者の間に行はれてゐるならば、不生産的消費者はあり得ない、と云はれるであらう。

生産に従事してゐるR註資本家に就いて云へば、彼等は確かに、彼等の利潤、又は彼等の資本の使用より得られる収入、を消費する能力を有つてゐる。そして若し彼等が、生産の増大と消費の増大とに最もよく備へるが如くに、彼等の資本に有利に追加され得べきものを除いて、それを消費するとするならば、不生産的消費者は殆んど有り得ないであらう。併しかゝる消費は一般の資本家の現實の習慣と相容れぬものである。彼等の生活の大目的は財産を貯蓄することである、それは蓋し彼等の家族に衣食の資を供するのが彼等の義務であるからでもあり、又彼等は恐らく事務所に一日七時間乃至八時間勤務せざるを得ずして所得を自らそれ程楽しんで支出することを

得ないからでもある。

R註 或る人が私の生産物を消費したとて、私に何の代償をも與へないならば、それはどうして私をして財産を作り得せしめ得るのか？ 私は、私の生産物の消費者が私に等しい價值を代償として與へる場合の方が、私の財産が作られる機會はより多いであらう、と考へ度い。

人類の欲求は常に彼等の能力に比例するものと考へ得ようといふことは、或る論者の間では、一種の公理として述べられてゐる。併しかゝる主張は、財産が苦勞なしに得られる場合ですら、常に必ずしも眞實ではない。そして多數の資本家に關しては、それは完全に經驗によつて否定せられる。殆んど總ての商人及び製造業者は、繁榮期には生産物の價值を維持する様に、國民資本が増大し得るよりも、遙かにより速かに、貯蓄する。併し若しこのことが全體として見ての彼等にとり眞實であるならば、彼等の現實の習慣を以てしては、彼等がその色々の生産物を交換することによつて相互に適當な市場を供し得ないことは、全く明かである。

R註 私はこれは絶対に眞實であると信するが、併しそれが誤謬であると假定しても、私に何物をも代償として與へない他の人が私の財貨を消費するのが私に何の利益になり得ようか？ かかる消費は如何にして私をして利潤を實現し得せしめるのか？ 私は本節で述べられてゐる各種の命題を見て感じた驚きを、私が感じただけ強く言葉では現はすことは出来ない。資本家を以て彼等の貯蓄の習慣を繼續し得せしめる爲めには、——とマルサス氏は云ふ、——『彼等はいくら多く消費するかより少く生産するかしなければならぬ。』(『マルサス』の註)

従つて(生産する以上の物質的富を消費する意思と能力との兩者を有つ者)『他の消費者』の大きな一階級がなければならぬ、然らざれば商業階級は引續き(それが消費するよりもかくもより多くを有利に生産)『その事業を擴大するを得ず、又その利潤を實現』するを得ないであらう。この階級に於いては地主が疑ひもなく先頭に立つ。併し若し(彼等が、個人的奉仕に従事する多數の個人——これを彼等は維持するのであるが——によつて、援助されない)『資本家の間に於ける生産力が大である』ならば、(彼等自身の)『資本家自身及び彼等の労働者の消費に加へての地主の消費は、(それ自身では)『全』生産物の『交換』價值を維持し且つ増大(し、そして其の)『す』るには、換言すれば『分量の増大をして(其の)價格の下落に打勝つて餘り有(り得せ)』【ら】しめるには、尙ほ足りないであらう。(その場合には)『そして若しこのことが事實であるならば』資本家(も亦有效に)【は】『同一の貯蓄の習慣を繼續し得ない(であらう)。(彼等が生産せるものの價值の不足は必然的に彼等をして)』【彼等は】より多く消費するかより少く生産するか(せしめるであらう)【しなければならぬ】。そして地方的地位の改善や地位の上進といふ隨伴物を伴はぬ單なる現在の支出の快樂が、一日の最大部分の間仕事に従事するの繼續的労働と對比せられる時には、恐らくは彼等の多數は後者の方を選び、そしてより少く生産するに至るであらう。併し若し、需要及び供給を平衡せしめんが爲めに、(有效)消費の増大よりは寧ろ生産の永續的減少が起るならば、【消費以上に出づる生産物の超過ではなく】生産され消費されるものから成る所の國民的富の全體は、決定的に減少せられるであらう。

リカード氏は^(註一)屢々貯蓄は手段ではなくて目的であるかの様に云つてゐる。併しこの問題に關するかゝる見解が眞理に最も近い個人の場合ですら、貯蓄の最終目的が支出と享樂とであることを認めなければならぬ。併し國民的富に關しては、直接的にも永續的にも、それは決して手段としてより以外には考へられ得ない。「貨物の低廉とその結果たる支出の節約によつて、消費の減少を伴はざる利潤の大なる騰貴によると同一の、消費以上に出づる生産物の剩餘が、獲得され得ようことは、眞實であらう。そして貯蓄が目的であるならば、この目的は達せられるであらう。併し貯蓄は増加し行く國民的欲求に對し増加し行く供給を爲さんが爲め的手段である。」併し乍ら^(註二)若し貨物が既に極めて豊富である爲めにその適當な部分が消費されないならば、(資本を貯蓄することは、單に)「その職能が」更により以上貨物の量を増大し又更により以上既に低い利潤を低くめるに(過ぎ得ず、これは)「ある所の、かくして貯蓄された資本は、」比較的に殆んど役に立ち得ない。「他方に於いて、若し利潤が高いならば、それは、貨物がそれに對する需要に比較して稀少であり、社會の欲求が供給を求めて喧しく、そして高き利潤によつて創造された新らしき収入の大部分を貯蓄してそれを資本に追加することによる生産手段の増大が、特別に且つ永續的に便宜であることの、確實なる徴候である。」

R 註一 何處で？ 私は唯の一回もさう云つた記憶はない。

R 註二 不生産的消費は如何にして利潤を増大し得るか？ 不生産的消費者によつて消費せられる貨物は彼等に與へられるのであり、等價を得て賣られるのではない。それは價格を有たない

——それは如何にして利潤を増大し得るか？

マルサス氏は需要を以て消費するの意思及び能力であると定義した。不生産的消費者は如何なる能力を有つのか？ 毛織布業者の工場から一〇〇反の毛織布を得て、それを陸海軍兵士に着せることが、彼れの利潤を増加するであらうか？ それは生産する様に彼を刺戟するであらうか？——然り、火事と同じ仕方である。

従つて生産の増大の手段と考へられたる國民的貯蓄は、個人的貯蓄よりも遙かにより狭き限界内に限られる。或る個人が支出し續けるのに、他の個人は極めて大なる程度に貯蓄し續けるであらう。併し全部の生産者及び消費者に關しての國民的貯蓄(又は消費以上に出づる生産物の差額)は、必然的に、生産物に對する需要を供給するに使用せられて有利なり得べき額によつて制限されなければならぬ。そしてこの需要を創造する爲めには、生産者自身か他の消費者階級かの間に、適當な(且つ有效な)消費がなければならぬのである。

アダム・スミスは曰く、「食物の欲望は、凡ゆる人に於いて、人類の胃の狭き能力によつて制限されてゐる。併し建物、衣服、什器、及び家具といふ便宜品及び裝飾品の欲望は、何等の限界又は確實な境界を有たない様に思はれる。」それが確實な境界を有たぬことは疑ひもなく眞實である。それが何等の制限を有たぬといふことは、吾々が、それと對抗する懶惰といふ奢侈、又は彼等の境遇を改善し且つ一家に衣食の資を供せんとする人類の一般的願望によつて、——これはアダム・スミス自身が述べてゐるが如くに全體として支出を促す原理よりもより強いものである。^(註三)

——それが實際上制限されてゐる有様を考へる時には、強過ぎる表現であることを認めなければならぬ。併し確かに^(註二)、食物獲得の困難を除いては貯蓄と資本の使用とは何等の限界もないと云ふのは、それが合理的に理解され得る如何なる意味に於いてもこの記述の明白なる誤用である。それは一學説を人類の消費せんとする欲望の無限なることに基かせ、次いでこの欲望は資本を貯蓄せんが爲めに制限せられると假定し、かくて完全に前提を變更し、而も尙ほこの學説は眞實であると主張するものである。生産者に^(註三)よつてであらうとその他の者によつてであらうと、全生産物の交換價值を「最も有効に」維持し且つ増大するに十分な消費を常に生ぜしめよ。然らば私は即刻、單にかゝる比率に於いて増大するにすぎない國民資本の使用に對しては、人口を維持する能力を制限するもの以外の制限はないことを認めるのである。併し、【節儉的習慣によつて餘りにも急速に増大された】資本の使用は生活資料の獲得に何等かの眞實の困難が生ずる遙か以前に、限界を見出すであらうし、又事實上屢々限界を見出してゐるのである、そして資本も人口も、同時に且つ長期に互つて、生産物に對する有効需要に比較して過剰であらうことは、理論上全く明かなことであり、そして普く經驗によつて確證されてゐる様に、私には思はれるのである。

註 Wealth of Nations, vol. II, p. II, ch. II, p. 19, 6th edit.

R註一 この限界は正確には食物獲得の困難ではなく、食物獲得の困難を含んでの労働獲得の困難である——蓋し食物獲得の能力が終りを告げる時には、労働の供給は久しくは増大され得ない。

いであらうから。

R註二 これは私が主張する總てである。併し必需品の供給を増大し得るのに資本と人口とが如何にして共に過剰になるかは、私はこれを理解するに當惑する。それは用語矛盾であり、それは、資本の所有者は労働者を見出し得ないから使用せられざる資本があるのであり、又人々を雇ふべき資本を有つてゐる者がゐないから雇ふせられざる人々があるのである、と云ふことである。

吾々はこれと丁度同様に、購買者が誰もゐないのでパンは賣れ得ず、又同時に、飢ゑつゝあり、且つパンを購買する手段と意思とを有つ者があるが併し買ふべきパンが何もない、と云ふことも出来るであらう——雙方の命題は眞實ではあり得ない。

人類の欲求一般に就いては、更に、現實に所有してゐるものを支出せんとする志向のみを考慮することが、この問題に關する部分的な且つ狹隘な見解である、と云はれ得よう。若し人が一年一萬磅の所得を所有してゐても、彼はその上の一萬磅の提供を拒まないであらう、と決定するのは、又は一般的に、人類は決して力と享樂とを増大する手段を拒絶しようとはしないものである、と述べることは、單にこの問題の極めて一小部分を成すに過ぎない。人類の欲求に^(註四)關する問題の主たる部分は、支出の手段を獲得するに必要な力作を働かす彼等の能力に關するものである。富が欲求を生産することは疑ひもなく眞實である。併し欲求が富を生産することは更により重要な眞理である。各々の原因は互に作用し反作用するが、併し、先行及び重要性の順位は勤勞へと

刺戟する欲求が先である。そしてこの後者に關して云へば、それは人間の物理的能力を常にいつでも助力せんとしてあるものではなくして、それはその展開の爲めには『利益への一切の手段方策』を必要とするやうに思はれる。未開の人口少き國を開けた人口稠密な國に變へる總ての困難の中の最大のものは、富の生産に於ける彼等の力作を刺戟するに最も適する欲求を以て、それを鼓舞することである。外國通商が與へる最大の利益の一つ、及びそれが何故に常に富の増進に於ける殆んど必要な要素と思はれてゐるかの理由は、新らしい欲求を鼓舞し、新らしい嗜好を形成し、そして勤勞に新らしい誘因を與へるといふ、其の傾向である。開け且つ進歩せる國ですらこれ等の誘因の何れかを失ふといふ譯には行かない。一日八時間を事務所で費すことは最も楽しい仕事ではない。又實業家の精神に適當な誘因が提示されない限り、普通の生活の必需品及び便宜品が得られた後には、それを忍んで爲すことはないであらう。これ等の誘因の中には、疑ひもなく、彼れの地位を上進させ、そして閑暇並びに内外の奢侈品を享樂すること地主と競はうといふ欲望があるのである。

R註 これに眞實である。私は次の點でマルサスに同意する、『困難は、支出の手段を獲得するに必要な力作を働かす能力に關するものである。』併しこれは、人は彼が消費する資格を有し得る前に生産しなければならず、従つて困難は生産する様に彼を誘ふにある、と云ふことでなくて何であるか——彼が生産した後には消費するやうに彼を誘ふには何の困難もないであらう。

併し一家に對する永久的な衣食の資として財産を造らうといふ欲望は、恐らく、その所得が彼

等自身の肉體的熟練及び努力に依存する者の繼續的力作に對する、最も一般的な誘因であらう。公けの義務としての節儉又は貯蓄の長所が何と云はれ得ようとも、それが、無數の場合に於いて、最も神聖な且つ守るべき私的の義務であることには疑ひはあり得ない。そして不屈の勤勞に對するこの適正な且つ尊き誘因が少しでも弱められるならば、國の富及び繁榮が極めて著しく打撃を受けることといふことは不可能である。併し若しR註、他の(有效)消費者がない爲めに、資本家が、國民資本に追加して有利ではあり得ぬ總てのものを消費するを餘儀なくされるならば、(かかる事情の下に於いて)彼等にその日々の仕事を爲さしめる誘因は本質的に弱められ、そして同一の生産力は働かされないことであらう。

R註 こゝではマルサス氏の心配は消費を確保することには關せず、彼は單に、消費がなければ將來の生産に對する十分な誘因がないであらう、といふことのみを恐れてゐる。然らば非消費からは直接には何の災害も起り得ず、單に疎遠に力作の誘因を弱めるだけのことである。

然らば、社會の常態に於いては、親方生産者や資本家は、必要範圍にまで(收入の形で)消費する能力は有つであらうが、その意思は有たないことが、分つたのである。そして彼等の勞働者に就いては、彼等がその意思を有つてゐるとしてもその能力は有たないことを、認めなければならぬ。實に、人類に影響を及ぼす普通の誘因によれば、勞働者の側の消費力は、そのみでは、決して、資本の使用に對する獎勵を與へ得るものではないことを、述べるのは、最も重要なことである。【前述の如くに】(R註)何人も彼れの爲めに働く者達によつて惹起される需要だけの爲めに、

決して資本を使用しはしないであらう。彼が自分自身現物で欲求するか又は彼が現在又は將來の使用の爲めに欲望する何物かと有利に交換し得る所の、彼等が消費するもの以上に出づる價値の超過を、彼等が生産しない限り、彼れの資本が彼等の維持に使用せられないことは、全く明かである。實にこのより以上の價値が創造されそして(資本)【資本】の貯蓄及び使用に對し十分な刺戟を與へる時には、確かに、勞働者の所有する消費力は、大いに全國民需要を増加しそして遙かにより大なる資本の使用の爲めに餘地を造るであらう。

R註 何故に使用しないのか？ 私は二五人の爲めの食物及び必需品を得る爲めに二〇人の勞働者を使用し、次に三〇人の爲めの食物及び必需品を得る爲にこの二五人を使用し——より大なる人數の爲めのそれを得る爲めに再びこの三〇人を使用することも出来よう。私は資本を『私の爲めに働く者達によつて惹起される需要だけの爲めに』使用したとはいへ、私は富裕にならなうであらうか？

勞働階級が(R註)よき支拂を受けることは、富と關聯し得る如何なる理由よりも遙かにより重要な理由によつて、すなはち社會の大衆の幸福の爲めに、最も望ましいことである。併し、【若し生産的階級が彼等の生産するものの相應の比例を消費しさへするならば、生産的消費者は富の増大に對する刺戟として必要であり得ない、と云はうとする者に對しては、私は、】勞働階級の間に出づる消費の大なる増大は、生産費を大いに増大しなければならぬ故に、それは、農業、製造業、及び商業が何等かの大なる程度の繁榮に到達する以前に、利潤を引下げ、そして蓄積の誘因を減

少又は破壊しなければならぬ【と云ふであらう】。若し各勞働者が(R註)現實に、彼が現在消費する二倍の分量の穀物を消費するとするならば、かゝる需要は、富に刺戟を與へることなく、(疑ひもなく)【恐らく】多量の土地の耕作を抛棄せしめそして内外通商を大いに減退せしめるであらう。

R註一 『勞働階級の間に出づる消費の大なる増大は、生産費を大いに増大しなければならぬ、それは、農業、製造業、及び商業が何等かの大なる程度の繁榮に到達する以前に、利潤を引下げ、そして蓄積の誘因を減少又は破壊しなければならぬ、』といふ記述以上に正しいものはあり得ない。併し生産的階級の消費はこのことを救済するであらうか。勞働以上に出づる生産的階級の消費は何であるか。生産的消費を除いて——適當な代償なき消費を除いて、彼等の勞働に對する合理的な報酬は何であるか？

R註二 若しそれがこの結果を有するならば、それは、この消費の一半は生産的消費であらうから、といふ以外の何等かの理由によるのであらうか？ 而もこれが、マルサス氏が富の増進にかくも缺くべからざるものと考へてゐる消費なのである。

【併し乍らR註確かにかゝる原因による富の減少の危険は殆んどない。人口の原理の爲めに、總ての傾向はその反對である。そして、勞働階級が富の適當な増大を許すには餘りに消費し過ぎるであらう、といふことを恐れるよりは、彼等は彼等自身の幸福の爲めに餘りに少く消費し過ぎるであらう、といふことを恐れる、遙かにより多き理由があるのである。私は唯、勞働生産者間に於ける

極めて大なる消費といふが如きかくも重要な場合を假定して、かゝる消費は一國の富を其の最大の範圍にまで押し進めるといふ程度のものではないことを、證示せんが爲めに、この事情に言及したに過ぎない。】

R註 勞働者が餘りに少ししか得ずそして餘りに多くは得ないであらうといふことは、實際、危惧すべき、そして若し出来るならば豫防の處置を講ずべき、大きな危険である。

【人口の増大を左右する法則によつて、勞働の穀物勞賃が引續き永續的に極めて高くあるといふことは少しもありさうもないことであるが、而も若し勞働階級が一日に前と同じだけの時間を働かず、そして各々の職業により多数の者を使用する事が必要であつても、同一の消費が行はれるであらうと恐らく云はれ得よう。我國の勞働階級の多くは、彼等の健康や、幸福や、智的進歩の爲めには餘りに働き過ぎてゐると、私は常に考へ且つ感じてゐる。そして彼等の苛酷な勞苦がもつと緩和され、無邪氣な娛樂や有用な訓育にたづさはる見込が可成りにある様になれば、私はそれは、國民的富及び人口の一部分の犠牲によつて、極めて低廉に購買せられたものと、考へたい。併し私は、この目的が成就される蓋然性を、又は可能性すらも、見ないのである。その所有する主たる財産すなはちその勞働を愼慮的に支配する年に達してゐる人に一般に干渉するのは、大いに不當な行爲であらう。そして社會の事業がそれによつて行はれてゐる最も一般的な諸原理の一つすなはち競争の原理に正反對に逆つて立法せんとの企ては、不可避的且つ必然的に失敗しなければならぬ。勞働階級自身によつてでなくしては、何事もかくの如くは爲され得ないことは、全く明かである。そし

てこの方面に於いてすら、彼等が仕事の上で相互に競争に陥るといふよりも、彼等の勞賃を永續的に高く保つて置く如き程度の愼慮が彼等の間に廣く行はれるに至るものと、期待する方が、遙かにより合理的であらう。結婚以前に愼慮的でありそして家族の爲に何物かを貯蓄する者は、他人が彼れの例に従はなくとも、彼れの行爲の恩恵を刈取るであらう。併し全勞働階級の側で一日の勞働時間を減少する決心を同時にしないならば、彼れの力作を制限せんが爲めに敢てかくせんとした個人は、必然的に、比較的缺乏と窮乏とに身を墮すであらう。若しこゝでの假定が、殆んど行はれさうもない所の同時的決心によつてではなく、より進歩せざる社會状態に於いてはかくも屢々廣く行はれてゐる所の懶惰と無智とによつて實現されるならば、かくの如き閑暇が殆んど價値のないものであり、そしてかゝる習慣は適時に先だつて利潤の率と人口の増進とを妨げるけれどもそれはこの損失を補償する何物をも齎らさないであらうことは、人のよく知る所である。

【従つて、勞働生産者の間での消費の増大を齎らすべき教育の發達と一般的進歩とより社會の勞働階級の間で起るものと期待せられる愼慮の程度の増大といふ、唯一の例外を除けば、總ての他の傾向は正反對の方向にあり、そして一般的に、總てのかゝる消費の増大は、他の理由によつて望ましくない場合と否とを問はず、私有財産制度の下に於ては、一國の富と人口とが、生産費が然かく増大しない場合に豫想される如くに増進することを、妨げるといふ特別の結果を常に有たなければならぬことは明らかである。】

地主は必ずや生産者の間に於ける需要と消費との不足を充たし、そして生産者の間には資本の

過剰に接近する機會は殆んどない、と恐らく考へられるであらう。土地財産の最も好都合な分配の結果が如何なるものであらうかは、經驗によつて云ふことは容易ではない。併し經驗は確實に、ヨオロッパの大抵の諸國で現實に行はれてゐる土地の分割の下に於いては、生産者の需要に加へての地主の需要は、常に必ずしも、資本の使用に於ける何等かの困難を妨げるには足りないことを、吾々に告げてゐる。前世紀の中頃我國に起つた所の、前章で觸れた事例に於いては、資本の用途を見出す大なる困難があつたに相違なく、然らざれば國債所有者は、四パーセントから三パーセント半又後には三パーセントへ利子を引下げられるよりは、皆済されることを望んだであらう。そして利子及び利潤の率のこの下落が、土地に於ける生産の困難よりは寧ろ、資本の過剰及び生産物に對する需要の缺乏から起つたものであることは、當時の穀物の價格の低いことと、爾來起つて來てゐる利子及び利潤の状態の著しき變化によつて、十分に證明されるのである。

同様な事例は一六八五年にイタリイで起つたが、その時に法王が彼れの負債の利子を四パーセントから三パーセントに低減した時に、元本の價値は後に一一二に騰貴した。而も法王の領土は、労働者の食物を生産する困難より利子及び利潤のかくも低き率を産出すが如くに耕作されてゐたことは一度もない。財産のより好都合なる分配の下に於いては、多年に互つて貨幣の利子が三パーセント以下に下落することを妨げる如き、農、工、商の生産物に對する需要が創造されたであらうことは、疑ひがあり得ない。これ等の何れの場合に於いても、地主の需要が生産的階級のそれに加へられてゐたのである。

併し若し親方生産者が、彼等の境遇を改善し且つ家族に衣食を給しようといふ賞讃すべき願望によつて、富の増大に對し適當な刺戟を與へるに足る程に（彼等の収入を）消費しないならば、若し労働生産者が、彼等の消費を増大することによつて——彼等がかくする手段を有つものと假定して——生産物に對する需要を増大して富の増加を奨励し得るよりも、生産力を減少して其の増加を阻害するならば、又若し、前の二つの階級の支出に加へて地主の支出が生産されたものの價値を維持し且つ増大するに足りないことが、見出されるならば、アダム・スミスの不生産的労働者の間を除いては吾々は必要な消費を何處に求むべきであらうか？

凡ゆる社會は一團の（各種の個人的奉仕に従事する者）「不生産的労働者」を有たなければならぬ。蓋し凡ゆる社會は、必要な召使の外に、それを統治する政治家、それを防衛する兵士、裁判を行ひ且つ個人の權利を保護する裁判官及び辯護士、疾病を治療し傷を治癒する内科及び外科の醫師、及び無智なる者を訓育し宗教の慰安を行ふ一團の僧侶を有たなければならぬからである。生産に直接に従事してゐる者に加へて、或る部分の總てのこれ等の社會階級がない文明社會が存在したことは、嘗て知られてゐない。従つて或程度迄は彼等は絶對に必要な様に見える。如何に彼等が必要であり且つ望ましいとはいへ、彼等は一國の物質生産物と擴大せる人口を支持する其の能力とからそれだけを引去るものと考へられなければならぬか否か、又は彼等は生産に新らしき誘因を與へ、そして一國の富をそれなければ進むべきよりも、以上押し進める傾向を有つか否かは、恐らく、吾々が觀察し得る最も重要な實際的問題の一つである。

この問題の解決は明かに、第一に、一國の資本は過剰なり得るか否か、換言すれば、蓄積の誘因は、労働者の生活資料を獲得する困難によつてそれが妨げられる遙か以前に、有效需要の缺乏によつて妨げられ又は破壊されるか否か、といふ主たる實際的問題の解決に依存する。そして第二にそれは、かゝる過剰の可能性を認めるとして、人類の現實の習慣の下に於いて、それは蓋然的な出来事であると信ずるに足る理由があるか否か、といふ問題の解決に依存する。

利潤に關する章に於いて、又より立入つては、富の増大に對する刺激としての蓄積の結果を考察した本章の第三節に於いて、これ等の問題の第一は満足に答へられてゐると私は信ずる。そして本節に於いては、最も進歩せる社會に於ける生産的階級の現實の習慣と實踐とは、彼等を導いて、假令地主に援助せられても、彼等がその資本の使用に於いて出會ふ頻々たる困難を妨げる程に彼等の生産する物の大きな部分を（収入として）消費するに至らしめるものではないことを、¹ 證示した。従つて吾々は、殆んど誤謬の危険なしに、私が述べた如き一國の人々は、常に一國の統治、保護、健全、及び訓育にとり必要であるのみならず、更にそれは其國の物理的資源を十分に發揮せしめるに必要な力作を働かせるに必要でもある、と結論し得よう。

（物質物の生産又は分配に従事してゐない者）²「不生産的階級を構成する者や、彼等が支持される仕方」に關しては、「恐らく」個人によつて自發的に支拂はれるものは、³ 勤勞を刺激するに有用なる傾向が最も多く、そして生産費の障りになることにより有害なる傾向が最も少い（⁴ ことは明らかである）⁵「ものと、總ての者によつて認められるであらう」。人は彼が召使に支拂を爲し得ない限

りそれを雇入れず、そして彼は、リボンやレイスを買入れる見込によつてと同様にこの召使を儲入れるといふ見込によつて勤勞へと刺激される傾向のあるものと、⁶ 推測され得よう。⁷（譯者註—第一パラグラフは切れてゐない。）

（社會の上流及び中流階級の資源を物質物に對する需要に於いて有效ならしめる爲めに、⁸ 僕婢が絶對的に必要であることを、述べるのも亦、極めて重要である。一年五百磅以上の所得を有つ者は、何人も、若し彼等が自分の室を掃除し自分の什器や衣服にブラシをかけたり洗濯したりし自分の馬車や馬の掃除をせざるを得ずして自分の外には飲食物を需要する者を有たないとしたならば、彼等が現在有つてゐる如き家屋や什器や衣服や馬車や馬や及び其の家屋に於ける飲食物やを、有たうとは思はないであらう。そして更に、僕婢であらうと智的なものであらうと自發的に支拂はれる總ての個人的奉仕は、生産に必要な労働とは本質的に異なることを、述べなければならぬ。彼等は収入から支拂はれ資本からは支拂はれない。彼等は原費を増大し利潤を低める傾向を有たない。反對に、彼等は、生産費を或る特定の貨物を獲得するに必要な労働の分量に關する限りに於いて以前と同一にして置き乍ら、物質物の供給に比較しての其の需要をより繁忙ならしめることによつて、利潤を増大せしめるのである。）

併し（譯者註—第一版はこゝでパラグラフ）（⁹ 比例の學説が如何に屢々凡ゆる方面で吾々に出會ふものであるか、又）諸國民の富が（個人的奉仕に比較しての生産的労働）¹⁰「生産的及び不生産的労働」の利益「¹¹ 般」に關する何等かの積極的通則に依存するよりも寧ろ、この各部分の比例に如何に多く

依存するものであるかを、證示する爲めには、讀者をして、(社會の純收入につれて變動する)【一定】數の人間を召使の仕事に使用することは凡ゆる點に於いて望ましいけれども、物質的生産物を措いて召使の奉仕(や給與の悪い従者)を選ぶことが大であるといふこと以上富の増進にとり不都合な嗜好は殆んどあり得ないといふことを、想起せしめるのは徒勞ではないであらう(二版註)。併し乍ら吾々は、(安全に)【總じて】この點に於ける個人の志向に信賴してよからう。そして課税によつて支持されなければならぬ階級に關しては多くの困難があらうが、自發的に支持せられる階級に關しては殆んど困難がないことが、一般に認められるであらう。

一版註 第一章三五頁(譯者註)——第一版の第一章第二節の第十一パラグラフ)

政治家、陸海軍兵士、及び國債の利子で生活する者の如き、課税によつて支持せられなければならぬ階級に就いて云へば、彼等が分配及び需要に有力に寄與することは否定し得ない。彼等は屢々、然らざれば行はれたよりも富の増進により好都合な財産の分割を惹起すであらう。彼等は生産に適當な刺戟を與へるに必要な(有效)消費を保證する。そして租税を支拂ひ而も同一の満足手段を享受せんとする願望は、屢々、辯護士や醫師に支拂を爲す願望と全く同様に有効に、勤勞の努力を刺戟するといふ作用を演じなければならない。併しその限りでは疑問の餘地なきかゝる得點を相殺する爲めに、無愼慮な課税が富の増大を、早からうと遅からうと其の増進の殆んど凡ゆる時期に、停止せしめるであらうこと(註)、及び最も無愼慮な課税は終には内國取引及び外國貿易の總ての通路を塞く程過重になり、そして殆んど蓄積の可能性を妨げるであらうことは、認

めなければならぬ。

註 豊かな土地の一定部分の耕作者をして、二人の人間と二頭の馬とを國家の爲めに維持するを餘儀なからしめるの結果は、或る場合には、さうでなければ彼がなしたであらうよりも、唯彼を誘つてより多く耕作し且つより多くの富を創造せしめるであらうが、併しそれは彼を個人的には以前と同一の富の程度に置き、そして國民をより富ましめるであらう。併し等量の貧弱な土地の耕作者が同じことを爲すの餘儀なきに至らされるならば、この財産は直ちに耕作に値しないものとせられ、そしてその抛棄が自然的結果であらう。總生産物に對する無分別な且つ重い租税は、よりよい組織の下に於いては大きな富を生産する能力ある國中に、直ちに荒廢の手を擡げるであらう。

従つて(註)、課税によつて支持される不生産的(消費者)【勞働者】の階級の國民的富に及ぼす結果は、異なる國に於いて各種各様でなければならず、そして全然、生産力及び租税の各國に於ける徴收方法に、依存しなければならぬ。大なる(有效)消費なくしては、大なる生産力は働かせられる傾向もなく、又一度働かされた時にはその活動を續けしめられる傾向もない故に、國民的富が租税によつて支持されてゐる者の消費によつて(決定的に)【大いに】刺戟されてゐる事例が實際に起つてゐるといふことを私は殆んど疑はない。併し課税は凡ゆる方法で濫用さるべき傾向ある刺戟であり、そして私有財産を神聖なるものと考へることは社會の一般的利益の爲めに絶對的に必要であり、従つて(何人も)【人は】一般的福祉の爲めに富の異なる分配を爲す手段を政府に頼(らう)と考へないであらう【るのは極度に注意深くなければならぬ】。併し、必然的にか又は誤謬の爲めに、異なる分配が行はれ、そして害悪が、私有財産に關する限りに於いて、現實に爲

された時には、大きな一時的犠牲を拂つて、以前の分配に（突然）戻らう——若しそれが行はれたならば、それは實際有利であらうか否か、換言すれば其の生産力に關して國の現實の事情に於いて、課税の減少によつて利得されるよりも、多くが（有效需要）「消費」の缺乏によつて失はれないであらうか否か、を極めて十分に考慮することなくして、——と企てることは、（賢明ではない）「確かに最も不賢明」であらう。

R註 課税に賛するこの議論は、不生産的消費より生ずる利益に關するマルサス氏の意見と、全く一致する。

マルサス氏は大蔵大臣の極めて有力な味方である。

若し労働【¹の價格】が十分に（豊富である）【¹低い】として、（如何なる額の）資本の（²有利な）用途を見出すに（も）如何なる種類の困難もあり得ないならば、國民的富への道は、それは常に必ずしも容易ではないであらうが、全く眞直であり、そして吾々の唯一の目的は、収入から貯蓄し、そして不生産的消費者を壓迫することで行なはなければならない。併し、若し最大の生産力が（²有效な）【¹適當な】消費【²版註がない爲めに比較的に無用にせしめられ、そして生産物の適當な分配がそれを生産する手段と同様に富の繼續的増大に對し必要であることがわかつたならば、この種の場合に於いては問題は比例に依存するといふことになる。そして、總ての事情の下に於いて、國債の（突然の）減少と課税の廢除とは必然的に國民的富を増大し且つ労働階級の爲めの雇傭口を與へる傾向がなければならぬ、と斷定するのは、極度に輕率なことであらう。

二版註 有效消費とは、土地の状態によつて必要とされない利潤の下落を生ぜず生産物の供給の繼續も有效ならしめる（譯者註——供給を繼續せしめるの意）如き生産物の價格を、支拂ふの能力と意思とを有つ者による、消費のことである。

【¹若し吾々が、富み且つ人口多き國に於ける生産力が、それが生産せる全部が、以前に用ひられた労働の三分の一によつて、獲得せられ得る程に、増大せられた、と假定するとすれば、主たる困難はかゝる大なる生産力を働かせる如き生産物の分配を惹起すことであるといふことに、合理的な疑ひがあり得るか？ かゝる生産力の賜物を害悪と考へることは實際極めて奇妙なことであらう。併し、若しその結果が、總生産物と人口とを犠牲とせる純生産物の増大であるならば、それは害悪であり、而も實際上大きな且つ悲しむべき害悪であらう。併し若し、他方に於いて、豊富な生産物のより好都合な分配が行はれるとするならば、若し労働階級の間の比較的知識の多い者が仕事の監督者や各種の事務員や小賣商人の地位に登り、他方以前にかゝる地位にあつた多くの者は相應の教育を受けてゐる多數の其他の者と共に一般的生産物からの所得を得ることが出来、且つ彼等の抵當權によつて殆んど安閑に生活し得るならば、この事態は何と進歩せる社會構造を爲すことであらう、同時に純生産物の價值と人口とは急速に増大してゐることであらう！ 前述の如くに、競争の原因の下に於いては（これは決して除去せられ得ないことであるが）、筋肉労働に現實に従事してゐる者に遙かにより多くの餘暇を保證することは、不可能であらう。併しその時に勤勞的な且つ知識的な力作によつて獲得せられ得る賞與の數の極めて大なる増大は、彼等の境遇を極めて本質的に改善するであらう。そして全體として社會は愉快及び幸福を大いに獲得してゐることとなるであらう。か

かる生産物の分配が容易に行はれ得ると云はうといふのではない。唯單に、かゝる分配があれば、假定された生産力は社會に莫大なる利益を齎らすべく、そしてかゝる分配又はそれに等しき消費を保證する如き嗜好の變化がなければ、假定された生産力は抛棄されたよりもより悪いであらう、と云はうといふのである。

【扱て問題は、我國は、それが疑ひもなく所有してゐる大なる生産力を有する現實の状態に於いて、こゝに想像した場合と稍々少し類似してゐないか、そして、國債の利子によつて生活する者の如き一團の生産的労働者なくして、同一の刺戟が生産に與へられ、又同一の生産力が働かされたであらうか、といふことである。我國に今行はれてゐる現實の土地財産の分割の下に於いては、國債所有者が受取り且つ支出する所得が、それが地主に回收されるよりも、多量の製造生産物に對する需要にとりより好都合であり、そして全社會の幸福と智能とを増大する傾向が遙かにより多いことに、私は何等の疑ひをも有たぬのである。】

併し乍ら、私は決して大なる國債の害悪を感じない譯ではない。多くの點に於いて、それは有用な分配の用具であらうけれども、それは極めて厄介な且つ極めて危険な用具であると認められなければならない。第一に、かゝる債務の利子を支拂ふに必要な収入は、課税によつてのみ徴收され得る。そしてこの課税は、若し或る可成りの額に迄押し進められるならば、殆んど必ずや、生産力を妨げるであらうから、吾々は富の一要素を改善してゐるのに富の他の要素を害するといふ危険が常にあるのである。大なる國債に對する第二の重大な故障は、それに直接に關聯してゐる

ない總ての者、從つて多數の人口の間にかくも一般的に擴まつてゐる、それがなくなれば直ちに且つ大いに助かるであらうといふ、感情である。そしてこの印象に十分の根據があらうとなからうと、それが存在する場合には常に必ず、(それに對して支拂はれた利子)【かゝる収入】を或る程度に於いて不確實ならしめ、そして一國を大なる財産の混亂の危険に曝すのである(が、蓋しそれは特に、行はれ得る支出の何等かの節約の爲めに、人民の感情に影響を與へる如き課税の減免が行はれることとなるのを、妨げるが故である)。かゝる債務に對する第三の故障は、貨幣價値の變化より生ずる害悪を大いに加重するといふことである。通貨が價値に於いて下落する時には、年金受領者は、固定所得の所有者として、國民生産物の彼等の正當な分前を最も不當に奪はれる。通貨が價値に於いて騰貴する時には、債務の利子を支拂ふに必要な課税の壓迫は突如として極めて重くなり、爲めに生産的階級を大いに苦しめるであらう(註)。そしてこの種の突如たる壓迫は、公けの基金フナドに委ねられた財産の不安固を著しく高めなければならぬのである。

註 多額の公債を有つ國に於いては、政府の官吏の側に於いて、貴金屬の價値の變動に必然的に屬するもの以上の通貨の變動を防止するよりも、神聖なりとせらるべき義務はない。私は、貨幣價値の下落より得らるべき一時的利益を、十分に知つてゐる。そして恐らく昨年間の慘苦の一部分は、もつとも私は小部分に過ぎないと思ふはれども、其の正當な價値に通貨を恢復する爲めに近頃採用せられた處置によつて、惹起されたものであることは、事實であらう。併し或るかゝる處置は不可避的に必要であつた。そしてリカード氏は、この推移を合理的に期待せられ得べかりしよりも、容易ならしめた處置を敷へたことで、彼れの國の感情に値するものである。(これを書いたのは一八二〇年のことである。)

これ等の及びその他の理由で、假令國債の過去の結果は富に對し好都合であり、又それが齎らした生産物の有利な分配が、現實の事情の下に於いて、それが商業に與へたであらう妨害を相殺して餘りあつたことが、認められるとはいへ、(漸次に)「徐々と」それを減少し、且つ(それよりも特に)將來の其の増大を妨害することが、望ましいであらう。「相應な富を伴ふ安固は、より大なる富を伴ふ不安固よりも、より賢明な選擇であり、且つ平和と幸福によりよく適するものである。併し、不幸にして、同時に大なる生産力を刺戟しすれば又十分に働かせもした生産物の分配に慣れた國は、極めて大なる慘苦の時期を経過することなくしては、活氣のより少き道へと引下り得ないものである。

「吾々が吾々の國債の重荷から免れ得さへすれば、萬事はよくなるであらう、と一般に考へられてゐることを、私は知つてゐる。而も私は、若しそれが明日皆済され、そして公債所有者は或る他の國で愉快に支持せられるものと想像して彼等の貧困と窮乏とを吾々の考慮外に置き得るとしても、社會の殘部は、一國民としては、富裕とはならず貧窮するであらう、と完全に確信する。地主及び資本家が、直ちにか又は極めて短期間にして、かゝる變化が必要とする如き大なる消費の増加を爲す用意があると想像することは、最大の誤りである。そして若し彼等が、前の事例でリカアドウ氏が教へてゐる、彼等の増大せる所得を貯蓄し且つ貸付けるといふ、代りの手段を、採用するならば、害悪は十倍にも加重せられるであらう。生産物の新らしき分配は、生産的勞働の結果に對する需要を減少するであらう。そして若し、これに加ふるに、より多くの収入が資本に轉換せられるな

らば、利潤は下落して皆無となり、そして國債の皆済以前よりも、遙かにより多量の資本は國を去り又は國內で破壊せられ、そして遙かにより多數の人間は職の不足によつて餓死つゝあることにならう。低廉な財貨を輸出し得るといふことは殆んど重要なことではないであらう。若し國內に於ける財産の分配が、これ等の財貨に對する收得を購買し消費するに適當な能力と意思とを惹き起すが如きものでないならば、消費物の外國貿易に使用され得べき資本の分量は増大せられずして減少せられるであらう。若し吾々が、低き勞賃が商業に於いて殆んど何にもならぬ様に思はれ、他方多量の外國財貨に對し市場を與へる社會の中流階級のない、インドを觀るならば、吾々はこのことを確信し得よう。

「地主は、假定された事件に於いては、生産的勞働の結果を適當に消費する氣にはならず、恐らくより多數の召使を使用するであらう。そして恐らく、現實の事情に於いては、これが、爲され得る最良のことであり、又實際多數の勞働者が仕事の缺乏で餓ゑるのを妨げる唯一の方法であらう。併し乍ら、それが間もなく十分の程度に行はれるとは決して思はれない。併し若しそれが完全になされ、そして地主が以前に國債所有者に支拂つただけを召使に勞賃として支拂ふならば、吾々は一瞬でも、それに隨伴すべき社會狀態を破壊せられて了つたそれに比較し得るであらうか?」

「資本家に關して云へば、彼等はその租税の大きな部分から免れるであらうが、而も彼等の貯蓄の習慣は、有效需要者の數の減少と相俟つて、利潤に依存する國民所得部分を大いに減少する如き貨物の價格の下落を惹起すであらう。そして私は(註)、かゝる事件のあつた日より五年にして、啻に

内外の勞働で測定された全生産物の交換價值が決定的に減少されるのみならず、更に以前よりもより小なる絶對量の穀物が栽培され、又より少い製造貨物及び外國貨物が市場に齎らされるであらうといふことを、殆んど全く疑はないのである。

R註 マルサス氏は、かゝる原因からかゝる結果を期待する英蘭中での唯一の人でなければならぬ、と私は考へ度い。

【云ふ迄もなく、多量の土地、勞働、及び資本を有する國が、如何に大であらうとそれが經驗すべき衝撃から、徐々に恢復する手段を有たない、と云はうといふのではない。そしてかゝる事件の後には、國は確かに、多額の國債がある時よりも其の財産がより安固な状態に、あることになるであらう。私が云はうといふ總ては、その國は、生産物の不都合なる分配による有效需要の減少が、課税より免れた爲めに生じた生産力の増大を相殺して餘りある所の、恐らく可成り長い一時期を通過するであらう、といふことである。そしてそれが終に、何等かの方法で不生産的消費者の大きな群を所有せずに、又は、この不足を、社會で行はれてゐることが一般に見られるよりも遙かにより大なる、生産的勞働の結果を消費する傾向、によつてこの不足を充たさずに、大なる程度の富を獲得するであらうか又は——さうすべきであるが——農業、製造業、及び商業に於ける大なる程度の熟練を喚起するであらうかは、正當に疑はれ得よう。

「生産的階級が彼等の生産する總てを消費する能力を有つことは、屢々認めて來た。そして若しこの能力が適當に發揮されるならば、富の目的の爲めに不生産的消費者は存在し得ないであらう。併

し、能力はあらうが意思はないといふことは經驗によつて見出されてゐる。そして不生産的消費者が必要なのは、この意思を供せんが爲めである。」(全體として見て、一團の不生産的消費者の)

【富を奨励(R註)するといふ彼等の】特別の用途は、生産物と消費との間に、國民的勤勞の結果

に最大の交換價值を與へる如き平衡を、維持する(ことによつて、富に奨励を與へる)にある。

若し(かゝる消費者)【不生産的勞働】が優勢であるならば、市場に齎らされる比較的少量の物質的生产物は、分量の不足により、全生産物の價值を低くしておくであらう。若し(他方に於いて)生産的階級が過剰であるならば、全生産物の價值は供給の過剰により下落するであらう。最大の價值(R註)を産出し、そして(長い間)最大分量の【國の内外の】勞働を支配する(所の)【もの】は、明かに、【兩者の間の一定の比例(がある)のである。そして吾々は、全生産物の交換價值を維持し且つ増大する(傾向ある)所の分配に必要な諸原因の中に、或る一團の(物質物の直接的生産に従事しない)【不生産的】消費者の維持といふことを數へなければならぬ、と安全に結論し得よう。(富に對する刺戟と考へての)この一團は、【富に對する刺戟として分配を有效ならしめ、それに對する障礙として分配が有害となるのを妨げる爲めには】異なる國及び異なる時に於いて、生産力に従つて變つてゐなければならぬ。そして最も好都合な結果は、明かに、(彼等の數)【生産的消費者と不生産的消費者との比例】が、土壤の自然的資源と(熟練と)人民の獲得せる嗜好【及び習慣】とに最もよく適合してゐることに、依存するのである。

R註一 如何にして彼等は自然的(譯者註—國民的)勤勞の結果に彼等の消費によつて價值を與へ得

るのか？ 私の家屋を倒し私の財産を埋める地震は國民的勤勞に價値を興へる、と主張してもこれと同じく正しいこととならう。

R註二 マルサス氏は屢々、價値を測定するに、それが吾々に與へる内國勞働の支配力と並んで外國勞働の支配力をも以てしてゐる。吾々は外國勞働の分量又は價値と何の關係があるのか。凡ゆる外國貨物は或る分量の我國の内國勞働で買はれ、そして吾々はこの勞働によつてのみ内國及び外國貨物の雙方を評價しなければならぬ。

第十節 一八一五年以來の勞働階級の慘苦への前の

諸原理の或るものの適用、並びに概観

一八一五年以來の勞働階級の慘苦は、仕事のない總ての者を明かに使用し得ない資本の不足による、と云はれてゐる。(譯者註—第一版ではパラグラフは)

この國の資本が人口に對し適當の比例をとらないこと、資本と收入との兩者が一八一五年以前の如き大なる比例をとらないこと、及びかゝる不比例が直ちに勞働階級の間の極めて大なる慘苦を説明するであらうことは、私が最も容易に認めんとすることである。併し、人口が資本に比較して不足であるといふことと、それが、それに對する需要とそれによつて獲得された貨物に對する需要とに比較して、不足であるといふこととは、極めて異なることである(三版註)。この二つの場

合は極めて屢々混同されるが、それは蓋し兩者は共に勞働階級の間の慘苦を産出すからである。併しそれ等は本質的に異なるものである。それ等は或る極めて異なる徵標を伴ひ、そして極めて異つて取扱はれる必要があるのである。

二版註 勞働は資本に比較して過剩であり、又資本は同時に勞働に比較して過剩である、と云ふのは、用語矛盾である。併し、勞働者と資本との兩者はそれ等を有利に使用する手段に比較して過剩であり得よう、と云ふのは、少しも用語矛盾ではない。私は前の方の主張を爲したと攻撃されたけれども、併し決してさうしたことはない。併し後者は極めて十分に經驗によつて確證されてゐるものであり、従つて私は理論家が執拗に其の承認を拒否するのを見て驚くのである。(譯者註—前節の初めから第八番目のR註を参照)

若し一國の資本の四分の一が、(貨物に對する) 需要の減少の他の原因が起ることなくして、突然破壊されるか又は全然世界の他の地方に移轉されるならば、この資本の稀少は確かに(消費者に對して) 大なる不便を、又勞働階級の間に大なる慘苦を惹起すであらう。併しそれは残つた資本家には大なる利益を伴ふであらう。貨物は一般に、それを生産する手段の不足の爲めに、稀少となり、そして高い價格を有つであらう。(資本) 資本に有利な用途を發見するほど容易なことはないであらう。併し(資本) 資本の不足な多數の用途に對し(資本) 資本を見出すことは決して容易ではないであらう。従つて利潤率は極めて高いであらう。かゝる事態に於いては、貨物に對し直接の且つ差迫つた需要がある爲めに、資本に對し直接の且つ差迫つた需要があるであらう。そして明白なる救済策は、それが爲され得る唯一の方法で、換言すれば資本に追加

する爲めに収入より蓄積することによつて、需要を充たすことである。資本のこの供給は、私が（前に）『前の節に於いて』述べたる如くに、直接な且つ差迫つた労働の不足が労働者に與へられる高き眞實勞賃によつて確證されてゐるといふことを假定した場合に、人民の大なる破壊の後に起る人口の供給と、全く同一の原理によつて、行はれるのである。

他方に於いて、若し國の資本が、以前には極めて繁榮しそして多量の資本を吸収してゐた或る（大きな）事業部門の（需要の缺乏）『失敗』によつて、減少されるならば、又は若し資本が突然破壊され（るのに）『そして』特殊の事情によつて（地主の収入がより大なる比例で減少される）『消費の減少と需要の減退との時期がこれに續く』としてすら、事態は、貧民の慘苦を別とすれば、殆んど正確に反對であらう。残つた資本家は、彼等が（供給）『資本』を減少したよりも更に、より大なる比例に於いて需要を減少した事件によつて、如何なる點に於いても利益を受けないであらう。貨物は凡ゆる所に於いて低廉であらう。資本は用途を尋ねてゐるであらうが、容易にはそれを見出さないであらう。そして資本の利潤は低いであらう。貨物に對する差迫つた且つ直接の需要がないから、資本に對する差迫つた且つ直接の需要はないであらう。そして、かゝる事情の下に於いては、資本に追加する爲めの収入よりの貯蓄は、必要とされる救済を與へずに、單に資本家の慘苦を加重するに過ぎず、そして國外に流出しつゝある資本の流れを満たすに過ぎないであらう。資本家の慘苦は、労働階級が、人民の大なる破壊の後に、労働の勞賃を極めて低くして置いた資本の更により大なる破壊を伴つてゐるにも拘らず、結婚し且つ増大する様に獎勵せら

れた場合に、彼等の慘苦が加重されると同一の原理によつて、加重されるであらう。國の面積と（R註）とに比較して確かに大なる人口の不足が起り、そしてそれがより大であることが極めて望ましいこととなるであらう。併し若し労働の勞賃が、人民の減少にも拘らず、尙ほ低いならば、より多くの子供の出生を奨励することは人口より寧ろ窮乏と死亡とを奨励することであらう。

R註 人口過剰の害悪は十分に認められてゐるが、併し、資本の蓄積から何等かの害悪が生じ得ると想像する以上の誤謬はあり得ない。唯一の結果は、不足な人口が支配し得る勞賃が豊かな爲めに利潤が下落するので、より以上蓄積しようとしなくなるだけのことであらう。

扱て私は問ひ度い、これ等の二つの假定の中、我國の現在の状態（R註）は何れに最も類似するであらうか？ 確かに後者である。最近大なる資本の喪失を蒙つたことは疑ひのないことである。殆んど戦争の全期の間、大なる生産力と大なる（有效）消費及び需要との結合によつて、政府による資本の莫大な破壊は恢復されて遙かに餘りあつた。このことを疑ふのは、一七九二年と一八一三年とのこの國の比較的状态に吾々の眼を閉づることである。併し乍ら戦争の最後の二年は、異常な支出の行はれた年であり、そしてそれに直ぐ續いて極めて異例の（有效）需要衰微の時期が起つたので、この二年間に起つた資本の破壊は恐らく恢復されなかつたであらう。併しこの衰微自身は、それに先立つ如何なる資本の破壊よりも、國民資本に及ぼす其の結果に於いて遙かにより害多く、そして國民的収入に及ぼすそれは更により多かつた。それは確かに、恐らく殆んど三分の一に及ぶと想像されてゐる、土地の粗生産物の價値の、異常な下落で始つた。この下落

が農業者の資本を、そして更に以上地主及び農業者の兩者の、及び他の仕方で土地と關係を有つ總ての者の、收入を、減少した時、製造品及び外國生産物を購買する彼等の能力は必然的に大いに減少された。國內需要の不足は製造業者の倉庫を賣れない財貨で満たしたが、それは彼等を促して如何なる危険を冒してもより多量に輸出するに至らしめた。併しこの過剰の輸出は總ての外國市場を過剰ならしめ、そして商人が適當の收得を受取ることを妨げた。然るに突然の且つ異常の通貨の收縮により加重された國內收入の減少により、外國より得られた比較的乏しい收得ですら、極めて不十分な內國需要を見出したに過ぎず、そして商人及び製造業者の利潤従つて支出はこれに比例して低められた。かゝる不都合なる（R註二）變化が地代及び利潤に起つてゐるのに、戰爭中に（勞働に對する繼續的需要により）人口に與へられてゐた有力なる刺戟は、「引續き」新らしき勞働の供給を滔々と送り、（これは）「そして」解散された陸海軍の兵士と農業者及び商人の損失より生ずる需要の不足とに助勢せられて、一般的に「勞働の」勞賃（及び利潤の兩者）を低減し、そしてこの國を資本及び收入の一般的減少の状態に置いたのである、——實に通貨の價値の變動に比例してのみならず、更に其の生産物の地金價値とこの地金價値の（それが現實に使用されてゐる價格での）「國の内外の」勞働に對する支配力に關しても。戰爭後の四五年間は、國民生産物の分配の變化と、それにより惹起された（有效）消費及び需要の不足の爲めに、生産（の比率）に對し決定的な妨げが與へられ、そして人口は、其の以前の刺戟の下に於いて、實に勞働に對する需要よりもより速かなるのみならず、更に現實の生産物よりもより速かに

増加した。而も（R註三）この生産物は、人口に比較し「又過去に比較し」ては決定的に不足であつたけれども、それに對する有效需要とそれを購買すべき收入と比較しては過剰である。勞働は低廉であるけれども、それを總て使用する能力もなければ意思もない。蓋し實に國の資本が勞働者の數に比較して減少したのみならず、更に國の收入が減少した爲めに、かゝる勞働者が生産すべき貨物は減少せる資本に相應の利潤を保證する程には要求されてゐないからである。

二版註 これを書いたのは一八二〇年のことである。

R註一 若し戰爭の終結がこの國を資本及び收入の減少の状態に置いたならば、資本が生産した財貨も亦分量に於いて減少した筈ではないか？ 生産物の資本に對する現在の比例は戰爭中と同一ではないか？ 如何にしてこれは低き價格と貨物の供給過剰とを説明するのであるか？

R註二 勞働は貨物によつて支拂はれる。貨物は有效需要に對して過度に豊富であるが、併しこれ等の貨物は人口に比較しては不足であるからそれでより多くの勞働を使用することが出来る。これは、貨物は同時に豊富であり且つ不足である、と云ふことではないか？

併し、利潤が低く且つ不確實であり、資本家が何處に彼等の資本を安全に使用し得るかに全く當惑して居り、そしてこれ等の理由によつて資本が國外に流出しつゝある時には、略言すれば、事の性質上存在し得る凡ゆる證據が資本に對する有效需要が國內にないことを明かに證明するならば、貯蓄を、及び資本へのより多くの收入の轉換を推奨するのは、經濟學の一般諸原理に反し、總ての其の諸原理中の第一の、最大の、且つ最も一般的のものに、すなはち需要及び供給の原理

に對する、無駄な且つ無益な反對ではなからうか？ それは、人民が餓多つゝあり移民出國しつゝある時に結婚を推奨するのと、正に同一種類の事ではなからうか？

國の直接的缺乏が資本ではないことの明白なる證據と私の考へる、資本の低き利潤とその用途を見出す困難が、他の諸原因に歸せられてゐることは、私は十分に知つてゐる。併し、それが如何なる原因に歸せられようと、收入に對する資本の比例の増大はそれを加重しなければならぬ。我國の貧弱な土壤の耕作、通商に對する我國の制限及び我國の課税の負荷といふが如き、これ等の原因に關しては、私は我國の（比較的）繁榮の理論とかくも相容れざる我國の慘苦の理論を認めるの極めて困難なるを見出す。我國の貧弱な土地が耕作せられて居り、我國の通商に通常以上の制限があつて穀物は殆んど輸入せられず、そして課税が其の絶頂にあつた間は、國は明かに富に於いて以前に知られたことのない速度で増大したのである。我國の最も貧弱な土地の或るもの耕作が抛棄せられ、平和が我國の通商に對する制限の多くを除去しそして我國の穀物條令にも拘らず吾々が多量の穀物を輸入するに至り、そして一千七百萬磅の租税が人民から取除かれて以來、吾々は（資本家及び労働者雙方の間に於ける、最大の）¹「その壓迫が殆んど堪へ得ない」程度の慘苦を経験してゐるのである。

私は（實際）、かゝる顯著なる事實から、通商に對する制限や重税が「一般に」一國にとり有利で「あり勝ち」である、と推論しようといふ積りでは決してない。併しこの事實は、確かに、上に挙げた原因が將來我國の富の増進を妨げるに如何なる結果を及ぼさうと、吾々は、我國の現在の

慘苦の直接の源泉は他の場所に求めなければならぬ、といふことを證示するものである。我國の人爲的制度が、特に大なる國債に影響を及ぼしてゐる我國の通貨の價値の變化が、吾々の經驗した害悪を、どれだけ加重したかは、極度に云ひにくいことであらう、併し私は（R註）、これ等の害悪の極めて大なる部分は、貧弱の土地を耕作することなく、租税もなく、又取引に對する如何なる新らしい制限なくとも、一國民が經驗したであらうものであることを、全く確信するのである。

R註 私も同様である、蓋し私は、それ等の害悪なくとも、かゝる戦争の後の、且つ利潤が比較的に低い國を去らうとする資本への誘惑を生ずる所の、取引の沈滞は、大きな慘苦を産み出すであらう、と全く確信するからである。

若し大なる肥沃度と十分な内國交通とを有つ或る大きな國が、乗越し得ない塀で圍まれるとしても、それが外國通商の利益を享受してゐる場合程には富まないとしても可成りに富むであらうことは、吾々の總て一致する所である。扱てかゝる國が、多量の生産上の器用さを喚起し且つ使用する爲めに、そしてそれが最も有利に其の資本に追加し得る收入部分のみを——残りの消費貨物を（個人的消費）²「不生産的勞働」に支出して——年々貯蓄する爲めに、徐々として可成りの消費に耽るものと假定すれば、それは明かに、生産物と消費とのかゝる平衡の下に於いては、かなり急速に富及び人口に於いて増大しつゝあるであらう。併し若し（R註）、貨物の消費は需要の減少であるといふセエ氏によつて立てられた原理によつて、社會が大いに且つ一般的に其の消費を弱め且つ其の資本に追加するとするならば、貧弱な土地は耕作されてゐないにも拘らず、需要及び

供給の大原理によつて資本家の利潤が間もなく(大いに)低減せられ【無に至】ることには、少しも疑ひはあり得ない。そして人口は、一つの租税も取引に對する何等の制限もなくとも、解雇せられ且つ餓死に瀕するに至るであらう。

R註 社會は一般に如何にして其の消費を弱め且つ其の資本に追加することが出来るであらうか？ 資本への追加は何等かの場合に於いて消費を弱めるか？ 消費を弱めることなくして如何にして人口は解雇せられ且つ餓死に瀕するに至り得るであらうか？

ヨオロッパ及びアメリカの状態は、恐らく、或る點に於いてこゝに假定された場合に類似するものと、云はれ得よう。そして戦争以來かくも一般的に感ぜられ且つ啣たれてゐる衰微は、生産力が富の唯一の要素であると考へ従つて若し生産(手段)【力】が増大されるならば富も確かにそれに比例して増大するであらうと推論する者の諸原理によつては、説明し得ない様に私には思はれる。扱て戦争の中止により生産(手段)【力】が増大せられ、そしてより多くの人民とより多くの資本とが生産的労働に使用される許りになつてゐたことは、疑問の餘地なきことである。併し生産(手段)【力】のこの明かな増大にも拘らず、吾々は凡ゆる場所で安易と富裕とはなく困難と惨苦とを耳にするのである。特に、異常の物理的資源を有つ國たる、アメリカ合衆國に於いては、經驗せられた困難は極めて顯著であり、そして確かに殆んど期待せられ得なかつた如きものであつた。かゝる困難は貧乏、少くとも、貧弱な土地の耕作、通商に對する制限、及び過度の課税に歸せられ得ない。戦争以來商業世界の状態は全體として、生産(手段)【力】の増大の外に何

物かゞ、富の繼續的増大の爲めに必要であることを、明かに證示するのである。

R註 一國は、制限そのものを課さなくとも、取引の制限によつて、苦難を蒙るであらう。かくも多く述べられ來つた戦争より平和への推移が、觀察された結果の主たる原因であることは、容易に認められるであらうが、併しその作用の方は通常説明されてゐないのである。資本を過剰な用途から不足な用途に移轉し、かくて正當な均衡を恢復する、時間がなかつたのである、と一般に云はれてゐる。併し(かゝる)【この】移轉は、今戦争以來經過してゐる程の時間を(殆んど)必要とし得(ないであらう)【るとは私は信ずる氣にはなり得ない】。そして【又も】私は問ひ度い、この理解によれば多數であり且つかくも多くの事業部門に於いて明かにヨオロッパの市場を過剰に満たしてゐる總ての過剰資本を十分に吸収し得る所の資本の不足の職業は何處にあるのであるか？ かゝるものが今少しも見出され得ないことは、浮動資本の所有者がよく知つてゐる。そして若し問題となつてゐる推移が、生じた事柄を説明するとするならば、それは、資本移動の困難より起る結果の外の或る他の結果を産出してゐた筈である。これは私は(生産物の供給に比較しての)【消費及び】需要の【全額の大なる】減少であると思ふ。取引路に於ける必要な變化は一二年で行はれ得よう。併しかゝる戦争から平和への推移によつて惹起された(供給に比較しての)【消費及び】需要の一般的減少は、極めて長い間續くであらう。還附された租税及び支出以上に出づる個人の利得の超過は——それは戦争中には収入として極めて多額に使用せられたものであるが——今や一部分、而も恐らく少なからざる部分が、貯蓄されてゐる。私は、例へば、

吾々自身の國に於いて、極めて多くの人々が機會を利用して彼等の還附された財産税の一部分を貯蓄し、特に、單に一生の所得を有つに過ぎず、そして正當な課税の原理に反して、實現された財産からその所得を得る者と同一率で課税されてゐた者が、さうしたことを、疑ひ得ない。この貯蓄は¹甚しく自然且つ正當であり、そして租税廢止に對する正當な反對論を爲すものではない。この併し尙ほそれは、戰爭以來の、貨物の供給に比較してのそれに對する需要の減少の原因を説明するに寄與するものである。若し主たる關係政府の或るものが、それが徴收した租税を、それを現に所有する者よりも、勞働及び貨物特に前者に對するより大なる且つより確實なる需要を創造するが如くに、支出したならば、そして若しこの支出の相違が或る期間續くならば、戰爭から平和への推移より生ずる結果が繼續するのに吾々は驚き得ないのである。

R註 若しマルサス氏の推理が正しいならば、それは租税の撤廢に反對する抗し得ない議論をなすものである。前提とこれ程一致しない結論があり得ようか？

併し乍ら、かくも一般的に起つた(この變化)【消費の減少】は、商業世界の異なる國に對しては、それが置かれてゐる事情の異なるに従つて、極めて異なる影響を與へたに相違ない。そして、上記の原理が吾々をして期待せしめるが如くに、戰爭によつて最も惱まされた國が平和によつて最も惱まされなかつたことは、一般に見出されるであらう。相應な又は乏しい生産力の上に大きな壓迫が加へられるに至つた國に於いては、その富が戰爭中に其の進歩を止められ又は恐らく積極的に退歩せしめられなかつたであらうと想像することは殆んど不可能である、かゝる國は、今やかゝ

る國をしてそれなくしては如何なる國も永續的にその富を増大し得ない所の資本の蓄積を爲さしめてゐる所の(事態)【消費の減少】によつて事態を處理して來たに相違ない。併し戰爭の壓迫が大なる生産力を産出し且つ遙かにより大なるそれを創造する様に思はれ、蓄積が妨げられずに促進され、そして貨物の大なる消費に伴つて以前【に嘗て知られた】よりもより急速な富の増大を惹起した所の供給が起つた所の、國に於いては、平和の結果は極めて異なるであらう。かゝる國に於いては、(供給に比較しての)【消費及び】需要の大なる減少が富の増進を決定的に妨げ、そして資本家にも勞働階級にも極めて一般的且つ深刻な慘苦を惹起すであらう、と想像することは自然である。英蘭及びアメリカは、この後の種類の國に最も接近してゐる。それ等は戰爭によつて最も害を蒙らず又は寧ろそれによつて富裕となり、そしてそれ等は今や平和によつて最も害を蒙つてゐるのである。

平和がかくも顯著に慘苦と結び附いてゐる様に見える時期が凡そ起つたといふことは(確かに)極めて不幸な事情である【と私は考へざるを得ない】。併し對照がかくも顯著であるのは、今度の戰爭に伴ふ極めて特殊の事情に(よつた)【よる】ものであることを、常に想起しなければならぬ。アメリカの、及び又以前の、戰爭に於いては、これと極めて異なる。そして若し、その力作を支持する同一の能力なくして、換言すれば、世界の通商の最大部分の支配力と、今迄知られたことのない程の急速な且つ有效な機械の使用の増進とがなくなつて、同一の力作が企てられたならば、吾々は戰爭の中止の際に最も心を安らするの状態にあつたことであらう。ヒュウム及びアダム・

スミスが、當時の國債額以上に僅かにそれが増大すれば、恐らく破産を惹起すであらう、と豫言した時には、彼等の誤謬の主たる原因は、その後國民が到達すべき生産力の莫大の増大を見ることが出来なかつたといふ、極めて自然的なものであつた。一七七〇年にこの國を全滅せしめたであらう支出は、一八一六年には其の著大なる生産力を働かせる爲め必要なる所以上には殆んど出でないであらう。併し、この生産力と、急速な資本の蓄積と歩を共にして莫大なる消費が供給せられ得る便宜とに正に比例して、資本家及び勞働者は支出の大なる且つ突然の減少により慘苦を蒙るであらう。

この故に、長い且つ經費を多く要する戦争の軍費をその年内に徴收する政策、すなはち極めて有能な論者によつて推奨されてゐる政策に、疑問を懐く理由がある。若し國が貧しいならば、かかる課税制度は其の努力を全然無効ならしめるであらう。それは、毎年積極的に其の資本を減少し、そして同一の軍費を供給することを毎年より破滅的ならしめ、終に國は、其の敵に効果的に對抗し続けることが絶對的に不可能な爲めに、それに降服せざるを得なくなるであらう。他方に於いて、若し國が富んで居り、そして大なる(有效)消費の刺戟によつて更に、以上喚起される大なる生産力を有つならば、それはそれに課せられた重税を其の收入より支拂ひ得て而も適當な蓄積の手段を見出し得よう。併しこの過程が或る期間続き、そして人民の習慣がこの程度の公私の支出に適合するならば、戦争が終つて多額の租税がその納付者に直ちに復する時には生産物と消費との正當な平衡は全く破壊せられ、そして、事情に應じて長かれ短かかれ、極めて

大なる衰微が生産的勤勞の凡ゆる部分に感ぜられる時期が生じ、其の通常の隨伴物たる一般的慘苦を伴ふであらうことを、疑ふのは殆んど不可能である。租税の賦課によつて惹起された害悪は、それを廢止することによつて相殺されることは極めて稀である。吾々は、個人に於ける支出への傾向は、懶惰の愛好と彼等の境遇を改善し且つ一家に衣食を給せんが爲めの、貯蓄の願望といふ、極めて恐るべき反對物を有つものであり、そして人類は常に彼等が生産し且つ消費する能力を有するだけ生産し且つ消費するといふ假定に基礎を置く總ての理論は、人類の品性とそれが通常影響を蒙る誘因とに關する知識の缺除に基礎を置くものであることを、絶えず銘記してゐなければならぬ。

R註 國債は毎年積極的に國の資本を減少しないか？

恐らく次の如く云はれるであらう、(我國の)人口に比較しての我國の資本が、戦争以來、部分的にはそれが戦争の最後の二年間に蒙つた破壊から未だ恢復されないことによつて、(そして)「併し」より以上には、戦争の終結の際に起つた「消費及び」需要の突然の缺乏によつて、減少せしめられてゐる「と認められてゐる」から、「若し吾々が活潑に」蓄積(による外に)「しないならば」失はれた資本は凡そ如何にして恢復せられ得ようか？と。(扱て)蓄積による外に、我國の「失はれた」資本(の)恢復と増大とは、行はれ得ない」を恢復する可能な方法がない」ことは、全く眞實である。(併し)「私が云はうとする總ては、我國の資本の恢復及び増大といふ」この最も望ましい目的を期待するに當つて、吾々を正しき軌道に導くに(殆んど)「屢々」は「失敗すること

なき一般的大法則に吾々は耳を傾けなければならぬ、といふこと（は絶対的必要）である。若し人口が一國に於いて其の土地面積に比較して極めて不足して居り、而も若し勞働の勞賃が更に引續き極めて乏しく、そして人民が出國しつゝあるならば、需要及び供給の一般的大法則は、事實上現實の事情の下に於いては目指されたる目的を成就しない所の結婚の比例の増大を吾々が希望すべき前に、この事態の或る前以ての變化が必要であることを、吾々に教へるであらう。同様にして、若し吾々の（資本）【利潤】の一部分が破壊され、而も殘部の利潤が低く、そして（頻々たる損失と）【其の使用が、それが】國を去るの傾向と【共に、それを停止的又は退歩的にすらせしめる如き頻々たる損失】を伴ふならば、確かに需要及び供給の一般的大法則は、吾々が有効に蓄積し得る前に他の何事かが必要であるといふことを最も明かに證示するのである。

我國に於いて今必要なことは、國民收入の増大、——地金で測定しての全生産物の交換價値の増大、——及び【國の内外の】勞働に對するこの地金の支配力の増大である。吾々が、増大せられたる且つ着實なる利潤によつてのみ到達せられ得る所のこのことに到達した時に、吾々は再び蓄積し得、又吾々の蓄積は有効となるであらう。併し若し、増大せる利潤より貯蓄せず、吾々が支出の減少より貯蓄するならば、若し、貨物に對する需要に比較しての其の供給が明かに收入より以上追加せんが爲めに吾々の收入から貯蓄し續けるならば、總ての一般の原理は、吾々は必然的に吾々の慘苦を緩和せずに加重してゐなければならぬことを、一致して證示するのである。

次の如く問はれるであらう、併し如何にして吾々はこの收入の増大を獲得すべきであるか？ 全生産物の交換價値を引上げ、そして必要なりと認められてゐる將來の貯蓄に道を準備する爲めには、吾々は如何なる階梯をとるべきであるか？ と。私は、この長い、『富の増進の直接的原因に就いて』といふ章の終りの方の節で——ここでは、分配の手段を生産力と結合することが富の繼續的増大に對し絶對的に必要であり、そして、分配を好都合ならしめることによつて全生産物の交換價値を維持し且つ増大する傾向の最もある三つの原因は、土地財産の分割、國の内外の取引の擴大、及び（生産力に最もよく適合せる如き比例の）不生産的（消費者）【勞働者】の維持で、あることが、明かとなつた——これ等の間に答へんと努めたのである。

これ等の原因を挙げただけで、それが蓄積の普通の過程よりも吾々の直接の支配の下にあることより少きものであることが、分るであらう。若し、仕事のない總ての者を使用し且つ同時に彼等の生産せるものに對し十分な市場を創造する爲めには、もう少しより多くが收入から貯蓄され且つ國の資本に追加されることが必要であるのみである、といふことが眞實であるならば、私は、この種の慈善は寄附者を缺くものではなく、そして勞働者階級の狀態は間もなく變化するであらう、と十分信ずる氣になる。併し吾々が、理論からも經驗からも、このことは求められた救治を與へるものではないことを知り、そして勞働に對する健全な且つ有効な需要を恢復し得る唯一の原因は全生産物の交換價値の増大であるとわかる時には、吾々の望むことを成就する爲めに採つた方がよい第一の階梯に關して吾々が當惑すべきことを、認めなければならぬ。

併し乍らなほ、目指さるべき直接の目的を知ることが最も重要である。それは、若し吾々がそれを現實に進めるに殆んど何事も爲し得ないとしても、吾々が無知の爲めにそれを遅らせることのない爲めである。國民的生産物の交換價值を増大する傾向あるものとして私が擧げた第一の主たる原因、すなはち土地財産の分割に就いては、私は我國の現實の且つ特有の状態に於いては、長子相続法の廢止は利益よりも害悪をより多く産出すであらうし、そして、それに文明、發達、及び富の、總ての進歩が常に依存しなければならぬ、財産に關する根本的大法則への適宜の尊敬と矛盾せずに、異なる土地の分割が行はれ得る他の方法はない、と考へる私の理由を述べて置いた。併し(註)我國に於ける現在の土地分割に直接に干渉するのがよくないのに、或る程度の富の分配が其の増大の主たる原因の一つであるならば、國債に伴ふ害悪が、財産の分配とそれが必然的に創造しなければならぬ社會の中流階級の増大によつて、相殺されて餘りある譯ではないか否か、又國債を皆濟する爲めに貯蓄することによつて、吾々は、それが其の目的を達した時には、それが齎らす他の利益が何であらうと、吾々を遙かにより好都合ならざる富の分配に置くべき苦痛多き犠牲に、服してゐるのではないか否か? といふことが正當に問題となるであらう。國債を大いに低減することにより、若し吾々がそれを成就し得るならば、吾々は恐らくより安全な地位にあるであらう、そしてこれは疑ひもなく重要なことである。併し、それを大いに低減するか又は直ちに全廢することによつて、吾々は富裕になり且つ吾々の總ての勞働階級を雇傭し得ると考へる者は、大いに失望するであらう。

R註 如何にして國債は社會の中流階級を創造するのであるか? 凡ゆる公債所有者は彼が公債

所有者となる前に同一額の財産を所有してゐた筈ではないか? 然らば彼は若し國債がなくとも、社會の中流階級にあつたのではなからうか? 私は國債が如何にしてこの階級を少しでも創造し得たのかを理解することが出来ない。若し再び吾々がそれを皆濟するならば、吾々はこの階級をなくして了ふのであるか、マルサスはさうなるものと恐れてゐる様に見えるが? 凡ゆる公債所有者は公債の支拂後にも資本を所有してゐないであらうか?

全生産物の交換價值の増大の第二の主たる原因、——すなはち、内外取引の擴張に就いて云へば、吾々はこの内外取引の何れをも好むがまゝに支配することは決して出来ないが、併し吾々は兩者を阻害することは大いに出来るといふことは、周知のことである。吾々は實際、突然の取引の不足を、長く續いてゐる原因に、合理的に歸することは出来ない。併し、我國の通商が不必要な制限によつて大いに害され、且つその廢止により多くの利益が得られたであらうことは、殆んど疑ひがあり得ない。政府の經費と國債の利子の支拂との爲めに課税によつて大きな額を徵收することが必要である間は、關稅といふが如き正當な且つ収入の多い源泉を無視することは、決してよくないであらう。かゝる租税を統制するに當つて、課税されてゐる内國貨物と同一種類であるか、又は健康、幸福、又は安全の特別の理由の爲めに、國內で大いに出来ることが望ましい所の、外國貨物が最も高く課税せられるといふことも亦、當然である。併し如何なる貨物であらうとそれを全然禁止する理由はない様に思はれる。そしてこの原理によれば、遙かにより大なる自

由を外國通商に與へて而も同時に遙かにより大なる收入が關稅から得られるであらうことは、殆んど疑ひがない。私は既に一度ならず、かういふ場合の總ての事情の下に於いて、吾々が永續的に殆んど吾々自身の消費するだけの穀物を作るのが望ましいと何故に私は考へるかを、説明した。併し私は、何故に吾々がフランスの葡萄酒及び絹製品を措いてポルトガルの葡萄酒及びロンドン絹製品を選ばねばならぬかの、十分な原因を知らない。赤葡萄酒を自國で造らうといふ企てに使用される以上の英國の資本と勞働とがそれを購買するに今でも使用されてゐると同一の理由によつて、フランスとの貿易が擴大された場合には、ポルトガルの葡萄酒を購買し且つスピタル、ファイルド及びダアビの絹製品を造る爲めに今使用されてゐる以上の英國の資本がフランスの葡萄酒及び絹製品を購買するに使用せられるものと、吾々は正當に期待し得よう。

同時に、この種の變化を期待するに當つて、吾々は常に、特に我國人民の現實の境遇に於いては、アダム・スミスの暗示せる賢明な注意に留意しなければならぬ。制限なき取引の利益を十分に確信して彼は曰く、『或る期間妨げられてゐた後に外國財貨の自由輸入をどれだけ且つ如何にして恢復するのが正當であるかが時に愼慮を要する事柄である場合は、特定製造業が、それと競争の地位に立ち得べき總ての外國財貨に對する高き關稅と禁止とによつて、多數の人手を使用する迄に擴大せられてゐる時である。この場合に於いて人道は、取引の自由は、單に遅々たる順序を経且つ多くの留保と愼慮とを以てのみ、恢復せらるべきことを要求する。かゝる高き關稅と禁止とが突如として除去されるならば、同一種類のより低廉な外國財貨は、極めて急速に國內市

場に流れ込み、爲めに突如として多數の者は彼等の通常の職業と生活資料とを奪はれるに至るであらう。』(註アダム・スミスによつてこゝに與へられた注意は、確かに極めて顯著に、絹貿易に當てはまる。そしてフランスと貿易を開くことが如何に望ましからうと(そして極めて疑ひもなくそれは望ましいが)、フランス絹製品の突然の且つ不注意な輸入許可は、我國勞働階級の現在の慘苦を救治せずして加重するの傾向があるであらう。

註 Wealth of Nations, Book IV, ch. vii, p. 302, 6th edit.

特有の事情の下に於いて、國の慘苦が、以前には制限を蒙つてゐた或る取引の開始によつて、加重される、總ての場合に於いては、『國の内外の』勞働によつて測定されたる全生産物の交換價值は、一時の間減少されるであらう。併し一般に、私が本章の第八節に於いて證示せんと努めた如くに、國の内外雙方の取引の總ての擴大の自然的且つ永續的傾向は、全生産物の交換價值を増大するにある。このことは、通商路を變ずることなくして、吾々がそれを大いに且つ明かに増加し得る時には、より特別に事實である。財貨はこの場合には部分的且つ一時的の害惡によつて止められない。國の生産物のかゝるよりよき分配は、その消費者の欲求及び嗜好へのかゝるよりよき適合は、直ちにそれにより大なる市場價格を與へ、且つ直ちに國民收入、着實なる利潤の率、及び勞働の勞賃を増大するであらう。

全生産物の交換價值の増大の第三の原因、すなはち不生産的消費者の維持に就いて云へば、— 多くの者はこの點に於いて有用たるの能力を有たないであらうが、他の者は何事かを爲し得よ